

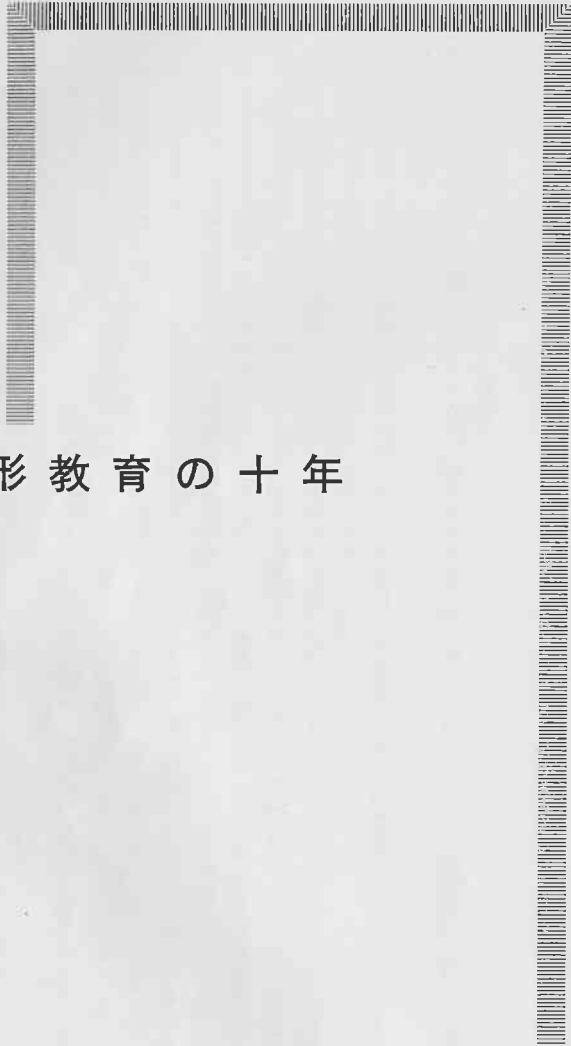
# 造形教育の十年



1960

北海道造形教育連盟10周年

昭和三十五年七月三十日刊



造形教育の十年

北海道造形教育連盟



祝

辞

北海道教育研究協議会会長

齋藤七郎治

わが協議会のメンバーである、北海道造形教育連盟が結成されてここに十年、これを卜して記念誌を発行されるとのこと、まことに慶祝に堪えない。

北海道造形教育連盟は、はじめ、北海道図画工作連盟と称し、北海道の各地域に、研究目標を等しくする者が集まって、自主的に結ばれた図画工作の研究団体が全道的に結集したものである。

随って、目的は本道図画工作教育の振興にある。而してその目的達成のために、まず研究会講習会展覽会が毎年開催せられてきたのであるが、研究会だけを見ても、第一回の札幌大会から第九回の帯広大会まで、道内各都市をめぐって会場がもたれその地域地域に大きな推進力を培った功績はまことに大なるものがある。さらに事業の中の「図画工作に関する教科用図書の編集」については、さきに、現場の要望に応じて「北海道図工の学習」を刊行し、多くの先生方に学習指導上の貴重な資料を提供し、さらに文部省が教科書の四分の一を改訂して地方版を出すことを認めるや、東京書籍の教科書に北海道の生活と感情を盛り込んで、全道の教師に真価を問うたことは、まことにその英断と熱意とは深く敬意を表せしめられたことであった。さらに本連盟が、事業の中にうたっている「他の研究組織との連絡提携」のことであるが、とかく同志的結合体は、他の研究組織と相容れない面が生じてくるものであるのに、その弊を克服して、他と常に和し、大きなひとつの目標に向かって進んできたその大度は北海道協議会としても、いろいろな面で益せられてきた。

以上のような業績の中に、いよいよ情熱の盛り上りをみつつ、結成十年を迎えられたことは、これからの活潑な活動が期待せられて、本道教育推進のため真にうれいことである。北海道教育研究所では、本道の各科教育史を発行したが昭和二十年までの記録である。若しその後の教育史が編まれるとすれば、この「北海道造形教育連盟」の業績は高く評価せられて、線、逞しく、彩美しく収録されることになるであらう。

終りに、十年の歴史の上に立って、今後の生々たる発展を希って祝辞とする。

(札幌市大通小学校長)



第六回全道・第九回全国大会役員

## 連盟の十年に想う



第九回全国図画工作教育大会委員長

佐藤麟太郎

北海道が第九回の全国図画工作教育大会を引受けることになったから大会準備委員長となって総しめくくりをしてほしいと依頼されたのが、昭和三十年十二月頃であったと覚えている。翌年の二月に入ってから本格的に組織が動き出したが、実際に仕事を進めてみると容易ならざる大事業であることが、いよいよわかった。しかし、造形連盟の全能力が一体となって苦闘をしたので、八月に開催した三日間の本大会は、他府県に勝るとも劣らない成果を挙げることができ、そのため北海道の造形教育も一大躍進を上げ得たと信じている。今年には連盟十年の記念に当ると聞いているが、今後とも全道の組織をさらに強固にして絶えざる前進を続けてほしいと思う。

(札幌市静修学園長)



## 祝 十 周 年

石 附 忠 平

わが造形教育連盟が十周年を迎えることになったようですが、まことにお目出たいことに存じます。何よりも敬意を表したいことは、その結合が年を重ねると共に若々しく新鮮であることです。少しもその組織が硬化したり老朽したりしないことです。

これは結び合う方々が、常に、邪念を離れてひたすら自分の研究や嗜好を、児童生徒の生活の大地に根を下ろして、その生々発展を法悦していることによることと存じます。

縦に下ろした愛情の根が、横に結び合う信頼の枝葉を繁らして生きているのだと思います。造形教育連盟年々歳々常に新たな姿を思い浮かべることが私の大きな感動であります。

私は十年前、造形教育の分野が教科書もなく、一つの纏まりを持たなかったことと、また自然と人間の形象と魂に一番具体的に触れる造形教育が地域性を多分に持つものであることに鑑みまして、小学校用の学習書「北海道の図工」を各学年にわたって編纂する企画を持ちましたところ、造形教育連盟の方々が積極的にこれを取り上げて下さったことは、私の生涯に取つての大きな感激の一つでありました。

何より敬服いたしましたことは、さすがは現場で鍛えた方々であっただけに、指導方針が適確であったことは勿論であります。各学年の学童の習作や成績品の適確な勝れたものが山程あつて、全国にもまれな立派な学習書が出来上がったことであります。

連盟の方々が平素、どんなにか、この道の指導に心を打ち込んでおられたか、敬服に堪えないことで、心中ひそかに大きな誇りを誇ら持ったものであります。

後に図工の分野にも文部省の検定による教科書制がとられることになったのですが、その折、中央の教科書会社も、この「北海道図工の学習」を範として、その様式、その資料を取り入れましたことを見まして、わが北海道の図工教育の多年に亘る底力の蓄積ということをはつきりとの目で見ただけでありました。この道を愛する精神、その精神に基く協力、継続する努力、この漲る力は、十周年を迎え、いよいよ堅く、これからもいや継ぎ継ぎにゆるぎなく、本道の図工教育を力強く発展させると共に、それが本道教育を推進する大きな支えとなるであろうことを確信し期待いたします。

(北海道教育評論社社長)

祝 辞	……斎藤 七郎治
連盟十年に想う	……佐藤 麟太郎
祝 十 年	……石附 忠 平

連盟十年をむかえて……

委員長…野村英夫(6)

北海道図画工作連盟の発足当時

……桜井 忠(7)

連盟の十年……新妻 清(11)

全道造形教育研究大会

第一回 札幌市	……(66)
第二回 札幌市	……(67)
第三回 旭川市	……(68)
第四回 函館市	……(71)
第五回 釧路市	……(75)
第六回 札幌市	……(79)
(第九回 全国図画工作大会)	
第七回 室蘭市	……(89)
第八回 小樽市	……(93)
第九回 帯広市	……(96)
第十四回 網走市	……(100)

サークルの十年

渡島	……(20)	留萌市	……(47)
函館市	……(22)	留萌	……(47)
松山	……(24)	稚内市	……(50)
後志	……(25)	苫小牧市	……(51)
小樽市	……(27)	名寄市	……(52)
札幌市	……(32)	南空知	……(54)
江別市	……(34)	北空知	……(56)
室蘭市	……(35)	岩見沢市	……(58)
夕張市	……(36)	根室市	……(60)
中空知	……(37)	釧路市	……(61)
美瑛市	……(40)	十勝	……(62)
帯広市	……(42)	網走市	……(63)
北見市	……(42)	上川	……(64)
網走	……(44)	旭川市	……(65)
宗谷	……(46)		

造形そうらん	……(102)
造形教育連盟規約	……(106)
役員・地区委員	……(107)

も く じ

— 顧問・講師・来賓 —

同じ道・高い道	……繁野三郎(10)
全国大会あれこれ	……樋口秀雄(12)
自分を見つける教育	……藤野高常(13)
歪められた教育	……井田俊末(25)
祝十年	……坪内千秋(26)
吉田五左衛門先生	……(28)
北海道というところ	……湯川尚文(32)
造形連盟十周年を祝して	
	……佐藤 諒(43)
結成十年に	……花岡 一(45)
縁深きを想う	……森 桂一(48)
神技でも不可能	……朝倉力男(73)
きびしい和やかさ	……樋口 賢治(103)

— 随想 —

阿寒観光の思い出	(20)	連盟と共に	(22)
声を大に	(30)	連盟の生長と常任委員の横顔	(29)
連盟お目出とう	(37)	思いのままに	(38)
絵がすぎで	(40)	全国図工大会の当時	(41)
躍進あるのみ	(49)	流転	(52)
凝り性	(54)	十年の回想	(55)
私の十年	(56)	つくり出す力	(58)
ごく最近	(59)	よりよい前進	(64)
あれから	(67)	造形連盟高校部のこと	(70)
しめて十六号	(76)	ふし目	(78)
あのころ	(84)	そして十年	(92)
創立十年の時に	(99)	造形教育十周年を省みて	(104)
連盟酒豪小伝	(105)	忘れられない	(105)
十周年を迎えて	(108)	後記	(108)

他人を感動させようとするならば、まず自分が感動せねばならない。そうでなければ、いかに巧みな作品でも、決して生命はない。芸術はなぐさみの遊びではない。それは戦いであり、ものをかみつぶす歯車の機軸である。

— ジャン、フランソワ、ミレー —



### 連盟十年をむかえて

北海道造形教育連盟委員長

野村英夫

北海道造形教育連盟の十周年をむかえて、記念事業の一環として、ここに「本連盟十年史」を発刊の運びとなりましたことは、全道の造形教育の推進にたづさわる同志のみならずとも心からよろこびにたえません。私どもは造形教育を通じて、子どもを明るく、すなおな、正しい人間に育てようと全道のみならずまたちと手をつなぎ、心をあわせて努力してまいりました。また私どもの努力によって少しでも造形教育が人間を作るのに大切な教科であるということ、広くすべての人たちに理解していただくよう進んでまいりました。

戦後十余年の間、新しい教育の理念と実践によって、個人の尊厳を重んじて、真理と平和を愛行する日本文化国家建設の精神的支柱と現代文化の発展に欠くことのできない造形芸術の基礎教科として重要な使命を果たしてきました。

即ち創造し実践することによって学ぶこの教科の特質を發揮し、自主的造形活動を通じて感覚と造形技術を陶冶して、芸術性豊かな人間性と、生活して行くエネルギーや産業を営む基礎的能力の啓蒙に最善を尽くしてきました。その成果、漸くわが北海道の造形教育が日本の水準にまで達しつつありますことは、私どもの深く誇りとしているところでもあります。

昭和二十五年、札幌を会場として全道的な図工工作教育の研究大会が行われました時、「北海道美術教育会」(仮称)が誕生しました。これが今の造形連盟の前身でありました。その後連盟結成以来、札幌、旭川、函館、釧路、室蘭、小樽、帯広と、毎年各地を大会場として研究会を続けてまいりました。本年第十回の研究会を網走で開催することになりました。

私どもはこの意義深い十周年をむかえるにあたり、全道の女性組織を二層旗固にして風雪十年にわたる足跡を反省し、さらに北海道の造形教育推進のためこの十年史をまとめました。初期の計画は造形的な感覚を備えた立派なものにしようとする努力をしたのでありますが予算の関係から期待に反した粗末な小記録史に終わってしまいました。この点せつかく玉稿を賜りました方々に深くおわび申し上げます。

然しながらこの小誌を通じて本連盟の姿を少しでも御理解いただき、今後連盟の発展のため色々と御指導いただければこれに過ぎたものはありません。終りに十年史を作製するにあたり、御祝辭を賜りました方々に厚く御礼申し上げます。編集を担当された新妻事務局長 砂金、伊藤、藤野、太田諸兄の編集部に深甚なる謝意を表します。(札幌市東小学校長)

### 北海道図画工作連盟の 発足当時

桜井忠



昭和二十六年七月、北海教育評論社では北海道の地域性に即した小学校用の図工の学習書(準教科書)を作成することになり、その執筆・編集を札幌市内の現場の先生方に依頼することになった。

同年八月一日にその第一回目の編集会議が開かれたのであるがこの執筆・編集に参加された方々は左記のようである。

- 野村英夫(円山小) 新妻 清(幌西小)
- 和田芳郎(北光小) 砂金 隆(豊水小)
- 長井孝二(幌南小) 赤石 武士(三条小)
- 伊藤 恵(附属小) 堂野 重治(苗穂小)
- 佐藤 蔵(大通小) 能登谷 正宣(西創小)
- 笹原 亮(中央創小) 佐藤 秀雄(苗穂小)

この時はまだ小学校の図工科には教科書というものがなく、現場ではその指導の手がかりとして、準教科書の必要が痛感されていたので、一同は張り切って、全道の立場において、全く独自の理想的なものを編集することになった。

この第一回目の会議では、編集の担当部門をきめただけであつ

たが、その担当は、まず描画のうち想画と絵画を新妻、赤石の両氏、写生画を能登谷・佐藤熊・笹原の三氏、色彩を砂金氏、図案を和田氏、工作は伊藤・長井・堂野・佐藤秀の四氏で担当し、鑑賞は各部門ごとに附帯的に扱うこととし、いっさいの進行は野村氏がやることになった。

この五つの部門は、それぞれ分科会を持ち、一年から六年まで系統的に教材を選び、それを学年別編集に切り換えて、全体の体系を整えるというのであった。

この編集に対する熱意と努力は実に驚くべきものがあつた。一年から六年まで全六冊を全部原色版で仕上げようというのであるから、われわれ評論社のもも全く命がけの大仕事であつたわけである。

無から有を生み出すとする連続の編集会議が、全道的な図工科教師の連盟を生み出す母体となつたのは極めて自然な成り行きであつた。昭和二十三年にはすでに北海道国語教育連盟が発足し昭和二十四年には北海道算数・数学連盟が、また昭和二十六年五月には北海道社会科教育連盟が再発足し、この図工の編集会議に没頭しているころには、上記の三連盟は、準教科書でなく、正真正銘の検定教科書(北海道版)の編集に馬力をかけている最中であつた。

しかし、この準教科書編集に集まっている人たちは、小学校の方々だけであつたので、全道的な連盟を作るためには、まず札幌市内の中学校の方々の賛同を得ることが必要であつた。昭和二十六年十一月六日に、札幌市内の小・中学校の図工の先生方の合同会議が開かれ、全道的な連盟結成について協議し、満場一致をも

つてその結成にあたることになり、新妻清氏等の委員が規約の草案を作成することになった。同年十一月十七日には、再度この合同会議が開かれ、規約草案の審議と、全道に呼びかける段取、結成大会の日取りやその他異般にわたって協議された。

かくして、次のような案内状が、各地区の図工サークル(あるいは個人)に対し発送された。

北海道図画工作連盟(仮称)

結成準備委員会並びに結成式案内状

私たちは本道における中・小学校の図画工作教育人の温かい連絡提携を計りたく、茲に北海道図画工作連盟の力強い組織を持ちたい念願に燃えております。

就きましては、私ども発起人において一応別紙の通りの規約草案を作ってみました。貴見におかれましては、できますなら貴地方の研究有志の方々にこの草案をお示し下さいまして、この草案につき御意見をお聞き下さい、御多忙中誠に恐れ入りますが左記要領の結成準備委員会並びに引続き行いたい結成式にもぜひ御参加下さいませよう切望いたします。

なお貴校長殿にも出張につきお願いの手紙を差出しましたので、貴見よりも宜しく御連絡のほどお願い致します。まずは御案内まで。

記

日時十一月二十四日(土)

午後一時より準備委員会並びに結成式

場所 葉事会館(札幌市北二・西二)

午後一時までに同館にお集まり下さい。

昭和二十六年十一月十二日  
発起人(順序不同)

- 野村英夫(円山小) 新妻清(幌西小)
- 和田芳郎(北光小) 赤石武士(二条小)
- 砂金隆(豊水小) 堂野重治(苗穂小)
- 佐藤秀雄(苗穂小) 能登谷正宣(西創小)
- 笹原亮(中央創小) 長井孝二(幌南小)
- 伊藤恵(附属小) 佐藤熊蔵(大通小)
- 坂爪誠(北辰中) 太田達雄(北辰中)
- 中村和夫(北辰中) 笠井忠郎(一条中)
- 大高賢一(一条中) 小林保(柏中)
- 小林強太郎(柏中) 土門孝(幌東中)
- 藤野隆(美香保中) 鈴木嘉吉(向陵中)
- 寺本皓(中島中) 三谷哲司(附属中)

発起人代表

野村英夫

仮事務所

北海道教育評論社

かくして昭和二十六年十一月二十四日、全道各地から馳せ参じた左記の方々と、前記の発起人の方々によって、とどこおりなく準備委員会を終わりに、ここにめでたく北海道図画工作連盟が結成されたのであった。

- 加藤彬(函館的場中) 乙部幸吉(函館附属中)
- 井田俊末(小樽花園小) 若松六弥(小樽東山中)
- 金子武志(旭川常盤中) 泉秀雄(旭川日新小)
- 但野栄一(岩見沢東光中) 清水石政雄(苫小牧西小)
- 小池田竹松(室蘭大沢小) 鷲見憲治(北見南中)

- 小山田武(釧路東中) 本間孝平(留萌中)
- 平塚義雄(帯広小) 高橋彦七(夕張紅葉山小)
- 諏訪田勝衛(江別小) 石井幸作(滝川江陵中)
- 増谷久利(上川名寄小) 富田鉄雄(十勝大樹小)
- 谷内寅次郎(登別温泉小) 間宮勇(岩内東小)
- 伊東将夫(三笠中央中) 上野義信(門別清島小)
- 木村晴一(遠軽中) 滝村虎雄(渡島亀田小)
- 佐藤秀雄(網走北浜中)

なお、この結成大会において、規約にしたがい次のように役員が選出された。

- 委員長 野村英夫(札幌円山小)
- 副委員長 井田俊末(小樽花園小)
- 同 泉秀雄(旭川日新小)
- 同 鈴木嘉吉(札幌向陵中)

役員選出後、連盟の事業について協議され、進行中の「北海道図工の学習」の編集は正式に連盟の事業として取りあげられることに決定した。次に委員長委嘱の委員及び常任委員の所属が発表され、来賓祝辞として、北教組文教部長千葉大作氏、道教委指導主事土肥次男氏、北海教育評論社長石附忠平氏がそれぞれ激励の言葉を述べられた。

以上は本連盟が誕生するまでの一応の経過であるが、前記のような全道各地区の研究サークルの代表の方々を選び出していただくためには、北教組文教部及び各地区の文教部、道教委指導課の援助なしにはでき得ないことであった。このことは特に記録しておく必要があると思われる。

かくして、北海道図画工作連盟編集の「北海道図工の学習」(準教科書は、昭和二十七年、昭和二十八年、昭和二十九年の三か年にわたって継続発刊され、本道小学校の図工教育に対し多大の寄与を成すことができた。ところが、昭和二十八年、全国小学校の要望が取りあげられて、文部省は、昭和三十年から全国小学校は、文部省検定の図工の教科書を使用すべきことが発表され、その検定教科書の出願しめ切りは昭和二十八年十二月二十八日と発表された。

昭和二十七年十月十七日、札幌市内の町村会館に全道図工協議会を開き、連盟編の「北海道図工の学習」の大改訂のため、その総力をあげてきた本連盟は、この文部省の発表を見てだまっていたことはできなかった。国語・算数・社会科の連盟のごとく本連盟もただちに北海道のための図工教科書の編集のために立ち上がったのは、当時としては誠に当然のことであった。

しかし、このような大事業は、連盟の総会にかけなければならぬ。昭和二十八年八月八・九・十の三日間、旭川市日新小学校で開かれた第三回全道大会の際開かれた連盟総会にこの案件が提出され、北海道版教科書編集のことが満場一致をもって決議された。その出版会社は北海教育評論社に一任するという事になった。その後、北海教育評論社は、北海道版図工教科書の発行を快諾された東京書籍株式会社を連盟に推薦し、連盟はこれを受諾し、ここに検定教科書の編集が開始されることになった。このため東京書籍の編集部長、同次長が来道され、さらに連盟からは、新妻清・赤石武士・砂金隆の三氏が上京し、北海教育評論社からは、わたくし(桜井)が三氏と同行して編集に関する詳細な打ちあわ

同じ道・高い道

繁野三郎

自分の歩んできた図画教育のことを顧みると、幾多の変遷が思い出される。

最初は図画教育という言葉すらなかった。如何にして図画をうまく画くかということに没頭していた。この頃は唯の図画であったが、やがて図画の学習を通して、よき人間の形成をと考えつてからは、図画教育といわないとどうも薄っぺらに思えてならなくなった。

学習の方法も臨画から想画・写生・図案等豊かなものとなり、画材にはクレヨンなる物珍しいものも現れた。しかし何んといつても図画教育者の心を、大きくゆさぶつたものは、山本鼎氏の自由画教育論であった。それが大正九年頃には、北海道にもそれを實際教育にどう生かそうかという兆しが見えそめた。かくして国定教科書は無力のものとなり、私の在任していた北九条小学校では、一斉にその購入を差し控えるに至った。

昭和五年に私が北海道出版社に迎えられて、そこに図画研究部を新設してからは、図画指導員として道内くまなく幾度も迎えられた。かつて日高の津波にはばまれて、引き返した以外は、二十年の指導の旅に、一度も時間に狂いなくその役目を果し得た。北海道連合教育会時代も全く同様であった。その遍歴の一端が最近刊行された北海道教育史に、現在連盟の幹部の先生方の勉強ぶりと共に、記念の文字として刻まれている。

道造形教育連盟は結成されて既に十年、私が先きに歩んだ同じ道であるが、今日は大きく結集された立派な力によって思い及ばぬ高い道に到達されつつある。私はその発展を祈り続けてやまない。  
顧問 (美術教育家)

連盟の十年

連盟事務局長

新妻清

終戦後の混乱期を漸く脱出したとはいうものの、戦の傷痕は人々を苦しめていたし、どの人も心の光りを求めていた頃、過去のゆがめられた教育から脱却して、子供達に生命創造の表現活動を与えたいと考え、美術教育の振興を図ろうとする同志三十五名(小学校側十五、中学六、高校九、学大五名)が札幌美術連盟を組織したのは昭和二十四年四月であった。

- 会長 藤野高常氏(札幌学大)
- 副会長 野村英夫氏(札幌山小)
- 幹事長 佐藤熊蔵氏(札幌大通小)

せをした。

昭和二十八年九月二十六日、だいたいの編集原案ができあがったので、札幌市内の労働会館で全道図工協議会を開き、連盟各地区委員の全員集合を求め、検定教科書の大編集会議が開かれた。この会議こそは全く前代未聞のことであり、恐らく今後といえどもちよつと開かれぬであろうところの現場優先の大会議であった。

この大会議の後、野村英夫委員長が東京書籍と連絡のために上京し、さらに和田芳郎氏が上京した。

昭和二十九年二月十三日、札幌市大通小学校で開かれた全道図工研究会では、検定出願中の北海道版教科書の間報告が行われた。

ついに合格決定。それは当然といえはそれまでだが、編集当業者はもちろん連盟自体の光栄でもあった。かくして北海道は、北海道自身のために、北海道の現場人によって作られた国語・算数・社会・理科・図工の五つの教科書を持つようになった。

しかし、このような現場優先を黒い魔の手は許すべくもなかった。反動のあらしは教育全体をつつんでしまふようになった。昭和三十年八月十五日から約一週間、北海道に乗りこんできた行政監察特別委員会というものが、教科書を編集した各連盟をジーンモンした。ジーンモンした根拠は編集したことが悪いというものではなくこれが普及について団体の圧力があつたのではないかということである。しかしどこにもそんな事実は無かった。それにもかかわらず、文部省はそれ以来、全国的に連盟などという団体が教科書を編集しても合格はさせないということに決めてしまった。黒

い魔の手は、教育現場の自主性をことごとく切り取る。そのため、せつかく苦心の北海道版教科書はことごとく姿を消してしまつたのである。

連盟結成以来、月日は夢のように流れて、今や満十年目を迎えようとしている。このあいだにおいて連盟は、本道はもちろん全国的にもひびくように目ざましい活動を続けてきた。

これからもますます一層の御活躍を祈つてやまない。

(北海道教育評論社副社長)

という役員で、先ず自己研修と組織強化目指して全道図画工作教育講習会を開いた。

昭和二十四年八月 四、五、六の三日間

講師 松田義之氏 西田正秋氏 高島達四郎氏

参加会員二〇〇名

会場 札幌・学芸大学

同年十月、第二回全国図画工作教育大会が京都市で開催されたので連盟委員の和田芳郎、伊藤恵両氏が参加し共に研究発表をした。帰道後、将来本道にも全国大会を招きたいなどと夢を語り合

564490



った。

同年十二月、道内五地区から個人的に美育連盟に加入したいとの報告をうけて我々は大いに気をよくしたものだ。

昭和二十五年四月、連盟役員改選して正副会長再任、幹事長新妻清（札幌幌西小）となった。

同年八月 一、二級資格更新のための講習会開催。講師に山形寛氏、小糸源太郎氏。閉会後も全道大会を開くことについて、藤野会長、野村副会長、道教委土肥主事、戸坂、新妻、和田、砂金掌野（今は故人）の諸氏が中心となって会談をもったが、九月に連盟総会を開き、その具体案を検討、いよいよ第一回の全道研究大会を開催することを正式にきめた。目標を図工教育の振興と全道組織の確立においたが、大会の費用については最も悩んだことだった。時たま時たま道教委は、情操教育振興のための（音楽、

## 全国大会あれこれ

第九回全国図工教育北海道大会副委員長

樋口秀雄

昭和三十年五月第八回東京大会の最終日、第九回開催地北海道代表として挨拶をした。「神秘の山河。清冷な夏の北海道」と大いにぶつと、第十回開催予定の愛媛代表も立って「常春の国。夢の国。」とぶち、とんだ。観光合戦となり大拍手を浴びたが来年は大勢来ると直観した。秋に東京代表が事

図工、演劇）研究会を開いてほしい意向があったので、全道地区からの参加を容易ならしめるためと、予算を出してもらうために道教委が主催することに話し合いがついた。しかし僅か一万円の予算ではどうにもならず、各メーカーの協賛を得ることにした。

情操教育振興第一回全道図画工作教育研究集会

昭和二十五年十一月十三—十五日

会場 学芸大学札幌分校附属小学校

目標○本道図工教育の現状報告をワークショップの形で行い、具体的共通問題について結論を見出す。

○本道図工教育振興のため全道小中高学大教員の大同団結をはかり組織をつくる。

主催 道教委、札幌市教育部

協力 札幌美育連盟、札幌研、学大、北教組、教育研究所

後援 富貴堂、大丸藤井、各絵具メーカー

講師 高橋正人氏

「現代図画工作教育の理解とその方法」

後藤福次郎氏

「自信を新にしましょう」

実演授業 石川勇、伊藤忠、三谷哲司

研究発表 中川大三、佐藤熊蔵、高橋良助

始めて大がかりな全道大会を持つというので、連盟の各人は初冬の日没、うす暗い校内を準備のため駆け廻り、一夜明けて大会当日、どつと降った初雪に参会者の少いことを心配したが、開会定刻には地方からの出席者も多数あって三四二名に達し、図工教

務引継ぎに来たが道連盟を中心に同志一丸となった大会準備工作の整然さに「東京ではとてもこのようにいかないですよ、何せ天狗が多くてね。」と述懐し、広い北海道のまとまりと真面目さに驚嘆していた。札幌大会は大盛會に終り全国から賞讃と満足の札状が殺到した。札幌市長主催の各県代表招待宴、本場ビールに一流美形を添えたことも気に入ったらしく、感謝の握手攻めであった。大会終了後、愛媛に野村氏と引継ぎに行った。県代表が「図工科出身の校長は珍らしい本県にはいませんよ」「北海道にはほとんど出ますよ」「そうありたいものだ」と目を伏せた。其後札幌には野村、新妻、赤石と本連盟出身の大校長が生れている。帰途野村氏と文部大臣に札幌大会決議を持って行った。内藤局長は全国教師の偏向を慨嘆し「あの態は何です」と私に食ってかかった。「美を追求するものに悪人はない、図工教育こそ人間形成教育である。時数減を止めて力を入れてくれ」と頼む。「養成機関を充実する」と返事した。

第十回愛媛大会には助言者として出席したが北海道に続けと仲々充実した西日本らしい大会であった。第十一回長野大会には北海道から三十数名出席したが野村氏は行けなかった。長野代表が「野村氏はどうした」と安否を尋ね、北海道大会を感謝し長野大会は「札幌のようにはゆかない許せ」と言った。

連盟各位。本連盟は全国から高く買われ期待されている。各位の精進を祈る。  
(札幌市曙小学校長)

育に対する熱意の旺盛なのに一同感激したことであった。大会第三日、全道的に組織の基盤を拡げるため札幌美育連盟を北海道美術教育会と改称し、会長には藤野高常氏を満場一致で推した。

北海道美術教育会という名称は、当時としてもいさか時代的ずれがあるという批判はあったが、一応仮称ということで前進することにした。しかし、どうにも未練気な暗雲が我々の頭上にかぶさって、なかなかそれが晴れない。というのは、当時この新発足にふみ切った我々同志のほとんど全部は、過去何十年の長年月を、北海道の美術教育の開拓に尽した実績者を中心にして運営することが、最も自然発生的であり、しかも親愛のつながりをもって発展への道を進むことができるという考えに立っていたのに対して、北海道の实情に薄い、しかも甚だ封建的ともいべき異質なものが、官僚的行政人事をそのままに押入って、石の如く腰を据えようとしていたためであった。こうした晦澁のうちに年を越して、

昭和二十六年三月 役員改選することにし、会長佐々木兼次郎（札幌大）副会長野村英夫（岡山小）寺井信一（札幌大）となった。

同年六月 色彩教育講習会を札幌市中島中学で開催、講師、日本色彩社細野尚志氏、参加一五〇名。

こうした集会などで必ず話題になるものは図工教育振興のための具体的方策であった。それには図工教育の専攻的教师よりも、一般教壇人に、理解してもらうことが必須な条件であるとし、そのためには、図工教育の要素的な修得のために教科用図書がなけ

ればならないという事が、地元の図工主任有志の間で真剣に話し合された。

時を同じくし北海道教育評論社の桜井氏から同様の話があつて期せずして意見が一致し、この準教科書編集の仕事が急速に進めることになり、小学校側十二名の編集委員をあげて、写生、描画、工作、図案、色彩の部門に分け、いわゆる自主的編成による図工カリキュラムの原案を九月中に完成するよう努力した。

しかし、全道の地域性に立脚したカリキュラムでなければ現場に適應しないので、農山漁鉱を含む各地の研究サークルから編集に参加してもらふことと、それらの現場人との民主的つながりが、この教科用図書の普及によって一層関連づけられ、全道一体の連携が可能となるとの観点から、久しく渋滞がちであつた全道の組織の拡大を図るため、全道各地域で独自に組織されている各サークルを結ぶ図画工作教育の連盟結成が急ピッチで進められてきた。

同年八月、各地区サークル代表三十一名集會し「北海道図工の学習」編集會議及び連盟結成の予備會談を開く。

同年十一月、北海道図画工作連盟の規約草案検討、札幌市小・中学校図工教師による結成発起人會を開く（小中学校ともに十一名づつ）。同月さらに連盟結成の地区準備委員二十三名を決め、結成大會の諸準備にわたり協議。

北海道図画工作連盟大會並に創立總會  
昭和二十六年十一月二十四日 札幌市  
薬事會館で。

初雪をみた札幌の寒さと愚路にかかわらず、団結と友愛を以て本道の美術教育を高めようという熱意に燃えて、全道各地区からの代表者と発起人その他地元札幌の小中学校図工科担当の人々も加え、米濱には札幌市教育部長佐藤藤太郎氏、道教委指導主事土肥次男氏、北教組文教部長千葉大作氏、同書記長星野健三氏、北海道教育評論社長石附忠平氏、桜井忠氏外四氏、画材関係各社の出席を得て開催した。

前年発足した、北海道美術教育會との関連について質問があつたが、美術教育會を構成している会員の殆ど全部が、そのままこの図工連盟の結成にふみ切つたというのは、ともに本道の美術教育を前



## 自分を見つめる教育

藤野 高 常

光陰一過、北海道造形教育連盟設立から遂に十年目が来ました。当初関係された方々も感慨無量のものがありました。今や連盟は全道の図工科諸先生の御協力と御精進により、形式、内容共に充実の一途を辿り、また道内各地区で開催される研究会も年々大活躍を遂げ、全国的な有数研究団体となりました。道内図画工作教育面に及ぼす有形無形の影響は寔に絶大なものがあることと信じます。茲に創立十年史を編集されると聞きましたが慶祝に堪えません。今後益々御発展を祈ります。

さて戦後既に十五年になりますが、眞の民主教育が確立されたのでしょうか、それは未だしという答をきくのが実情だと思われまふ。吾々はあらゆる努力を払って平和と民主的世界觀とを獲得せねばならぬと思ひます。そして、かかる時代における図工教育はその性格の上から、新民主教育推進のためには、非常に重要な教科であるということ銘記せねばなりません。この新教育の方向としても色々考えられますが、人間の社会適應の基礎である、自律性や創造性を養ふということが大切なものの一と考えられます。而もこの自律性、創造性こそは、図工教育の極めて重要な側面であり、その本然の姿でもあります。学校教育での図工教科取扱は、低学年、高学年を問わず、教材の如何に係らず、皆自律的な自己表現、個性、創造性の伸展という精神で行われていきます。即ち図工教育の指導精神は直ちに、人生の生活意義を省察し個々の人々が夫々自律的に幸福感を把握しようとする新教育理念に通ずるものがあります。重ねていう、新民主教育確立のために図工教育は、従来の如何なる時代の図工科にも増して重要教科であるというこ

とを。なほこの機会に自律性を取り上げてきた関係で、このことに就いて少し考察してみましよう。

自律的行動、自主的行爲がどんなに気分のよいものであるかを考えてみましょう。先づ同じ仕事でも他人の意志で強いられた、即ち他律的な行爲である場合は、誰でも拘束感、義務感、責任感、圧迫感、不自由感が伴います。こんな味の悪いことはありません。馬なみか牛なみであります。然らば自律自主の気持でする仕事は如何になりますか。これは仕事が積極的性質であります。仕事に代償価値を求めない。仕事が楽しい。仕事そのものが目的であります。即ち方法と目的とが分離しないで一致して、カント以降のいわゆる無関心活動に近いのです。そしてこの事は即ち一切の仕事が純粹性をもちつことになり、四角な座敷を円く掃かないことになります。また義務、責任、拘束感を持たぬために疲労感が少く随つて能率がよいわけです。仕事の動因が他人の意志になるので自己の個性が顕著に出易く、其の上積極性と純粹性と不拘束からくる愉悅性からは、創造性がどんどん生れてきます。所謂陶酔であつて、仕事と自己とが一体融合して区別が出来なくなり、これこそ芸術創造の姿そのままに通ずるのであります。

ここ迄考えて来ると、吾々は一歩進めて、一切の日常の職業活動をもこの要領で、即ち精緻な理性と豊雅な感性の調和によって、苦痛感即ち責任義務拘束等から解放され、楽しい明るい自己活動個性活動創造活動に迄もつてゆかねば本ものではないと思ひます。太古人の生活は一元的であつたといわれる。禁断のリンゴを喰べてから古代中世人は二元の生活に苦しんできました。自然と精神、自由と必然、理性と感情、本能と道徳これらの二元生活に苦しんで通してきました。近代人は再び一元の世界觀を何とか工夫しなければなりません。青い鳥は一元の世界に好んで棲むといひます。自分を見つめる能力習性をつけてやる事が図工教育の大事な一眼目でありまふが、それがやがて将来いよいよ日本人をつくる教育精神でもある筈だと信じます。——顧問——

(北海道学芸大学教授)

進ませようという熱意を持つてはいるものの、それをどんな形で具現したらよいかという事では、必ずしも同じような条件ではなかった。つまり、小中学校の現場にある者がひとしく痛感していた教科書を作るためには、より一層、全道を一体とした組織が必要であると自覚させられていたが、高校、大学の人達には、それほどの切実感がなかったようであった。しかし、これはこれで止むを得ない当然のこととも考えられたが、この断層をさらに深刻にしたものは、この純白な研究組織を、なにかに利用しそうな、おぞましい気配が見えていたため、これを除いて寂然たる姿にならなければ、正純な発展は望み得ないという事実を認めたらにはかならない、という結成に至るまでの経過の説明によって諒解された。

次に、連盟の性格、事業計画、組織、役員などを、規約審議と併行して話し合い、ここに本連盟は満場一致で結成され、引き続き、創立総会に入り、役員詮衡を終り、事業計画について各地からの意見や希望が出され、今後の活潑な活動と各地の組織を固める熱意が述べられた。

**北海道「図工の学習」発行を決定**

この頃、中学校の図工教科書は昭和二十七年から検定本を使用することになっていたが、これに先行すべきはずの、小学校用教科書は認められていなかったため、本道の地域性に立ったカリキュラムの確立と、それに伴う図工学習書が必要であるという結論に達し、編集は連盟常任委員に一任され、北海教育評論社に発行を依頼し、これが普及については連盟全員が協力することを拍手を以て可決した。

終りに来賓の祝辞や激励のお言葉があり、窓外は寒夜ながら会場内は和やかな雰囲気の中に本連盟が誕生した。  
連盟機関紙第一号発行。昭和二十七年一月。連盟旗の寄贈をうけた。王様クレヨンの商会から連盟結成を祝して大型一小型二である。

**第二回全道図画工作教育研究大会**

昭和二十七年八月、札幌曙小学校

講師 室 靖氏 湯川尚文氏 (久保貞次郎氏は病気のため不参加)

主題「創造主義美術教育の諸問題」

1 美術教育とはどういうものか。旧美術教育とどこが違うか。

2 普通教育における美術教育の位置

3 低学年及び少年期の実際指導について。

4 子供の絵の見方と展覧会のあり方

5 子供の絵の発達段階とその現れ方

6 美術教育者の像

この大会で湯川講師は「お話を絵にかく」授業を上演して感銘を与えた。

本大会は連盟の名における最初のものであるが、前年の北海道美術教育会主催のもと、実質的運営メンバーが同じなので、本大会を連盟主催の第二回目とすることに全員が諒承した。

**改訂版「図工の学習」編集協議会**

創立総会で決定した昭和二十七年版を、各地の要望意見に基づいて昭和二十八年版から各学年共原色刷と単色刷の交互とし、嶄新

な企画とするため、各地区代表の総意を得て、昭和二十七年十月札幌市、町村会館で協議した。左記は当日の出席委員

- 諏訪田 勝 衛 (石狩地区) 辻 悦 平 (同)
- 伊 東 将 夫 (南空知) 石 井 幸 作 (中空知)
- 一 戸 信 雄 (北空知) 間 宮 勇 (後志)
- 新 明 謙 治 (松 山) 滝 村 虎 雄 (渡 島)
- 松 尾 秀 夫 (胆 振) 佐 藤 哲 夫 (日 高)
- 富 田 鉄 雄 (十 勝) 小 向 昭 一 (釧 路 圏)
- 横 山 和 夫 (根 室) 木 村 晴 一 (網 走)
- 梅 沢 勇 (上 川) 沢 田 文 吉 (宗 谷)
- 高 山 和 夫 (留 萌) 中 村 幸 元 (岩 見 沢)
- 木 下 勘 二 (夕 張 市) 和 田 秩 (美 瑛 市)
- 木 村 良 (函 館 市) 小 池 田 竹 松 (室 蘭 市)
- 清水石 政 雄 (苫 小 牧 市) 平 塚 義 雄 (帯 広 市)
- 小山田 武 (釧 路 市) 菅 原 隆 治 (北 見 市)
- 佐 藤 秀 雄 (網 走 市) 山 田 東 之 助 (旭 川 市)
- 鈴 木 一 徳 (稚 内 市) 井 田 俊 末 (小 樽 市)
- 富 田 嘉 子 (小 樽 市) 塚 本 正 (小 樽 市)
- 志 村 猛 (留 萌 市) 野 村 英 夫 (札 幌 市)
- 新 妻 清 (札 幌 市) 砂 金 隆 (同)
- 和 田 芳 郎 (同) 伊 藤 秀 雄 (同)
- 佐 藤 熊 蔵 (同) 佐 藤 秀 雄 (同)
- 藤 野 隆 (同) 土 門 孝 (同)
- 長 井 孝 二 (同) 高 橋 栄 吉 (同)
- 渡 辺 勝 (同) 赤 石 武 士 (同)

- 中 川 大 三 (同) 能 登 谷 正 宣 (同)
- 成 田 一 男 (同)

昭和二十八年五月

日仏協会提供の美術映画による全道図画工作教育研究集會を札幌東中学で開く。

講師 末松正樹氏 授業者 中山敏秀氏 (工作)

**第三回全道図画工作教育研究大会**

昭和二十八年八月 旭川市で開催

昭和三十年から小学図工の検定制が実施されることになったので図工の学習法を検定教科書に切り換えたい、との声が多く現われ、本大会の連盟総会にこれを提案したところ、満場一致の賛成を得たので、北海教育評論社の桜井氏が立って、連盟の総意を盛りあげた優秀な教科書を作成するため、良心的な出版社と提携することを約束した。その後、各社と交渉したところ「東京書籍株式会社」が全国版編集の企画もあり、且つ連盟の希望を満たし得るとの確約を得たので、これに依頼することにした。

同年九月、この意向に基づいて東京書籍の編集部から二名が来道され、ついで連盟からも新妻、赤石、砂金の三名と評論社桜井氏が資料作品を携えて上京、高橋正人氏を中心とする東京側編集委員会と合同会議を開いた結果、本連盟との編集上の提携が具体化し、全国各地に適用しつつ北海道の地域性に立脚した北海道版教科書を作ることに決定した。

しかし、検定出願日まで、あと三ヶ月を余すのみという時間的制約を受けていたので、編集原案の完成を急ぎ、同年九月末、札幌市労働会館に全道各地区代表委員の出席を得、東京から高橋正

人氏も来札して、合同の大編集協議会を開き鋭意編集に努力した。

その後、連絡のため野村委員長上京。

第四回全道図画工作教育研究大会

昭和二十九年七月 函館市で開催

図工の学習書使用今年限りとなる。

構成教育に関する研究会

昭和三十年五月 札幌中央創成校

授業 配置配合について 平山 潔氏

講師 小池藤雄氏 「現代美術教育の動向について」特に工作

教育の不振とその対策について究明

図工教科書が検定に合格した。

第五回全道図画工作教育研究大会

同年九月 釧路市で開催

昭和三十一年二月四日

第九回全国図画工作教育大会を札幌市で開催するにつき、準備

委員会の結成を、札幌あかしや荘で開き地区代表委員と協議し

た。

同年同月五日

検定教科書の地方版廃止が文部省から出されたので、カリキュ

ラムの改訂と、本道の実態に即した指導書を編集するため、あ

かしや荘で地区代表委員による編集会議を開く。

第九回全国大会の準備調査のため連盟代表八名上京、部門別に研

究して帰る。

第六回全道図画工作教育研究大会及第九回全国大会を札幌市で開催

く。

同年八月七、八、九日

会場 札幌市スポーツセンター、中央創成小、曙小幌南小、

講師 今泉篤男氏、勝見 勝氏、井手則雄氏

同年八月末

三十三年度全国版教科書のカリキュラム編成並に指導書打合の

ため、資料作品の編集原案を持って、赤石、和田、伊藤忠の三

氏上京東京編集委員と合同会議を開く。

昭和三十三年一月

第九回全国大会事務処理のため、野村委員長、樋口大会副委員

長等、四国会場地の松山市へ出向。帰途文部省に立寄り、札幌

大会での決議事項「図画工作教育振興法案早期実現方につい

て」外三項をまとめて陳情請願した。

同年八月

「美術教育における写真より抽象への指導」をテーマとして、

札幌市立東園小学校が自主的に研究会を開くに当り、本連盟は

これを援助して全道研究会とする。

講師 西田秀雄氏

第七回全道図画工作教育研究大会

同年九月 室蘭市で開催

中学図工科危機突破運動推進

同年十二月

文部省教育課程審議会中等分科会から、中学図工科の分離、い

わゆる美術、技術、家庭科、時間削減の答申案が発表されたの

で、中学図工科の学力低下を憂え、この図工科の危機を現場人

同年同月 札幌円山ハウスで創造美術北海道大会開催。連盟

はこれを支援した。

同年十月

指導要領改訂の新段階に対処するため、本道の実態に即した小

学校図工カリキュラムを、自主編成し、その研究協議会を札幌

市北九条小学校で開催。

昭和三十五年三月二十八、二十九日

三十四年度地区委員総会及び第二回研究発表会を開く。規約一

部改正。

先に編成したカリキュラムを基にして、指導書編集協議会を、

地区委員の外全道各地代表の出席を求めて、あかしや荘で開

催。

同年四月二十八、二十九日

中学校指導書の編集協議と、中学校現行の図工科の時間を、

二、二、二とするよう復元運動について、各地区代表委員に参

集してもらい、強力な推進活動を働きかけるように協議した。

なお全国的に展開されているこの運動を機会に、連盟は、全国

中学校図画工作連盟に加入することを正式に決定した。札幌あ

かしや荘で。

第十回全道造形教育研究大会

本連盟結成十年を記念して七月三十、三十一の二日間、網走市

で開催。

記念誌「造形教育の十年」を発行。過去の反省に立って新しい出

発を誓う。

(札幌市美香保小学校)

FFER

の結集によって突破すべく、全国的運動に発展、本連盟もこれに参加して図工科を守るため全道中学校のみならず、小学高校にも概文を配布して図工教師のけっ起を促し、同時に運動資金のカンパをお願いした。

同年同月 連盟事務局機構整備と共に、地区組織の拡大を図る。

第八回全道図画工作教育研究大会

同年七月 小樽市で開催

本年から、連盟の年間研究テーマを設定して、それを大会で具

体的問題に分けて討議することとし、さらに年度末には、一年

間の研究成果を発表し討議する研究発表会をもつこととした。

本年度テーマ「図画工作によって、児童生徒の人間性がどのよ

うに培われるか。―現場における具体的実践をとおして―」

連盟規約一部を改正し、地区委員総会で役員改選、業務計画等

の重要事項を審議することとし、従来行ってきた大会には、で

きるだけ研究のための時間を多く持つようにした。

昭和三十四年三月

三十三年度地区委員総会開催

図画工作教育の本質的観点から今後、北海道造形教育連盟と改

称することに決定。

第一回研究発表会開く。

第九回全道造形教育研究大会

同年八月 帯広市で開催

# サークルの十年

渡島地区

滝村虎雄

一、発足 昭和二十八年七月十四日  
当時の会員三十名

二、サークルの活動状況

1 研究テーマ

昭和二十九年年度 情操教育の効果的指導法  
昭和三十年年度 造形的創造性を高める指導

① 描画の指導 ② 色彩指導 ③ 評価

昭和三十一年度 創造性を培うためにはどうしたらよいか。

昭和三十二年度 造形能力を育てるにはどう指導したらよいか

① デザイン学習の指導 ② 描画の指導

昭和三十三年度 造形能力を育てるにはどうしたらよいか。

○ デザイン学習の指導

昭和三十四年度 デザイン学習の指導 工作の指導 移行期における学習指導

昭和三十五年年度 創造性を高めるための描画の指導はどのようにしたらよいか。 図工科指導計画の自主編成

2 事業の概要

(1) 図工科指導計画の自主編成

イ 学校としての編成 ロ 町村サークルとの連携

ハ 管内サークルとしての資料の提供

△ 研究内容 1 教科の本質の究明 2 教科の目標 3 新指

導要領の問題点の究明 4 指導内容の系統 5 教科書の研究  
6 指導計画表の作成 7 中学校美術科(技術、家庭)の問題点の解決案と運動

(2) テーマによる共同研究

イ 共同研究の基盤たる学校単位の体制確立 ロ 町村毎に学校毎の問題点を共同で研究する ハ 町村の問題点をもちより管内的に解決する。

(3) 渡島教研究会への協力

イ テーマの事業研究 ロ 町村代表の研究発表 ハ 分科会への参加 ニ 実践のもちりによる共同研究

(4) 研究会、補習会の開催(三十四年度)

イ 春の研究会(移行期の研究、テーマ研究のすすめ方、図工教科書の研究) ロ 冬のゼミナール(一月) ○ 造形教育の本質、作品の見方、実践上の問題 ハ 年度末研究会(二月)

ニ 本年度研究テーマのまとめ(研究発表を中心とする)

ニ 講習会 実技を主体とするもの(随時開催)

(5) 町村サークルへの協力 ○ 研究会講習会等の援助 町村研が主催して実技研究の講習会開催(デザイン)・写生会の場合、審査に協力 ○ 研究資料の提供

(6) 町村代表者【理事】会議の開催 ○ 年二回(五月、二月)

(7) 北海道造形教育連盟との連携 ○ 団体としての加盟 ○ 全道と地区との研究交流 ○ 全道大会への参加

(8) 機関紙の発行(現在八号まで発行)

三、現況 1 事務所 亀田郡亀田小学校内 (名称)・渡島造形教育研究会 2 会員数 一五二名 3 地区委員(小) 滝村虎雄(亀田郡亀田小) (中) 天野宮蔵(上磯郡皮辺地中)

## 阿寒観光ガイドの思い出

藤野 隆

昭和三十一年八月九日大会三日目の晩方、各府県参加者は札幌駅前集合、内地各駅で乗車乗船の経験者ばかり先を競って座席を取ろうと思ふせいか、開札口に殺到、十分座席があるから指示に従うよう声を大にしても聞きいれず、中にはアルコールのききめが出てくる者もだいたいいた。手配の客車は二両、ホームでもまた先を競って乗車口に殺到、どうにか静止して府県別に乗車、全員座席に落着いて一安心の様子、このような状態では今後が思いやられる。私たち案内係が相談の上、生徒の修学旅行並に、府県別に代表者を選出してもらい、世話をきめる。車中の様子は生徒の修学旅行+アルコール分を、御想像下さい。翌日早朝遠軽駅に到着発車まで一時間位の停車、夜明の駅ホームには売店も開いていない。たいくつであろうと思ふ駅から連絡して、やつとそは屋を開店してもらおう。駅前に子熊が一頭つないであるのをみつけた。内地の人にはめずらしいと思ふ頼んで駅ホームにつれて来てもらう。子熊と記念写真を撮る人、そばをすすめる人などで、あまりたいくつを感じない。その内汽車は美幌、網走へ網走駅では地区サークル代表の歓迎を受け、バスに分乗、市内観光案内を受けたのち、一路快晴の美幌峠へ向う。見晴台での雄大な風景を見て絵筆を取る人、写真撮影をする人など

しばし休息の後、バスは発車、屈斜路湖、摩周湖、弟子屈を経て、夕方阿寒湖畔に到着、それぞれ予定の旅館に案内する。到着早々に山浦旅館から電話で呼出され旅館に行く。

一室に案内された、ソルンパゲである。県の校長が主役となり、ウイスキーをあげながら他に五六名、私たちを前に座らして、本部案内者であることをたしかめ、旅館のサービスが悪い、お茶も出さぬ、室がきたなく待遇が悪い、観光費用がたかい、周遊券との差額を払戻してほしい、本部で儲けているのではないかと。遠軽駅で一時間も待たせそば屋と結託して儲けている。等々について返答を求められる。内地の旅館に比したしかにサービスが悪い。この地方は特に半年は冬期間で季節的に一時雇われる女中が多いため、サービスの行きとどかぬこと、女中には用件があればほとんど申し付けられないことなどと答えた。

遠軽駅での待ち合せ時間の件、あれが大膽的な北海道らしい汽車である。そば屋の件については本部とは無関係であり北海道の商人は団体あいては早朝から商売をして儲けようなどとけちな考へを持って居る者などない。私たちがわざわざ連絡して頼んで開店してもらったのである。観光経費の面については全観光地を廻って見れば理解出来ると思ふと、返答会談を終る。

翌日湖上遊覧の後、バスに分乗釧路へ、釧路駅前地区サークルの出迎えを受け市内観光の案内をされ、夕方サークルの方々の見送りのうち車中の人となる。(札幌市美香保中学校)

## 函館市美術教育研究会

漆 崎 繁 雄

誰れが首頭をとったのか今は記憶にない。たしか二十二年の六月頃だったと思う。リラの花薫る元町のハリスト会教の丘に絵具箱、画架を携えて続々と集ってきた。小中高大学の美術愛好者たちであることは勿論である。顔はどこかで見知りだが、あまりことばをかわしたことはない面々。

「図工の先生とか画家はどうも気むずかしい。」とか「とつつきが悪い。」とかよくいわれるが、街で会ったりしていてもろくに挨拶もしていなかつたなど、あるいはこんな面にあらわれているのかも知れない。

山ろくにある教会の尖塔や、ボブラ戯しに港の見える丘はたしかに写生地としては申し分がない。ともかくみんなに負けてはならじと夢中で目の暮れる迄写生三昧にふけつたものである。随分はり切つてはみたものの結果においてはライスカレーをぶちまいたような絵になつてしまつてはいくらか諦めもつき、やがて隣の西高校(旧庁立高女)の応接室で作品の見せ合いを始めた頃にはかなり気安く語り合う間柄となつてきた。

さて次回はどこか気の張らない喫茶店かどこかでお茶でも飲みながら画論や教育論でもやろうということになり、一応このグループの名称を「紅茶会」としておこうということになった。美術教

育のことは先ず理論よりも先に身を以つて感じ、考え、そして実践しなければならぬ。従来子どもたちの絵の見方を如何にあやまつていたか、そして今もなおあやまりつつあるか。われわれ教師は今こそへり下つて子どもたちの絵から学びとる心がなければならぬ。過去の如き観念や知識の切り売りから脱脚して新しい「人間形成」への教育目標の一環を荷負うべく決意に燃えたのもこの頃であつた。

さて二十三年から二十五年にかけては私的グループ時代ではあつたが研究活動は極めて活潑であつた。多数の有志が某校に乗り込んで研究授業をやつたり、各校の作品発表会、小中児童画公募展など功罪論そつちのけでデパートで次々行われた。教員展はさながらなチャールズの如く、しかも会員外の方々、校長先生、他教科の先生、事務官なども出品するのが特色で、そして写生会の最も華やかに行われたのもこの頃であつた。

最近なんとなしに、クレヨン、パス画の行づまり状態を感じるが、その頃の低学年のクレヨン、パス画は実に光彩を放ち児童画展の圧巻でもあつた。

二十六年春市教委が産婆役となり「函館市美術教育研究会」として公的な組織となつた。

同年九月、弥生小学校にアメリカからアンブローズ女史を迎えて全道小学校研究会が開催され、この時はじめて野村委員長にもお会いしたものである。

以後今日までに種々の面で内容的に深まりつつあることはいうまでもない。二十九年夏開催された全道函工函館大会など、実はこの頃連盟には正式に参加してはいなかつたのであるが、そんな

## 連盟と共に

伊 東 将 夫

十年という時間はほくにとつて随分と長いものです。連盟の発足当時の記憶を辿つても鮮明な印象として浮び上つて来ないのは、それだけ遠い昔のものとなつたのかも知れないし反面多忙な毎日が、過去を振り返る余裕を与えないのかも知れない。

発足当時は、空知の炭鉱に住みつき、終戦の傷も充分癒えないまま、何とか自分の世界をつくらうとあくせくしてしました。

学大の研究会に顔を出して、野村先生や、新妻先生にお逢いし、連盟の設立を知つたり評論社の教科書作りにもちょっと参加したりする程度の交渉でした。当時これらの方々は創業の苦しみを味わつておられたことと思うと甚だ申し訳けのない次第です。地方にいますと、どうしてもよそよそしく、稀に会議に参加しても、お客さん気取りになるものです。

札幌に転出したのは、昭和二十九年の夏、早速に連盟の色々の仕事に加えて頂き、はじめて、これは容易でないと感じた訳です。

特に第九回の全国大会など、異常な程の緊張と多忙とに追

いまくられたというのが、実感でした。しかし、ほくにとつては何よりの勉強であつたし、連盟の土性骨にも触れる機会でもあつたので、これを契機に、連盟に対する愛情も一しお深いものを感じたのでした。ほくは、余り遠慮しないたちだから、思いきつて、ずけずけと発言して、随分大方の心象を害していると思ひますが、別に他意がない訳で、連盟はやはり、本気なもので結合されるべきだと思つてゐるし、その前進のために、皆が、口に扉を立てないで、思い思いのことをいつた方がよいと思つてゐます。

十年たつたのだから、お互い智恵をしぼつて若返えりを取え、真摯な意欲を燃やして、尻をたたき合つて進みたいものです。

ほくは、今後共、連盟を愛し、本道の造型教育の発展を希望して、ほくなりに歩いて行きます。(札幌市幌西小学校)

ことはどうでも、ともかく百余名の会員は懸命に立廻つた次第であつた。

発足以来今もつて小中学校合同で和氣あいあいのうちに活動している。

- 会長 西 谷 倉 治(新川小学校長)  
 副会長 宮 林 繁 雄(学芸大学教授)  
 小学校幹事長 越 田 一 喜(千代田小学校)  
 中学校幹事長 古 谷 格(汐見中学校)  
 会員 小学校 九〇名 中学校 四〇名  
 (函館市新川小学校)

## 松山南部図工サークル

津 村 彰 広

① 私たちのサークルは、昭和二十五年に発足いたしました。松山は、地理的に全管内一本化した活動が非常に困難でありましたので、三地区に分割いたしました。それぞれの活動をやっておりません。

図工サークルは、どちらかといえば他の教科よりもサークル員の数も少ないのですが発足当時から南部地区の研究目標ととりくみ、図工科資料集を作成したりして、活潑な動きをして来たつもりです。

② 私たちの今までの活動中主なものは、図工科資料集を作成したことでしょう。その作成の意図は、教材のもつ要素や抵抗のについて研究しなければならないということでした。また、も一つには、図工科はだれにでも出来るものでなければならぬとの考え方で資料集に着手いたしました。

資料集作成にあたりましては、次のような点を特に配慮いたしました。

現行の図工教育の工的内容が不充分であり、用具、材料の取扱いに不適当なもの不完全なものがみられるので、工的内容、用具、材料の使用法、入手法、保存法、資源の愛護、廃物利用の態度というものにスペースを充分とりました。しかしながら私たちのこの仕事は、今考えて見ると技術的な面の強調があったのでないかと反省しています。新指導要領によれば、デザイ

ンや工作にウェイトがおかれ、結果は、技術や感覚の注入により、子どもの目が現実からそれてしまい、自由に事物に対して感じる力、感動、生活に対する認識がほけてしまいはしないかという心配が多分にあるからなのです。随って、今後図工科の各領域にわたっての本質をふまえていかななくてはならないしました。新指導要領に対するかまえ方としては、新指導要領の全体構成の中核となるものは技術注入であり、この技術ということに関心を集中させようとしている。芸術上の技術と生産上の技術では大変違ってくる。子どもが絵をかく場合と物をつくる場合でも違ってくるが技術を支え、技術を発展させるのは人間の創造的な判断や工夫によるものである。美術教育における技術は、子ども創造的なイメージとのつながりの中で具体化し、自然の素材に対する法則を十分に認識し、主体的な判断を通して工夫され、発見されるものでなければならぬ。この点を吾々は、はつきり再認識して新指導要領に立ち向わねばならない。私達は、実践をより深くより広くすすめていかななくてはならない当面の課題を除去にはあっても、充分に時間をかけて研究を進めようということがサークルの念願です。

③ そのために現場実践を深めなくてはならないので、サークルとしては、各町村での研究会、講習会を開催して実践の交流をして行くことにしております。サークル員は現在十八名おります。みんなそれぞれ現場で忙しい仕事の中で図工教育推進にはげんでおります。

最後に私達は、今まで造形教育連盟に加入しておりませんでした。が、本年度から仲間入りをしていただき御教示を願うことになりましたのでよろしく御願いたします。

(江差町水堀小学校)

## 後志図工連盟の歩み

高 野 年 男

「研究サークル統合の気運もあり、図工関係でも是非この機会に何等かの集りの機会を持って戴けたら、私と致しましてはこれにすぎない喜びはないと思えます。」——教師より問宮勇先生宛に送られた葉書の一節、戦後の混沌とした町や村の職場の中に個々のかたちで芽を出しかけていた息ぶきの一こまでです。

昭和二十七年十一月八日 仁木小中学校を会場として、後志教科別研究大会の会場で、後志図画工作教育の研究とその振興をはかるを目的として、後志図工連盟が発足した。

発起人として問宮勇、牧野巖、中山茂、因藤寿、森崎義美、甲谷亀年の各先生方が名を列ねているし、出席者四十二名、現道連盟の新妻事務局長を講師として、創造教育の立場と今後の図工教育を研究テーマとして激論をかわせている。

初の役員として、委員長に問宮勇先生、副委員長に牧野巖先生、常任委員として甲谷亀年、森崎義美、中山茂、因藤寿、木下一郎、服部英夫の諸先生が挙げられている。

全道図工連盟に正式に加盟したのもこの時らしい。正式な加盟でない加盟の時期もあったとすると、後志も古い歴史を持っていることになると思われる。

研究テーマは連盟発足以来毎年その年の目標として設定、研究

## 歪められた教育

井 田 俊 末

第八回全道図工大会小樽市開催を契機として私は教育現場を離れるつもりでいたが、学校の関係で一年延し、今春肩の重荷を下したのである。小樽大会は私の四十余年の教育生活で最大の思い出になると思う。記念の写真帖は富岡小学校にいつまでも残ることであろう。現場を離れ自由な身となり日本教育の現状と動向を眺め自分を反省したとき教育者とは日陰の草だ。幽な光を求めて伸びている。しかもそれは授業のみであったことが痛感された。教職員組合が文部省と対等の一騎打ちをし勤評問題、教育課程斗争等、社会、政界の問題に発展させたことは戦前の教育者には見られない一面の強さを示すものであるが、教育現場の一般はどうであろうか。勤評は実施されたものの紙屑同様の倉庫の埃りとなっており、新教科書が間近に展示されるが、トコロゲン式に押し出された丈で味も塩気もない。この有様では文部省の伝達講習を阻止したところで現状の日本教育は歪められた社会を更に混乱に導びくだけである。

口に教育の理想を説き民主主義を力説しても人間教育の根本を忘れ、物利にくらんだ人間の社会今日の世相は当然である、人間形成、情操教育に欠くことの出来ない図工教育がとかく学校教育の体系から軽視されてきたことはこの度の教育課程改正を見ても明かである。

私は心から造形教育の必要性を呼び明るい社会の出現を祈るものである。

——顧問——(在小樽市)

会その他で盛り上げを期して来ているが、集大成して現場の先生方個々にまでおろすことは仲々に困難で、一部の討論に終って行くとの比判もあながち間違いないといえるところもある。

このような現実の中にあつて、三十三年度の研究テーマに、造形素材をどのように生かして取り扱つたらよいかは、道連盟の流れをくむものであり、当時の当後志研究所との共同研究ということになり各方面の絶大な御支援を得て、象々（造形素材の研究）を発行し現場に送り、悩みと解決の一助にもしてもらえたと比判後今後の深まりを期そうとする方向へ進んでいることは、手前みその処はあるが喜んでいいことだと考えている。

今年、継続テーマとして、教育課程の自主編成について、関係方面と密接な連繋のもとに推し進めているし、前述した象々を手がかりとして、現場に根を下した造形素材を生かした使い方々にしようとする努力が続いている。

このために今年度は次のようなことがらを計画し、予定される会員七十名の総力を挙げ、たゆまない努力を続けようとしている。

- (1) 教育局、研究所、地区文教部各支部サークルと密接な連繋をとり、研究会、講習会その他の会合に研究主題を折り込んでもらう。
- (2) 会員を誘う働きを活潑にする。
- (3) 機関誌「後志図工」を通して、研究情報及び意見の交換をする。
- (4) 研究紀要の活用化をはかる。―地域や学校ぐるみの組織研究の一助にもしたい。このことを中心にした「実技講習会」を開催する。

### 小樽地区事始

樋口 忠次 郎

顧みて新教育の首途に立つた当初、あの乏しい用材や画紙の中に、どうかして小中学生と共に美を求め、ゆがめられない図工教育の道を開拓しようかと、旧図画同好会の人達と組合文教部の教科研究活動に新たな体制をたてることに致しました。それは美術部という名前で純正な図工を含めて立ち上つたのです。部長に井田俊末先生を頂き、岩手県に文部省の新教育伝達講習にお出かけ頂いた部長先生の清新な御講義とながら御経験にあふれた先達を中心に三四十代の私達は、小樽地区の素地を耕しました。戦後最初の道新小樽交社主催の小学校図画展以来、美術部主催の児童美術展が毎年催されましたが、工作を本格的に取上げて図工展となるには、連盟が発足してそれに加盟して数年後の年月をまたねばなりません。その間、研究講習会を市に願つて度々ひらいたりしました。顧問の井田先生は小樽地区の生みの親、育ての親として色々と御導き頂いたのであります。恰度昭和二十五年は小樽市の開校五十周年記念の港まつりでしたが、三沢課長より私にお話が有り、御入院中だった井田先生も殊の外成功をお喜びでした。それは小中校一つとなって高等校の鈴木伝、鈴木茂先生の御指導を頂き、小中汗だくで大國屋デパートに初の総合美術展を七月に実施、そのためには数回写生会を致しました。翌二十六年より当地区委員には、富田嘉子先生（稲穂小）を推しました。当時私は

(5) 各種行事に積極的な協力をする。

(6) 北海道造形連盟とも提携して一層の充実を計る。

終りに連盟の発足以来、陰に陽に御援助を下された道連の野村委員長を始め、新妻事務局長外役員の方々や小樽の樋口先生、渡島の滝村先生他関係のみなさまに衷心から感謝の意を表すると共に、今後どうぞよろしく、この紙上をおかりしてお願いしたい。

事務局 余市町沢町小学校  
 地区委員 小学校 高野 年 男  
 中学校 佐藤 鉦一郎  
 (余市郡余市町立沢町小学校)

### 祝 十 年

坪 内 千 秋

北海道造形教育連盟結成十周年を衷心よりお祝い申し上げます。

わたしは、昨年の夏、はじめて帯広における第九回全道図画工作研究大会に出席させていただきました、その盛況を目のあたりに見、且つ、先生方の造形教育に対するご関心とご研究の深さに感激して帰りました。以来、公私共に同行の皆様とのつながりのありますことを喜びとしております。

この度の十周年記念に際しまして、またまた輝かしい研究の成果があげられますことを信じております。これを一つの節（グラデュエーション）として、この上ますます貴連盟のご発展を祈念いたします。―大会講師―（学習院初等科教諭）

同職でしたが、中央校の激務で、当地区の事だけでも精一ぱいだったのです。ですから、北海道年鑑にもついでこの間まで北教組小樽美術部の名前がございましたし、展覧会、写生会、授業研究等と行事的な面にまで私共は助け合つて、出来る限り力を合わせて来たつもりでした。富田先生始め、佐藤徳次郎先生、花園の中島雲文先生、量徳校の武田正二先生、想画でならした元手宮の品田、桜井両先生は中学へ進出されましたも古い馴染で御力を頂きました。旧中学の側には長橋中に矢野先生が富岡中学に出られ、大和屋巖、角江重一先生、氏家と犬先生、汐小より東山中には若松六弥先生が熱心によくやって随分と楽しく、旭ヶ丘（現西陵）には高倉市松先生、住吉中には五十嵐先生といった風です。復員や引揚げや諸々の入替えて新人が次々と登場されて来ました。学大出の新進が加盟されました。色内に塚本、庄司、前野先生、稲小村三郎先生（現花園）堺小に岡崎、富沢先生、手宮に北村先生後に今の黒川先生、長小に榎原、村上先生、奥沢小の辻先生、仁木から学大を卒えられて関井（現入船）先生、入船の下山彦治先生、体育でも鳴らした若竹の亡き宮下先生、後に相沢先生、天神に中山啓先生女教師側としては花園から奥沢に転じた川本先生、富小の高橋先生、高島の楠野先生等々の外、中学側に石山中の速田先生、向陽中の白江先生、東山中に小林剛先生、大和田先生、末広の山本先生、住吉中の新寛先生、転じて朝里小の富田弘先生緑の阿部先生、花園の三井先生等々、毎年の市教研大会の研究発表には陣頭の井田部長先生首め新入中堅交々といった形でございました。

第八回の小樽大会も歪まず、急がず、道博と炎暑も、富岡PT





顧問 吉田五左衛門先生

本道美術教育界の大元老である吉田先生は、大正七年二月から昭和二十四年三月までを札幌師範から学芸大学札幌分校に三十二年、その後、札幌南、北の両高校に四年。この長年月を手工教育といった時代から、本道の工作教育振興のために幾多の俊英を育まれたばかりでなく、十勝、北見、釧路、網走、留萌を始めとして全道くまなくその巨歩をのびされ、至る所で工作講習会を開いて、ともすれば不振をかこつ工作教育に情熱を傾けられた。現在各地の大校長となっている方々の大半は、吉田先生の教えを受けているわけで先生の偉大さがよくわかる。

先生は現在、札幌市宮の森、緑したたる大倉山を背景に悠々自適の生活を送っておられるが、昨年末頃から、はくなく、症にかかられ、老体を慮って躊躇する医師を説き伏せ進んで両眼の手術をすませ、今年五月十九日に無事ご退院。七十五才とも思われぬ元気、この連盟の活動と造形教育の前途を見つめておられる。

「為すことによつて人は学ぶものである」という昔からの信念はいよいよ固く、理論ばかりで頭でつかちな人間よりも、工作を通して行動力のある人間でなければならぬと、頬を紅潮させて語るその若々しさには強く打たれるものがある。

音楽を愛好されて、四十年前も前に札幌でレコードコンサートを開かれたり、授業の合間にベートーベンの第九を師範生の私達に聴かせて下さったことは有名な話で、造形教育の大先達たる先生の面目躍如たるものがある。先生の今後ますます御健在ならんことを祈ること切なるものがある。

(新妻 清記)

A 寄贈の団扇で和かに、今日の土台が出来ましたのも井田部長先生以下前記諸先生のおかげと存じます。それにしても、室蘭に出かけたり、また札幌全国大会を前にして東京に出たり、小樽を終えて長野大会に井田、中島先生が出られ、私共帯広にも参らせて頂きました。全道教育大会と図工連盟との一体化を野村委員長以下幹部諸先生が百万御力頂きました、夫々旭川、函館に新覚先生、筆者が出席しましたり、連盟の教育活動が、今日十年一昔の足跡を省みますとき、誠に心嬉しい印象が今となつては、胸ふくらませます。

殊に近年、伊東将夫、荒木アイ両先生を皮切りに野村英夫先生を次々に迎えて札幌研究親睦の交流に恵まれて参りましたことは本市にとつて多幸なことでございます。小樽より札幌に転じられました鈴木嘉吉先生はじめ樽中出身の空知の副委員長斎藤富男先生外、小樽大会講師の公榮源一郎先生諸氏にも、当地区としましては深い御縁を有難く存じ、一層御鞭撻を仰ぎたいと存じております。昭和三十三年は連盟のテーマに即して「児

童生徒の発達段階に即して造形活動は如何にあるべきか」を、別稿の様な次第で研究致しましたが、今年度も「本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう」と対応して「立体構成をどのように展開するか」をあげ、五月末に、カラーのスライドやシネの創作を併用した若松先生の「塔をつくろう」の研究授業「図工科における構成について」の研究発表で激な討議研究を午後五時近い北山中学で開催致しました。一方「新指導要領はこれでのいか」の中島先生、中学は白江先生の昨秋の御発表について、関井先生の精彩なそして厚みのある「教育課程自主編成のために「図工科」を過日発表頂きました。

### 連盟の生長と 常任委員の横顔

赤石武士

「連盟結成十年を迎えたのだ。」こう改まって考えてみると感慨の新たなものがあります。

発足当時お互の結びつきの浅かった図工人が胸襟を開いて話し合わんとしたためにアルコールも手伝って互につきかみ合をしたり、純粹であるべき連盟の行き方に対しても横路に反れようとする委員長(当時の)に対し、痛憤やる方なく辭職勧告使を出したり相当

の武勇伝も含め、波らんに富んだ過去を想うと懐しさがこみ上げてくるのを禁じ得ない。

今こんな感がいかに浸りながら思い浮ぶままに常任委員の連中の横顔を紹介しよう。

三月上旬俱知安の教研協へ出ました時、中山、筆者等の無駄でなかったことが、愈々「図工科の教育課程自主編成へ」の今年度のつとめの中に生かされましよう。今一つ「道徳教育を如何に培うか」の図工科の実際も本年度の当地区のテーマになっていいます。井田先生が御退任あそばされましたが、忝いことには色々御指導を賜わる機会と計画がございますので、当市後志は申すに及ばず、造形教育振興のために、当地区は更に札幌一体として私共は仲よく静かに歩みたいと存じています。

(小樽市 長橋小学校)

野村 英夫 東小学校長

繁野三郎氏によって開かれた市の図工畑を受けつき、之をさらに発展させ全道組織にまでもって行った功績は以下に続くつわもの共に俊秀が多かったとはいえずは大きい。

親分肌ではないが多芸能、のれんに押腕し式、包容力豊かな名委員長、章魚のゆで上りから、ノートルダムのせむし男等々其の芸は尽きる所をしらない。

新妻 清 美香保小学校長

学生時代からの清潔な画人、其の描く水彩画の如く明朗で掛引きない名事務局長、長い間委員長との名コンビで連盟の基礎を確立した。鴨緑江節踊りのとぼけた仕草はあまりにも有名。

伊藤 恵 学大附属札幌小学校

附属臭のない実践指導家。其の体の如く円満であるが、一面誠に緻密で紙工作の權威でもあり、相当の茶目気もある。

長谷川 伝 曙小学校

伝ちゃんの愛称で呼ばれる豊麗な芸能感覚とせん細な神経の

持主、専門の絵描きにしたかった。次の荒木さんと共に創造美  
育に精進

荒木 アイ 桑園 小学校

連盟の紅一点、特色ある児童画指導者として其の感覚は年と  
共に鋭く益々若くなるのは不思議。何しろ実績がものを言う。

高橋 栄吉 北九条 小学校

校筋金入りの粘り強さと闘志のあふれた仕事をするし、また  
そんな絵を描く理論と実践を兼ね備え時に横車も押しかねない  
一方のさむらい。だが一面トランプに心を引かれる純情さも  
ある。

和田 芳郎 中央創成小学校

市の図工系図中に残るき人物、絵は繁野三郎の直系で中々  
指導上の実績も持っている。頭腦明晰で口も八丁、手も八丁、  
酒は十丁、武勇伝も多い。

砂金 隆 山鼻 小学校

描画でも、工作でも、デザインでも指導家として何でも来い  
である。其の絵の如くよいセンスの持主で編集、レイアウトな  
ど巧妙、手品や指人形までやる。

長井 孝二 緑丘 小学校

派手な動きは見せないが堅実、連盟組織上重要な人物中堅的  
存在。

種市誠次郎 大通 小学校

其の体質の如く精力的な絵を描き仕事も堅実柔道三段の猛者

橋本 富 琴似 小学校

鳥取県出身の変わり種、手がたい然も深味のある指導力は実績

鈴木 嘉吉 向陵 中学校

相当古い連盟人としての実績をもつ人。御ひげなどはやして  
厳めしく見えるが、実は純情可れん？ 写真などの技術も堂に  
入ったもので気持は若い。

青木 栄一 啓明 中学校

中学若手のホープ歯切れのよい仕事振りは目立つ、組合人と  
しても中々やる。

藤野 隆 美香保 中学校

温厚で連盟きつての君子、着実な実践家である。

上門 孝 幌東 中学校

大陸帰り百戦錬磨の闘士であり、実行力のある一方のさむら  
い、中学校の配当時間の獲得運動を根強く続けている。

太田 達雄 北辰 中学校

校務に追われてか最近鳴かず飛ばずのように見えるが、古く  
から連盟の事業に残した足跡は相当。この人の昔の絵（軽妙な  
筆致で集合人物や祭の行列などを巧みに描写した）が懐しい。

佐藤 哲夫 八条 中学校

中学指導陣の中心的存在。其の絵の如く純粹であり清潔な実  
践家。よいセンスの持主であるが欠点は酒を飲めないこと。

三谷 哲司 学大附属札幌中学校

理論に重点を置いた若手の旗頭、学大指導陣との中継者とし  
ての重要な存在であり、また頗るつきの美声の持主とか。

伊藤 正 東高等 学校

紹介する迄もなく本道画壇の重鎮であり、高校美術教育者の  
中核的存在、熱情に充ちた其の企画力、実行力、等々、考えれ

### 声を大に

石崎 義政

教育の営みの重要さは、教師が一番よく知っています。造  
形教育の人間形成に果す役割りの重要さは、図工科の先生方  
が一番よく知っています。いくら声を大にして主張し続けて  
も過ぎることではないでしょう。

図工科が子供を大切に思い、その個性や創造力を尊重しよ  
うとする態度は、他のどの教科にとっても、やはり考慮して  
ほしい考え方だと思っております。（室蘭市教育委員会）

にあらわれ、またその絵にも見ることが出来る。囲碁二段とか

伊東 将夫 幌西 小学校

現在市の指導陣の要にある才能豊富な造形人。画壇のみでな  
く、組合人としても活躍、弁もたつし指導実績も豊かであり政  
治的感覚も中々すてたものではない。

斎藤 一雄 琴似 小学校

連盟きつての人格者、連盟に入るのが稍遅かったため遠慮勝  
ちであるが、着実でよいセンスの持主であり美声によるソーラ  
ン節や追分節にはキレイ所もふらつとなる程のものである。

中川 大三 曙 小学校

不幸体をこわされて其の仕事は一時中断されたが、柔軟  
な豊麗な美しさの中に鋭い感覚を見せる中堅指導者

は考へる程貴重な存在。

高橋 良介 西高等 学校

伊藤正氏と共に高校美術教育の推進力として重要な役割を果  
たして来た人。闘志満々まことに頼もしい存在。

これらの頼もしい人々現常任委員と強力な地区委員とのスタッ  
ムの上に立って連盟は育って来たわけであるが、勿論顧問の先生  
方の側面からの御援助がどれ程力になっているかは申す迄もない  
ことである。

この外不幸病気その他の理由で元連盟の常任委員的役割にあつ  
た人で現在退かれた人々をあげるならば佐藤熊蔵氏、能登谷正宣  
氏（共に東小学校在勤）等は、あるいはまともな役としてあるいは  
若手の育成の上にその功績は忘れることが出来ない。また当時工  
作指導の權威とし光っていた今は亡き堂野重治氏や現札幌小学校  
の佐藤秀雄氏渡辺勝氏の誠実な活躍も忘れることが出来ない。

兎に角病気等全く止むを得ぬ理由によるほか派ばつ的対立、感  
情的対立等で連盟とたもとを分った人の絶無であることは道内は  
勿論全国的に見ても例のないことではないかと思う。このことは  
我々の誇であると思う。これからもいよいよ結末を固め将来の発  
展を期したいと思う次第である。

最後にみんなの悪口を書いた自分自己紹介をちょっぴり。  
赤石 武士

絵の方は和田、伊東氏等の後輩、理科にも手を出し茸類など  
をしらべている変わり種。囲碁四段半くらい（自称）ぼつぼつ白  
髪も出て来たがスポーツでは未だ若い者と一緒にやる純情な青  
年。

札幌 小学校長

## 札幌地区だより

和田芳郎

## ○発足

昭和三十三年四月「北海道図画工作教育連盟札幌支部」として発足し、連盟の名称が改称と同時に「北海道造形教育連盟札幌支部」として現在に至っている。

## ○組織と現況

不肖私が支部長としての重責にあつて会員数八〇余名を擁し幼稚園より小・中・高の公立学校の先生方が会員の席に連なっている。事業あるいは研究内容は各地区サークルが立案されているものと大同小異であるので省略させていただきますが、札幌市の研究網の実情を諒解していただくと思う。

札幌市には札幌市教育研究協議会の組織があつて、この組織は市教委、校長会、北教組支部三者の共同協議のもとに教科及び教科外の各部に分れ、図工研究部として小学校部会、中学校部会をもち、それぞれの部に部長、副部長、常任委員、顧問等を常置し市内の各小中学校の職員が全員どの部かに所属している。年度初めに研究主題を設定し、行事計画を立案して実践に移す手続きをとっているのである。

また、これとは別に「造形連盟本部」があり、常任委員が常置されていて電話一つで何時でも連絡がつくような便利もある。さらに創美の支部があつて有力なメンバー、スタッフは、これらの組織系統が違つていても同じ顔ぶれが重複していることが多いのである。

年間行事について、これ等が競つて立案することは可能ではあるが、参加する方が、なかなかゆるくないことなのである。

支部は研究所所管以外のことを応援したり、幼稚園、高校部への連絡等に当つていことが実情であり、それによって支部会員が可能な範囲で参画し活潑な活動を続けている。

会費は年額一〇〇円を会員より徴収して本部へ年額負担金を納入し、剰余金をもって通信、連絡、事業費等に使用させていただいているわけであるが、会費徴収は昭和三十三年度四月発足会員四六名分徴収以外は今日まで徴収していない。

出納台帳記録の中に三十四年度帯広大会研究発表者太田達雄「北辰中」氏の経費の一部を負担しているのは会計内容として有効なもので他は会員の通信連絡費が大方を占めている。以上のような次第で怠慢のそしりは如何ともしがたいが、当市としては常に道全体の推進力として十年の歳月が無意味では決してなかつたと反省し、この機会に本部のお足りない分、支部としてどのようにしなければならぬかを、じっくり検討してみたいと思つている。

(札幌市立中央創成小学校)

## 北海道というところ

湯川尚文

私が北海道という所に、はじめて興味をもつたのは、小学校六年の時に国語読本で北海道へ行った友人の手紙という一文を学んだ頃以来であり、その後北原白秋の詩などを通して一そうつよいあこがれをもつようになった。

トラピスト、時計台、スズランの花、目のかぎりの牧場、それは私の頭のなかで日本のなかの西洋を形づくっていたようだ。

その夢がはじめて実現したのは、大戦前、私の二十代の終りころでこのときは教育視察という名義で数人の先生たちと同行した。

定山溪、トマコマイの製紙工場、アイヌ部落といった北海道旅行の定跡だったが、小学校時代に学んだ神居古潭のふかい水の碧さを車窓に眺めたのもこのときであった。

だがほんとうに北海道にふれたと思つたのは、戦後、昭和二十七年八月、札幌の曙小学校で開かれた北海道図画工作連盟、第二回大会に室靖君とともに講師として参加し数日先生たちと話しあう機会をもつてからである。

駅で汽車を下りたとたん、初対面の和田先生から「先生三日間はウンと働いてもらいますよ」と声をかけられた印象は今でも忘れないう。和田先生！ おぼえていますか？

この頃は創造美術協会の発足以来、日も浅く、私と室君はもつぱら創美精神の解説につとめたものである。だが「創美教育による静物写生の授業公開」という希望には困つて「お話の絵」ふなにかの授業をともかくやつて私はお茶をにごしたが、なにしろ創美の運動の当初だ

つただから、こうした先生たちの要望もけつて無理ではなかつたと思う。

それにしても私たちの滞在中、野村先生はじめ多くの先生たちに厚くもてなしていただいた御好意は、はつきり昨日の出来事のようにおぼえている。宿は時計台の前にあつて毎日札幌の街を散歩した。レンガの煙突のある古風でエキゾチックな町並み。ポプラの並木、大学の植物園。私はすっかりこの西洋風に計画的につくられた北国の都市が気に入つてしまい、今でも日本中で好きなところはという質問には、札幌と答えている。

この時以来、私は北海道には二度ほど行っている。高台から見た函館の港もすきだし、小樽のいかにも北国の港らしい波止場風景もよい。その印象を私はスケッチ入りで教育雑誌に紹介したこともあつた。

こんなわけで、自然にその後の北海道の美術教育の歩みには関心をもつようになり、度々開かれる大会、研究会などに出席した東京の友人からその消息をきいたり、児童画公募展の審査などでも注意してみるようになった。

そしてその堅実な発展をかげながらよろこんでいる。たしかに私が出席した連盟の第二回大会の頃と現在とでは、かなりのちがいが見られるが、なにしろ私の住んでいる所とはあまりに遠いので、先生たちと膝をまじえてお話ししあう機会がたやすく持てないのが残念である。

たしかに北海道は私のまた行って見たい土地である。しかし私は冬の北海道を知らない。「先生、今頃こられたらよいようなものの、冬は大へんですよ」というのが夏や秋にお会いした先生方のことばだったが、私は雪と吹雪にとざされた頃を想像し、そのなかで一歩一歩美術教育を前進させて働く先生たちの姿を描いてみる。

北海道の美術教師の皆さん！ ぜひがんばつて下さい。

——大会講師—— (在東京、美術評論家)

## 江別市造形連盟発足

諏訪田 勝 衛

江別市造形連盟はかねてから市内小中学校の先生の要領に配慮昨年七月二十一日発足し、昨年度において次のような事業を実施しました。

八月二十一日新しい図工指導のあり方についてと題し東京都御田小学校教諭佐藤諒先生を迎え講演とスライドによる講習会を開き、夏休み中の児童生徒の作品を持ちより批判会を開きました。この時は市内のみでなく幌向村や新篠津村の先生方にもよびかけ盛大な講習会になりました。

十月十八日江別市内学童秋の写生会を開催し多数の児童生徒の参加を見ましたが、この作品を審査し賞状を出すと同時に小展覧会を開きました。

二月十七日学大岩見沢分校の藤野教授をまねき水彩画の実技講習会を開きました。参加者は市内の小中学校の先生方多数で主として水彩絵具の使い方の練習に時間をかけましたが何分ともすると実技をいとう先生方も藤野先生の巧な指導法に引きこまれ、非常に効果をあげることができました。

二月十三日市内小中学校より作品百点と募め(割当性による)作品展を催しました。この展覧会には市長はじめ市内の教育愛好者や新聞社より賞状賞品を出してもらい児童生徒に大きな刺激

を与えると共に、造形教育に対し関心をもちたせることに非常な効果のあったことを反省しています。

この外度々理事会を開き、造形教育の振興や先生方の技能の修練のこと等について相談したり、また時には懇親を重ねました。

私共は会をつくるとすぐ何か無理な仕事を考え出したり、おしつけになったりすることになり勝ですが、この会は発足そのものが実る軽い気持でまた親しくつきあいその中で共々勉強したりこの仕事をとおして児童生徒の力を伸ばそうというのであってつとめて欲張らないことにしています。唯資金の面では今のところ苦しんでいるというのが実情です。この面の解決に役員は苦しんでいます。

連盟は前述のように軽い気持の集いですが、まあ対外的な面や資金のかく得の面もあるので会員その他役員構成を次のようにきめておきます。

会長 諏訪田勝衛(江別第一中学校長)

副会長 平原 敏雄(江別小学校教頭)

事務局長 佐賀井 勇(江別小学校教諭)

外理事六名

以上のような生れたばかりの連盟ですが、近く全道の連盟にも加入しなければならぬと思えますし、各方面のこの道の方々から御指導を戴きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。(江別市第一中学校)

## 室蘭地区サークルの概要

諏訪 英 雄

発足は昭和二十五年四月だと記憶している。当市の研究図画工作部会がそっくり、連盟に加入したわけで、当時地区委員には小池田竹松氏が出られ、いろいろ本部との連絡をとっていただいた。評論社版の「北海道の図画工作」といった準教科書を室蘭でどううけとめたらよいかという話し合いをしたことなど記憶に残っている。その後大類敏憲氏さらに石崎義政氏など地区委員としての労をとっていただいたわけだが、早いもので十年たつてしまった。当時地区サークルでお働きの松原政利氏は退職され、近江順次氏や、小池田竹松氏は校長に就かれ図工教育の第一線からは退かれたが、それら先輩のお導きで他のサークルと違って親しさのあつい結びつきがあったと思っている。

現在はサークル員約五十名、他地区に比べて年齢層が若く、市内二十三校に図工科教育の中核として二、三名ずつ配置されている。会員の構成は発足当時と同じように、研究会図工部会と連盟地区サークルさらに北教組室蘭支部美術サークルと同じメンバーで三つの組織に入って活動をしている。

研究活動の主なものを上げる。

(一) テーマ別グループの研究……これは年度当初にその年度の幾つかの研究テーマを設定し、そのテーマ毎にグループを結成し

一年間の研究をまとめることにしている。

(二) 研究会、講習会……年度の研究テーマや新教材等を考えて道内講師を招聘し開催する。

(年三〜四回)

(三) 写生旅行、実技講習会……これは教材研究というよりサークル員の美術活動として取り上げている。(写生旅行は日曜日、日帰り、実技講習会はデッサン会など。一〜二回)

(四) 造形展開催……主として描画以外の領域の全作品を展示する展覧会で、上下のつながりや、新しい素材、製作方法を披露しながら研究するのが主眼であるが、さらに父兄の啓蒙にも大いに役立つ本年は米年度からのカリキュラムに従って作品展示を行い部員以外の小学校の先生方にも大いに参考にした。ただこうと考えている。さらに中学校美術科の時間制限問題にもこれを通して対処したいと考えている。

(五) その他……生徒の写生会、壁画を描く会、氷の彫刻をつくる会、教員美術展等外部団体の主催した行事にも積極的に援助することにしている。

いろいろな研究活動の中で一番困難の伴うのは造形展であるが巾広い造形教育をすすめていくためには成果のあるものと信じ今後も継続して行きたいと思っている。

とにかく連盟の十周年であることは当地区サークルにおいても十周年で、さらに地区の活動をもり立てて行くために強い結びつきを固めて行かなければならないと痛感している。

事務局長 鶴ヶ崎中学校 会員数 五四名

地区委員 石丸雅晨(常盤小学校) 諏訪英雄(鶴ヶ崎中学校)

### 夕張地区サークル

高橋彦七

連盟が誕生する時、私は夕張地区代表として参加をしたが、当時現在のようなサークルがあったわけでもなかった。道展の大黒孝儀氏や木下勘二氏と私はよく図画展や教員美術展などを開催していた。

昭和三十年頃から同志も増えて、サークルとしての組織は、地区の文教活動と一連のつながりの中に持つようになり、夕張市教育研究協議会の図工部に所属した者の多くは、連盟の会員にもなった、従って研究主題も組合の教研活動の主題と繋るわけで、これがさらに連盟全体のものとならばと念願したものだ。教研につながる夕張地区サークルの特色があることになるだろう。小倉、金子、古瀬、伊勢、伊藤、黒滝、今本、高畑、木下の諸氏が中心になって、サークル活動が次第に盛り上っていった。

#### 活動状況 研究主題等について

○昭和三十一年度には、夕張市において、小学校低・中学年に水彩描材を使用させることについて、地域社会に対してどのように働きかけていくかという問題に取組み、金子先生が中心になってこれを一応まとめて、第六次教研全道集会に出席し報告した。この研究は昭和三十三年度まで三年連続研究され、その後、成果をあげている。

○昭和三十二年度は、子供の創造力を伸ばすための指導は如何にあるべきか、という研究テーマのもとに「描画指導」についての助言は如何にあるべきか」という実践研究をまとめて第七次教研全

道集会（旭川）に伊藤鉄雄氏が発表した。尚、連盟の室蘭大会にもサークルから多数参加した。

教育美術振興会理事 原 義人氏を講師として、児童画の見方等について講習会を開催した外、連盟本部より幌西小学校の伊東将夫先生に来てもらって、十一月二日登川小学校の会田竜英先生の研究授業と合せて、生活画の指導を中心にして研究会をもち、さらに十二月六日には「小学校における新しい工作教育の実践」というテーマで、学大附属札幌小学校の伊藤 恵先生を講師として研究会を開催した。

○昭和三十三年度は「図工科教育を積極的に押し進めるための実践研究」という地区教研の主題のもとに、特に不振な工作学習を押し進めることを中心として研究をまとめ、第八次教研全道大会（函館市）には、黒滝氏とともに私が発表に出かけた。学大札幌分校の寺井教授を講師として、工作学習を押し進めるための研究会を開催し、高畑氏も研究授業を行った。

連盟の第八回小樽大会に講師として来道した森桂一先生の帰途特に時間をさいてもらい、大日本文具の後援で「日本の美術教育の方向」について講演会を開催した。

○昭和三十四年度は、連盟の研究主題である新段階における造形教育のあり方」をテーマとして、六つのグループに分れ、第九次全道教研には「図工科における評価の動向」を伊藤鉄雄氏が発表した。本年度もさらにこの研究を押し進めることになったが、教育課程の自主的編成はどうしたらよいかと五十名の会員は現在まで四回の会合をもった。第十回連盟の網走大会に大きな期待を寄せた。

夕張第一小学校に事務局をおき、私と北陵中の黒滝好信氏が地区委員をしている。（夕張第一小学校）

### 中空知地区サークル

斎藤富男

### 連盟お目出とう

泉 秀 雄

わが愛する連盟も十四目の年輪を重ねるまでに成長しました。真にお目出たいことです。

一口に十年というが、連盟にとってこの歳月は尊い汗の結晶です。美しい友情に結ばれた作品です。広大な本道の地域にどっしりと根を張り風雪に耐えぬいて今日を迎えた連盟は明日の本道の美術教育の中核としてその任はいよいよ重く、年毎に発表される研究成果は現場の先生方に広く深く直結して、皆さんに愛される連盟でありたい。そうした楽しい研究集団の中から理論と実践とが一段と飛躍して、珠のような児童の作品が生れてくることでしょう。どうか美を愛し、教育を愛する同志が今後一層研究を深め日本の造形教育のホープとして縦横の活躍することを期して連盟十年をお祝い致します。

副委員長——（旭川東五条小学校）

#### 一、発足のころ

図工サークルの発足は昭和二十五年十月頃と記憶している。この年の七、八月の二ヶ月単位取得の講習で同級であった者六名が帰校、後期せずして生徒作品の交換をはじめたことが地区にサークルをつくるきっかけとなった。勿論このころはサークルの呼称もなく、ただ何となく最年長者の石井幸作先生（故人）を中心にして作品の批評、教育の悩みなどを持ちよって語り合っていたに過ぎない。然し私たちの心の中には次の二点が私共共通の願いとしてはっきりと出来上っていた。即ち、共に絵をかく喜びを持ち合う仲間を集めよう、そして絵をかくことの楽しみを持つ子供達を一人でも増やそうということであった。

滝川を中心に散らばるわずかのメンバーが各町村の研究会、講習会、写生会に互いに講師として出掛けて費用の軽減額を計り、その地の同好の士を得ることの喜びは格別のものであり、何時の間には数十名の仲間が互いに顔見知りになった。この間約一年半の時間を費したのです。たまたま地区組合同文教育部の教科サークルの結成の時に逢い、連盟本部の呼びかけと共に正式に中地区図工サークルが誕生したわけですが、この時にはすでに地区内百名近い会員を擁していました。連盟負担金の出しどころがなくて苦慮したのもなつかしい思い出です。

## 思いのままに

平塚義雄

十年一昔といいますが、本当に早いものです。第一回大会を札幌での寒い木枯の吹く校舎でふるえながら、オーバーを着込んで発会式を行ってから回を重ねること九回、今ここに第十回という記念すべき大会に当り、今更ながら過ぎ去ったさまざまな事が走馬燈の如く廻転して参ります。現野村委員長を始め、退職された井田先生、各地区の古顔の皆さん、本当に親子兄弟以上の親しみを感じさせられます。札幌でも造形三校長が出られましたし、各地区においても続々として名校長が輩出しております。本当に喜ばしき限りでありませす。どうぞ皆さんこの第十回記念大会に当り我々造形教育人の仲間から名校長を次々と送り出して斯道発展の基礎をつくらうではありませんか……………。

皆さんの御奮闘を祈ります。——前副委員長——

(帯広市帯広小学校)

## 二、現況

中地区の範囲は滝川、赤平、声別、砂川、歌志内の五市、新十津川、江部乙の二町、雨竜、浦臼の二村、会員数一三八名、事務局を滝川第一小学校内におき、田中秀男先生に事務局長として地区サークルの事務を担当してもらっている。

各市町村に夫々支部を設けて独自の計画に基いてサークルの運用をしているが、地区全体としての行事としては次の様な事等もっている。

1 中空知地区造形教育研究会 年一回 2 図工資料集の編集 3 教研集会への研究態勢、計画の推進 4 教科書の研究 5 各支部研究会、講習会の協力援助 6 全道大会準備

特に昭和三十六年度第十一回全道造形教育研究大会の引受け地区として昨年末より準備を進めて来ているが、本年はその予行演習的な性格をもつ全道造形教育研究大会の計画も終りサークル会員一体となつて全道大会を迎える気構えに燃えている。

各支部のサークル委員長が互いに気心のわり合つた同志であり、平均月一回は会合をもつて支部の情勢を語り合える点で地方区としては恵まれた環境にあると言えるし、私共のまた大いに誇れるものであると信じている。尚また当地区の発展に幸いしているものの一つとして空知研究所の協力のあることである。

道連盟が発足以来十年、私共のささやかな願いから発展したこの地のサークルもまたいつの間にか十年間の時を経たわけです。

今後益々共によき友を得る機会をもちつつ、子供達の幸せのために努力したいと念願しております。——副委員長——

(茂尻中学校)

## 中空知地区のあゆみ

田中秀男

病床にあった私を、故石井幸作氏(滝川江陵中)が尋ねてきて、中空知美術教育連盟規約と私に全快の晩には「事務局長」就任を依頼されたのが、昭和三十年七月のことであった。

その以前には、本地区において組織だった集りはなかったが、故石井幸作氏(榊本州彦氏、富田弥一氏、根本哲夫氏などの有志)によって、美術教育振興への活動が続けられては来っていた。五市六町村にまたまたがる範囲と、併せて、中都市、工業、鉱業、農村地帯という地域構成の多様性の本地区においては、組織と連携に種々の困難があり、目立った活動が出来ない状態であったのである。

この停滞した現状打破の中から、中空知美術教育連盟が生れたことは、名実ともに、本地区において、本部連盟との提携が実現した記念すべき年であった。

委員長齋藤富男氏(茂尻中)、一戸信雄氏(豊沼小)を中心として当時の活動は教研の充実を通して活動を展開することを話しあった。この活動目標に従って、各市町村のサークルは研究活動がなされた。この中で、第五次全道教研に、私が「地域社会の中に育つ情操教育はどう進められなくてはならないか」というテーマを持って参加し、全道の美術教育の仲間との意見交流をはたした。

この機を第二の出発点として、研究成果を中空知の問題として把握し地域の浸透を図った。

このような動きの中で、昭和三十一年をむかえ(委員長・事務

局長留任)会員は六〇名を数え、第一回の中空知図工研究大会を私たち独自の力で滝川三小で、参加者二〇〇名を集めて行われた。この行事は中空知の美術教育への関心と仲間づくりには、大きな力となった。

即ち昭和三十二年には会員は百二十名にふえてきたと共に、各地域には特色ある活動がみられた。即ち児童美術展に全道的にも注目すべき成果をあげてきた上砂川小(早弓氏)、豊沼小(一戸氏)、色彩教育や地域社会との提携を課題として活動する上砂川東(側瀬氏)があらわれ、活潑化してきた。

昭和三十三年は名事務局長一戸氏を中心として、仲間づくりはいよいよ緊密化し、本部との研究交流を空知教育研究所を集合場所として、児童作品の見方、学習指導の研究を話し合い、事務局長所在の豊沼小において、サークルの仲間同志での学習研究会を開いた。この年の全道連盟役員会において、「造形活動における感動源の追求」と題して私が研究発表を行い、中空知の存在を明らかにした。この時「感動源」という新語を生んで多くの話題を提供したものであった。

昭和三十四年齋藤委員長、一戸事務局長の留任の中で、職員美術展二回、学習資料集の編集へと活動のエネルギーは充実化してきた。会員数も二二〇名を越えた。この年は多くの注目すべきことがあった。NHKにおいて滝川一小に文部大臣賞の他、茂尻、上砂川、砂川など多くの入選をみた。この中に現場では「芸術教育運動」をめざした歌志内中(森谷氏)、版画教育運動の滝川西(石原氏)、造形教育に新風をよそす芦別中(本田氏)など今後への活動が期待されている。本会の夢が着々と実を結びつつあることを、おつたえしたい。

(滝川市立滝川第一小学校)



## 帯広地区サークル

平塚義雄

当サークルは、全道図画工作教育連盟が札幌で設立と前後して十勝の一角から産声をあげたのであります。

その間実に十年の年月が流れておりますが、この間を振り返って見て今更感無量を感じる次第であります。

当時の私達のサークルは僅か六名の会員でしたが、現在の五十余名と比べて見ますとき時代の大きな波と発展の跡がまざまざと見られるのであります。

第一回大会から常に四五名宛の参加者を送って研究に参画しましたが、その成果は各地区にとって大きなプラスとなつて、図工教育のよなき手掛りとなつた事はいうまでもありません。

帯広地区としては常に全道大会のテーマと全道教研のテーマを基盤として、その上に立つて、サークル独自の研究を加味して来たのであります。主として、一昨年まではカリキラム編成と評価に就いての研究をして来ましたが、年中行事として春秋二回の児童生徒の写生大会並に展覧会、教師は実技研修会として屋内、野外にコースチーム、写生旅行等をもつて死んで来ました。

尚各学期に研究授業をもつて広範囲に亘る指導研究をなし常に新感覚の注入を忘れないようにして来ました。

帯広のサークルは、なかなか若人の意気が旺盛になつて来て、独自のグループ研究にそしんでいます。

- 今年の研究テーマとしては、  
一、構想画の研究グループ  
二、表現材料の研究グループ

ました。

## 二、サークルの活動状況、研究問題

子供の絵に対する考えや見方も戦後は大きく変化しました。私たちの活動をふり返つてみると、前年の五年は新しい児童画に

## 造形連盟十周年を祝して

佐藤 諒

いつもよかつたなあーと思うこと、それは北海道に生れ北海道で育つた々ということ。自分の郷里には、誰れしも愛着を持つていて、北海道を離れ、東京という変態的マンモス都市に生活し、造形教育にたづさわつてゐる北海道人々として、いつも思うことです。

造形教育―それは、単に手際の良い、みてくれの良い作品を作らせるのがそのねらいではありません。造形という活動を通しての、創造性豊かな、生気に満ちた人間を育成するのがその本質です。

塵埃と人いきれに息をつまらせ、騒音と過度の刺戟に神経をすりへらし、自分の立場を保つために、他人を蹴落さざるを得ないような都会の生活の中から、健全な造形が生れるか甚だ疑問です。この点北海道は、その可能性が充分にあると信じます。今年で、北海道造形連盟結成十周年とのこと、この貴重なつみあげをもとにして、さらによりよき発展のあらんことを心から望みます。

―大会講師―

(東京都港区御田小学校教諭)

三、評価の実践的研究グループ  
このようになって居りますが、サークル員全部が何等かの形で責任をもてるように、三部に分れて、毎月サークル研究会集日に発表の場をもつようにして居ります。

何れにしても吾々が自分の力を磨くこと素質の向上をはかる事が先決問題であつてその後に来るものとして、広い気持ちで、父母と手を握り、一般社会に造形教育が如何に必要であるか、日常生活に必須なものであることを深く深く認識させるために努力して居ります。

(帯広小学校)

## 北見地区

松田陽一郎

## 一、発足のころ

私たちのサークルの胎動は敗戦直後の昭和二十二年十月、あの大混乱の中に打ひしがれた子供たちや大人たちに、明かるい希望を与えるような活動をしようでないかとのもり上りから、大友一夫先生(現在札幌南小学校)を中心に児童文化協会を発足させ、文学・音楽・演劇・絵画等の部門に分かれて活動を開始した。その絵画部門の活動こそサークルの誕生といえると思ひます。中心になつて牽引車の役を果たされた先生は菅原隆治先生(現在北見東陵中学校) 鷺見憲治先生(現在北見藤学園) 古賀武治先生(現在遠軽東社名瀬小学校) 等であり、物資窮乏の時とばしいポケットマネーをはたき、あるいは町を辿つて主旨への協力を願ひ戦後第一回の子供の絵の展覧会を開催したのは昭和二十三年の四月でした。その後組合の発足と共に文教部の中へ合流、児童画展・写生会・職員研修・図画教室の開催などの活動を続けてき

対する勉強や実験の時代であつた様に思われます。めまぐるしく変転する時代の中で人間作りの造形教育はどうあればよいのか、というテーマのもとに児童画展を開き図画教室を開き、お互に手をとりあつて語り合い、ささやかな実践を積み上げて来ました。

後の五年は停滞と教育課程研究の時代の様に思ひます。サークルの牽引車の先輩の転任や多忙から仲間の年代も二十代人々となり再び混乱の時代に入りました。しかし教育課程研究という時代の要求に当面し昨年はまがりなりにも「図工の手びき」を作り、今年には毎月、月例会を開いたり、通信を出すといった高まりもみせております。

## 三、サークルの現況

今年は中学校の問題が大きくサークルの問題として浮かび上つて来ました。2・2・2の問題や技術・美術の問題等私たちがではどうにもならない程大きな問題です。しかし、いつまでもてあましていても仕方がありません。試行錯誤であつてもかまわないから、私たちがこの問題を勉強してみよう。何か手がかりを作ろうとの話し合ひで、それぞれ仕事を分担して研究にとりかかれました。また小学校側は学年別単元作成資料表を作ろうというのが課題です。

○本年度の研究部の構成は

会員数 四十三名

事務校

北見市立南中学校

部長 永地恒夫

南中学校

副 田丸忠

東小学校

(北見市中央小学校)



# 網走地区の造形教育

木村晴一

美術教育を愛し教師の熱烈な使命感が実践の一すじの路をつくり大きな道となり、現代文化を形成しつつある事に北海道造形教育連盟の今日の幸せと感激がある。

ここに身を挺し美術教育に尽し捧げられた人々、教師に限らず陰の力となり美術教育に大きな力をいたされた方々に心から感謝を捧げます。

この地区に現在活躍している立派な先生方の御仕事などとてもくわしく書けるスペースがなくて残念である、がやがてこの事は美術教育の研究の深さ、実践の大きな力となり、広く明らかにする後の機会にゆずり、いささか現況を申し上げ記念誌発行の一役をつとめたい。

昭和32年5月3日これまで続けて来た研究グループを広い地域にある学校に呼びかけ組織化し最近造形、デザイン、構成教育を唱導され、この研究実践が活潑に全国的に高められているが、地方の教育現場はとかく文化的に充分な交流を欠くうらみがあり、何とか児童生徒の造形教育の明確な理論研究、現場の研究交換と、お互の利益ばかりでなく、社会的にも役立つ仕事として、研究会、展覧会、機関紙発行等一緒になって、新しい美術による教育の確立を主旨に、二十九名の会員で発足、その後、退職なさった先生もおられるが、当地区会員名を連盟名簿に記載した。

- ①造形教育の個人的、社会的意義
- ②造形教育における絵画、彫刻、デザイン、工作のもつ意義

## 結成十年に

花岡一

北海道造形教育連盟が結成されて十年になりました。その間会員数、加入地区は年々多くなってその活動はいよいよ活潑になってきていますが、連盟を作り育てられた諸氏に深い敬意を表し、本道教育のために感謝の念あつくするものであります。

今や造形教育の重要性は教育の基本的な人間解放、創造性育成という点から、教育界はもとより社会的にも認められてきました。私はさらに美的情操の教育を造形教育の基本的なものとして深く考えていきたいと思えます。自己主張のみに終らずに他人のよい点を認めて共によるこびある様な心情をもこの美的情操という事の中に考えたいと思うのであります。小学校の図画工作教育は中学校で二つに分けようという動きを見していますが、私はここでもあくまで造形教育の精神を貫いて造形的な創造性を背柱としていきたいものだと考え、今後中学校の合理的な科学的な造形表現の教育にさらに研究を進めていきたいと思えます。それは決して生産の過程における片々たる技術の習得というような安易な教育であってはいけないと考えています。

連盟会員諸氏のますます御健康で御精進される事を心から念願いたします。

顧問 (北海道学芸大学教授)

- ③造形教育の定義
- ④造形教育と生活

- ⑤デザイン教育における装飾と機能
- ⑥グッドテオストとグッドデザイン
- ⑦デザインと教育とデザイナー教育
- ⑧デザイナー教育者と美術教育者
- ⑨工作教育の直接目標
- ⑩人間形成としての工作教育の特質
- ⑪手工芸と工作教育
- ⑫近代産業技術と工作教育
- ⑬他教科中の工作との違い
- ⑭児童画の指導
- ⑮基礎的造形感覚練習
- ⑯各校の図工科の現状、と理論

実技研究を毎回重ね、連盟全道大会へ積極的に参加。

昭和33年、日教組第八次教研集会網走地区第四方面大会で、中学図工科時間削減に強く反対し、「中学校美術科必須時間一年二時間、二年二時間、三年二時間を最低とすべきである、一」を決議し直ちに大会名で文部大臣、関係機関に文書を発送、さらに二千人を超える署名を得ている。父母の間から美術教育が人間形成の上に極めて重要である事の所信が述べられ自発的に斗争資金カンパ達申し出られ人達のある事を記録したい。

35年全国中学図工教育連盟発足、連盟ニュース道連盟特報、中学美術科各学年、必修2時間に対する要望書を各中学校長、関係機関に発送、中学美術科2・2・2の時間獲得に、新しい美術教育への認識と啓蒙に努力する。

遠軽を中心に毎春、母の目を定め写生大会を開催、第4回記録に参加小学校十一、中学八、指導の先生四十五名、幼稚園、保育

所、父母、自衛隊員、連合婦人会約千五百名参加、母の賞を授賞、盛大な行事となっている。国際親善児童画展、版画展、児童生徒美術展を開催している事。

さらにわれわれが「現代」とは、時の今というだけではなく、特殊な性格を示すもので、ルネッサンスに始まり十九世紀半ばに及んだ「近代」が信仰中心の心の知性の文化であったように、「現代」は近代文化の主知的傾向に対して、神秘、直観、形成的な行動意欲などを主張し、近代に見失われ、あるいは否定されていた、自由な創造的人間の恢復と、ひろがり、深さ、強さなどをもつ新しい自然の発見とを志向している。生徒の作品をみる時、それがどんなにその対象たる自然を超えて、独自の世界をもち、形成しているかということは極めて大切な事である。

われわれは、日本の教育に思春期における新しい美術教育を実在させる事を願う者である。

(紋別郡遠軽中学校)

(連盟バッジ)



黒と黄の、そのバッジは、かつて図画工作連盟といったころにできたもの。黄色いはとの形は、黒い形と共に図画の図の字をあらわし、外側のわずかにくぼんだ四辺形は、工作の工と、北海道のHとをあらわしたものだ。

### 宗谷地区サークルの歩み

菅原 順悦

宗谷管内各町村に図工科サークルが発足したのは昭和二十八年頃ではなかったろうか、その頃北見沿線の鬼志別中学校で各町村の図工サークル部会会議が開かれ、図工科の悩みを話し合い低調さを共に嘆き実技研修を大いにやろうと協議したことがある。当時はサークル部員も各町村四・五人位でしかも中学校の先生が主で小学校では少々絵に興味のある先生でなければならなかった。ですからどんな風に絵の指導をしたら子供達はのびるだろうか、工作指導に木工具がないのにどうすれば良いとかということに話しは何時もつきた。勿論全道の図工連盟とのつながりは全くなく地区の役員が誰なのか知るよしもなかった。現在では各町村の教育研究協議会あり宗谷教育研究所設立し図工科サークルも部員の数も増し充実した足跡を残しつつある。特に教育局委嘱による管内教育指導員の巡回指導は図工科教育を次第に明るみに見え出し図工科サークルの動きも活発になって来た。最近の各市町村サークルの研究テーマを見ると

- 1、身近な材料を生かした工作指導
- 2、地域性を生かした教材研究と簡単な彫塑の指導法について

- 3、いろいろなデザイン指導の実例
- 4、児童画の鑑賞と評価について
- 5、いろいろな絵の描画指導の研究
- 6、指人形の作り方とその扱い方等があげられる。そして部会による研究発表会をもち大いに研究を積んでいる。さらに年間計画の中には
- 1、図工科指導員の巡回実技研修会開催
- 2、児童生徒の作品巡回展覧会を開き
- 3、絵の具会社後援の写生会を実施し
- 4、児童画のスライド作製
- 5、東西名画鑑賞会を開き
- 6、昨今は地域にあったカリキュラム作製に全力をつくしている。

#### 現況

事務校 天塩郡豊富小学校  
 会 員 一三名

地区委員 小学校 菅原 順悦  
 (天塩郡豊富小学校)

### 留萌市のサークル活動

志 村 猛

#### 一、発足したころのこと

全道図工連盟が発足した当初、留萌市にはまだはっきり形でのサークル組織は出来ていなかった。その後留萌市教育振興会の下部組織として各教科サークルと一緒に留萌市図工サークルの誕生をみた。それが道連盟ともはっきりした形でつながりをもつようになったのが昭和二十六年の春であったと思う。ちょうど道連盟発足の翌年ということになる。

当時の留萌市図工サークルは市内各校の図工関係の先生たちが集って同好会的な集りとして発足したものであった。

初代会長として私が就任、副会長には留中の本間、それに留中橋場、留小山下(死亡)、東光梨本、礼受中野、出村、汐静田口、港北佐々川など同勢十四五名といった至って小ぢんまりとした組織であった。

十年を経た今日その頃の仲間のうちサークルがかわってやめたもの、よそへ転出した者などで、あの頃の仲間でも残っているのはほんの四、五名になってしまった。一昔というこの年月の経過を少しおの感慨をもって想い出している。然しまた反面その後新人の加入等によってサークル活動の上に新しい感覚が盛られ、前進をつづけてくれていることは喜ばしい。

#### 二、サークルの活動

留萌市は地理的にみても道北の辺地である。これはまた、芸術的、文化的辺地といった事とも通ずるものがある。

こうした環境にある我々図工教師の使命として考えたことは、「いくらからでもこうした辺地の文化と、子供の生活のために明るく、美しい灯をともしてやりたい。——図工という教科を通じて——こうした気持で我々の仕事が進められ今日に至っている。主な仕事としてやっていることは、

- ① 図画や工作が子供の豊かな心を育てる上に大切な勉強であることを、地域の父兄によく知ってもらうための働きをする。
- ② 子供たちが喜んで絵を画き、工作をするようにするために我々教師はどんな指導をしたらよいかを、お互いに研究する。
- ③ 教師自身の研修と実技の向上をはかる。
- ④ 毎年研究テーマをきめて、それを中心研究問題としながらサークル活動を進める。

右の目標を達するために○子供の絵を中心とした父兄との懇談

○市内児童生徒の写生会並に展覧会の開催。○教師の授業研究。

○実技講習会の開催。などを年間の行事として行ってきた。こうした仕事を進めてゆく上に何といっても一番大事なことはサークルの全員が気持を一つにして何事も進めてゆくこととでなければならぬ。幸い我々のサークルは二十名をこそこの小人数ではあるが、実によく気持が融和している、そして協力的である。

まだまだ人に誇れるような立派な仕事も研究も出来てはいないが、こうした融和と協力の気持を固めて、今後とも仕事の上でも何とかよいものをままとめてゆきたいものと考えている。

#### 三、現況

- (一)組織  
 会長 志村 猛 (峙下小)  
 副会長 中野照雄 (留小) 橋場昌三 (留中)  
 (留萌市立峙下小学校)

## 縁深きを想う

森 桂 一

十年間の着実な研究のあとが顧みられるという機会、喜んで新妻氏の求めに応じ私なりの追想をかかせてもらおうことにする。この間一年おきくらいに数回北海道へ迎えられて、級友戸坂教授や野村委員長はじめ連盟幹部の方々には格別の交誼をめぐまれてきた私である。

貧しい研究であったが、その都度精一杯に訴えた内容を今思いかえしてみると、それはこの教育の発展推移の歴史でもあったかのように思われてくる。

二十七年の春だったか野村氏の円山小学校を振出しに四大都市の学校を廻った時私は「児童画の発達心理的研究」についてお話をしたと記憶している。はじめて味わった北海道の自然に、人々に私は深い愛着をもってしまった。

その翌年か創美運動のエキスパートたちが何って、解放論の強調があったらしく、次の年旭川大会には「指導」ということの真義とその実践」という難問を私が受けて二三ヶ月苦しんだあげく、おびたしい作品例をたずさえてこれに応えようと赴いた。私が図画で手塚氏が工作についてお話をした。私がその時用いた心と頭と手、感性と知性と技術の一体的訓練という図形はその後造形教育センターの旗じるしともなり、またこんどの指導要領の根底に適應させて役だった原理ともなったように思う。

その翌年三十年かには全国大会が札幌に催おされて、我々

の深い疑問としている、絵をかく純粹表現と条件目的に従って現わすデザイン的表現が一人の児童の心理内でどう融合するのか。といった問題を解明してもらいたく、今泉、勝見の両評論家を私が案内したのであるが、これはこちらのねらいがいささか大きすぎて無理だったようである。

三十二年私ははからずもオランダの国際美術教育会議へ臨み「思春期の美術教育」という大問題とぶつかった。会議前後の欧州旅行で教育についても美術に関しても私は多少なりとも判断力や感受性に影響を受けた。

翌年小樽の大会に迎えられてその報告をし、併せて発表直前の新指導要領にある見通しをつけてお話をした私なりの背景原理について先生方の御了解を得たつもりであったが直後長野における全国大会で突如として甚だ好ましくからぬ技術・家庭科の公表ともなつて驚いたのである。ここからまた当分の教育の困難性が宿命づけられてしまったように思われる時の動きというか、日本の運命とでもいうのか、抗しきれない教科外の問題ともなつてしまったわけである。

その後、技術を中心に、またデザインを主張に熱意ある研究大会が行われたようであるが、私はここで我々が一度、御破算というか、抜本塞源の深い思慮をめぐらさねばならぬ時がきているように思うのである。それはアーティスト・デザイナー、エンジニアには皆各々の立場による偏見というものがあつた。また教育行政の担当者にも社会通念にも同様のことがいえるように思う。先生方ももういい加減に成績のあげっこを反省して、子供の経験と心理の内奥を深く探る必要があるのではないだろうか。私の今やっていることの一つ

を記せば現場の教育慣用語を心理学辭典で整理させている。あえて難解にしようというのではなく、平易な言葉にして概念を共通にさせたい希望からである。また子供一人一人表現が異なることのねうちもさることながら、人間であるからにははじめこう現わしてやがてこう現わすという段階を見きわめることも大切である。指導要領の基礎能力という言葉が旧弊の教師にうってつけともなりそうであるし、ピクチャーメーキング・パターンメーキングという言葉や内容は外国にもあるが、日本では「子供の抽象画」など、本気でいっている向もあつた。デザイン教育もそれ一つぬき出すと甚だ怪しげなものが多いし中学の技術ともなれば実践もなければ原理さえもうたたぬ状態である。普通教育全体の中へこれが正しい位置づけをなしとげるのはいつの日かと思うのである。

この八月末マニラでのINSSEA第三回大会へ代表を送ることや、世界の権威者が帰路日本へ立寄ることに關して、私

## 躍進あるのみ

清 水 仁 郎

オホツクの海も流水が去って、わがもの顔に色とりどりの花が咲き乱れる素朴な美しさに富んだ網走で第十四の大会を持てることを光榮に思っている。

先人のこれまでにする経営の苦勞さを会場を持つことよつてしみじみと感ずる。

連盟に対してとやかく云云する人もあるが十年間の輝く業績は

は今何日そのことに昇舟させられている。「人と芸術、東と西」という大テーマへ近づけるべく教人の代表の発表内容を詮議しているところである。折悪しく日本の全国大会と重なるので私は全国大会の方へ出席することにし、五年後に日本に迎えるFEA国際会議に備えるためにも、日本の美術教育団体の一本化が出来ないものかと訴えてみるつもりである。日本一の大単位である北海道の方々にも御理解を得たいものである。都道府県を構成単位とする純粋な教育者のアソシエーション(協会)にならないであろうか。従来の場合には発展的解消をして差支えない機運にあるように思われる。箱根の大会は幼小中高大学の部会別に膝つき合せて大いに語りあう式に営まれると思う。

第十回全道大会が過去の業績をかえりみられ本当に劃期的な飛躍をとげられるよう衷心から祈つて筆をおく。

——大会講師—— (千葉大学教授)

偉大である。

人間形成の基礎である人間性の陶冶は造形教育をおいて他にあらざるだろうか。自然の美しさを美しいと心の奥底で感じさせてくれるものは造形教育にたずさわる者のみが、より深く得られるよろこびだろう。一人こつこつと一つの物を造つたり描いたりする時に他の雑音も打ち消されて、全霊を捧げ尽せる有難さをも感ずる。

この十周年を機会に十年間の実績を土台にして新しい構想で造形教育連盟という改名にふさわしい運営がなされ躍進することを心から楽しみにしている。

——副委員長——

(網走市平和小学校)

### 湖北の地稚内のサークル

佐藤隆男

#### 発足から。

昭和二十年あのいまわしい戦争も終り、虚脱と混乱の中に、私共教育に身をおくものも、世の凡ゆる人々もただ啞然として、ものなりの行きにまかせていた時代私共図画工作を愛する有志により同好会を作り、ささやかな営みの中に乏しい財布を傾け、図工発展と同好の誼をかねて発足したが、現在の稚内市教育研究会造形部会の前身である。時移り世相も変り十余年後の現在の環境を想う時感無量のものがあります。この間幾多の問題をはらみ、あるいは発展的解消もし、あるいは再編成もして今日のように道連盟に繋りをもった地についたサークルが出来上ったのである。特に会発展のため中軸となり尽瘁して下さった、南小分校の納谷教頭南小対馬教頭、北小桂教頭、大谷校長、堀野校長の各先生に深甚なる感謝を捧げ今後其大いに会の発展に意を注がれん事を期待してやみません。また近年造形部会の有志と稚内の民間人の有志各位の間で作られている、稚内美術協会の影響も大きく評価すべきである。それから南中の今野隆二氏は東光会員でもあり、この地きつての画人でもある。林田一樹・種田満・相模昇二・滝島実・久我宏・大沢勝雄・小野治信・飯田勇の諸氏は第一線に活躍を続け当地の偉材でその成果も目ざましいものがある。

稚内というところ。

この地はやはり文化僻遠の地である。熊笹の繁った丘陵地が多



#### 一、発足の事情

この苦小牧地区は、道の造形教育連盟下の地区サークルとしては、正式な発足はない。たんに、苦小牧市教育研究会の中の図工部会から、道連盟（地区代表として）委員を送っていたということである。

発足のころの代表は、清水石政雄君（現在東小）であった。

正式な下部組織ではないので、研究の記録を書くとなると市の図工部会の歩みと全く同じものになるわけであるので割愛したい。

#### 二、これからの活動

二、三年前、清水石君から私がバトンをうけついでたわけであるが、その際、図工部員即道の造形連盟加盟ということにしたので、事実上の下部組織はこの時出来たということになるかも知れない。然し、表だって発会したわけでもない。

昨年、市の教育研究会が解消して、組合文教部一本となったが、色々実践上の悩みが出てきたので、近く巾広く柔軟な活動をしたことから、一民間教育団体を起すべくすすめている。それが、道の造形教育連盟の支部となるかどうかははっきりしない。美術教育を進めあるいはこれに関心を持つ民間人にも参加して

もらいたいと思っているからである。

く、その昔無計画な火入れのため山火事が多く焼野原になったので樹木に乏しく、何か寒々とした灰色の感じであるが、また変わった妙味のある写生地もないわけではない。樺太犬で有名になった市の裏山の自然的な公園、また市有市場の船の出入の景観、道立公園の利札の浮島等々は好適の画材でもあり、また流水におおわれた港内の白羊をおもわせる流水群も他に見られぬ画材でもある。

サークルのことから。

本年度は教育界にとって、幾多の重要な課題が横たわっていることは御承知の通りで教科課程からんで中学校の時間の問題、教科書採択から来年度の新教科書のカリキュラムの編成などなかなか多忙である。しかしこの問題は今年中に徹底的に究明し纏めを得るため努力しなければならぬ。そしてやり遂げねばならない課題である。まさに潮の引き際の混乱のようです。当部会も道の連盟に直結して過去の積上げに立って教育課程の自主編成のための研究と地域社会の造形教育を推進するため困難を感じている点の解明を主題に全員の協力を得て、それぞれの委員をあげて問題究明のため努力しつつあり三月の発表会には、よりよき成果が見られる事と思う。

本年度の歩みとしては、移動研究授業、実技の研修講習会、児童生徒画展、移動展示会、児童生徒写生大会（春と秋）カリキュラム委員会造形教育研究会の開催等々、三十余名の部員一丸となつて湖北稚内の造形教育に挺身してその成果を挙げつつある。

終りに、

- 事務校——稚内市立声問小学校
- 会員数——三十五名
- 地区委員——小学校 佐藤隆男・中学校 今野隆二
- (稚内市声問小学校)

そして、その中で押しすすめた仕事はおよそ次の三つである。

これまで通り造形学習の問題をすすめる

現在の街を美しくする運動（ネオン・看板・標示・公共建築物等に関する問題）

将来の街路樹、都市計画に伴う広場、公園、児童遊園地の企画設計に関する問題。

等を取りあげて、苦小牧市の街づくりと並行して研究を進めたいと考えている。

これまで具体的には、「現在と未来の苦小牧を描く展覧会」を毎年継続して開いている他、新設校緑小では、「いこいの広場・遊びの広場」の二つの構想を持つ児童公園の完成を急いでいる。

苦小牧の都市計画では、将来かなりの児童公園の計画があるので、積極的に研究をおすすみたいと思っている。

従来の教育団体から多少はみ出た考えであるが、美術を民衆のものとするためには、こう進まねばならぬ時期に来ていると思ふ。

#### 三、現況

- 事務校は、緑小
- 地区委員は、小学校は遠藤（緑小） 中学校は鹿毛（弥生中）
- 会員数は約三〇名

(苦小牧市緑小学校)

# 名寄市地区サークル

伊賀 明

名寄市の美術教育の歴史は古く、名寄が「絵の旺んな街」として芽ばえはじめたのは明治四十四年名寄小学校に教員として赴任してきた上野山清貞氏をもって出発点とする。

その後先年バリーから帰えって来た田辺謙輔氏のつくった湖人社展によって育てられた人達が現在第一線で市の図工教育を進めている。全道図工連盟とのつながりは昭和三十三年の四月からで、これまでの市の教育研究会の図工サークル員二十名がそのまま全員加入した。市教研サークルと連盟サークルとが一体の強力態勢で活動しているところが当地区の特長といえよう。

サークルでは児童生徒の写生会と展覧会を春と秋二回、作品展を一回もちまた会員の写生会スケッチ旅行会等を行っている。

現在智恵文中学校を事務校として、会員も三十数名となり一段と活潑な活動をおし進めている。

地区委員は智恵文中学校の伊賀 明  
副委員は名寄小学校の 鈴木一徳  
(名寄市智恵文中学校)

## 留萌地区サークルの記録

加藤 正

### 一、発足

- 1、三十四年九月、留萌管内教育研究大会図工分科会の助言者として出席された留萌市の志村先生が小生や管内サークルに全道図工連盟(当時の名称)に加入するようすすめられる。
- 2、三十五年三月末の図工連盟総会(この時から造形連盟となる)に小生がオブザーバーとして出席——胸に連盟バッジが輝く。

管内の各町村サークル全部を加入させるべく構想をえがきながら帰途に着く。

- 3、三十五年度サークル総会において、各町村サークル主任に連盟の主旨と現状を説明する。——管内サークルとして連盟加入決定——四十数名
- 後進の地にも連盟バッジがチラチラ目にうつるようになる。

### 二、特記すべき研究テーマ

素直に——管内の図工教育の地力のなさを認めざるを得ない。

昭和三十三年旭川市において開催された第二次全道教研大会の図工分科会に代表を送ったのが初めてであり、それだけに研究の日が浅く、実績がないため特記すべきものは見当らない。

## 流 転

長谷川 伝

昭和二十二・三年頃であったかと思いますが、写生が萬能の本道美術界に、ささやかな抵抗を試みてからの私の生活は日日、斗魂が充溢しているように思えて、何か楽しかったものでした。

子供を毎日話し相手としている私には、この頃また、少しずつ変化が起っています。それは、抵抗くということ再認しようとする意志が、日増しに強くなっていくことです。

子供の生活の中から障害を取り除いて……という考えに変わりはないが、どうも良い絵が出来ない様に思えます。心の底にくすぶりつづけていたものが、爆発的な勢で表現されるといような状態でない、何か甘つちよるい絵が出来てしまうということです。然し私は絵を描かない子供が一つばいになって、——あらゆる点で幸せな状態になって——世の中が、明るいものになることを望んでいます。すると、そのような平和な世界には、どんな芸術が、またはどのような表現活動が一般に、行なわれるのかな……などと考えています。芸術の世界は抵抗なしにあり得ないように思えますが、四次限、五次限の世界を創造するようなものがありそうです。新しい抵抗を求めながら今日も一日が二十四時間しかないことを、心惜しく思うのです。本道の美術教育は一步歩良い前進をしていますが、世の中は逆の現象を見せているように思えます。私には一日が二十四時間に限定されている現在をうらめしく思うことのみで、力弱く子供のことを考えているのですね。大きな動きにさからう力をためしながら。  
(札幌市曙小学校)

### 三、現況

管内サークル員は、多忙な日常の勤務の中にあつて、現在の図工教育の反省と改善に努力している。

サークル員約五十名(連盟加入)は、直面している新指導要領に対してするどい批判と検討を加え、これを契機として、管内造形教育の立ち遅れをとりかえそうとしている。

本年度の管内の研究主題は「改訂学習指導要領の批判検討——実践をとおして——」一本やりであることからもうかがい知ることができよう。

しかし、教育課程以前の問題がわれわれ図工サークル員の前に立ちふさがっているのである。

ひからびた絵の具と紙とはさみが、唯一の教具であり、ペニヤで仕切られた普通教室が唯一の施設であるこの地域に至って、造形教育を如何に推しすすめたらよいかというも難く、行方も至難の現状である。

しかし、この様な環境にある管内にも学校ぐるみで造形教育に当っている初山別村の初浦小学校、個人の教師の力で施設を整え、独創的図工経営をしている羽幌中学校、増毛二中、近代施設を着々整えている増毛一中等、誠に力強い歩みのあることをおしらせして筆をおく。

(苫前郡羽幌町太陽中学校)

## 南空知図工サークルの動き

真田七郎

第九次南空知教研集会の芸術部会において、

1、改訂指導要領とその受けとめ方 2、自主編成を進める場合南空知の態度をどのように確立しなければならないか。について討議したが、2については、現在各支部ごとの図工サークル活動にとどまることなく、さらに大きく南空知としての図工サークルを結成し、これが全空知はもとより全道の造形教育連盟にまで手をつなぎ、全国的視野に立って、第九次教研までの成果をさらに積みあげ、現場人としての自信をもって、自主編成を推進するのぞきなければならぬという結論が出ました。

早速北教組南空知区協に、南空知図工サークル結成のための助成を要望し、ここに、各支部より準備委員をあげて計画を進め、昭和三十五年二月十二日ついに待望の南空知造形教育連盟が誕生しました。委員長に森松治、副委員長に周田定光、事務局長員田七郎、委員に山本正夫、田所昭穂、長谷忠夫、近藤桂子、山下泰宏、以上の役員が決定しました。

本連盟は南空知造形教育の振興を図ることを目的とし、その目的達成のため、1、連盟員の資質向上、2、児童生徒の資質向上、3、その他目的達成に必要な事項、以上の事業を行うことになりました。当面の仕事として

1、北海道造形教育連盟に加入し、明年度全道大会の空知会場  
 1、移行期における研究  
 イ、各支部図工サークルの育成  
 ロ、各支部学校図工科カリキュラムの検討  
 ハ、教科書検討  
 2、中学校図工科対策—学校長地教委への啓蒙  
 3、南空知第十次教研集会の芸術部会推進  
 二、由仁町図工実技講習会後援  
 1、各支部図工サークル員多数参加する様推進する  
 2、南空知造形教育連盟の総会を行事日程にくみ入れて開催する  
 三、南空知図画作品展（児童生徒）向上に援助  
 四、図工科教材教具の研究  
 五、各支部図工サークル年間行事の情報、交換  
 六、北海道造形教育連盟に加入  
 七、三十六年度全道大会の空知会場の準備推進

（空知郡幌向村南幌中学校）

## 凝り性 荒木愛子

造形教育人は、なかなかの凝り性である。その大部分が造形作家なのだから、一つの発想から、思案し沈潜し、醜態させてきて、表現の完成へという制作過程を考え合わせれば、それは当然の肌合なのにはない。これはまた、多分に、新しいものとびつかない用心深さ、慎重さを内蔵しているといえる。昭和二十七年に、三日にわたる創造美育主義解明の会をもった連盟は、私のような不勉強な駄馬たちにおどろきの眼をみひらかせるのに充分だったが、これが凝り性のしわざであった。ショック療法によって駄馬たちの自主性を大いにうながそうというタクラミなのであった。少くとも、今日の造形教育を指向する一角となったことを、凝り性はひそかにホクソ笑んだにちがいない。しかし連盟のその後のたずなは、用心深く引きしぼられ、きびしく無益の奔走をたしなめた。何々主義を解説はしてもいずれにも加担せず、批判的で冷静で、あくまでも連盟のペースを乱さなかった。そして十年、その処置は当然のようにそれぞれの個性ある野馬駄馬群の出現となった。今こそ凝り性の、ほんものの笑みをもたらしていい時が来たといえそうである。

昨年 創美北海道支部が生まれたが、連盟は大いにこれを励まし、野村委員長を始めとして続々参加、共に学ぼうという意欲をみせられて、一同を感激させた。名目は何であろうと造形教育を愛するかぎり、少しでも支えとなるものがあれば

（札幌市桑園小学校）

## 十年の回想 太田達雄

ストロブが消えかかりそうになつて薄暗い教室で、藤野高常先生や野村さん、新妻さんらの中に十数名の者が頷きあつたり目を光らしたりして真剣に議論し合っている。戸外には細かい雪が休みなく降り続いて帰宅を急ぐ人達が襟に顔をうめて往き来する。

図工教育に熱情を燃やし続けての議論はいつ果てるとも思われない。——こうした事が何回も続いた。そしてこれが、十年前の連盟誕生の頃の姿であった。

地区委員と膝を交えての会合のあと、連盟名物の余興レクリエーションが始まる。

クノートルダムの背むし男、ゴーン

——余り有名な野村委員長の百面相。

ク流す筏もアリアヤけれどグシユツシユツと畳の上で筏を流す新妻さん。

ク花火——導火線のもえている所——シユツ、シユツ。これは戸坂先生の理想型花火の秘芸。

## 北空知函工サークルの歩み

山 本 栄 蔵

北空知の函工サークルができたのが昭和二十五年頃といわれる。当時北教組北空知協議会文教部が主体となって各教科別のサークルをこしらえたことから考えてみると恐らく現在の形式と同じように函工サークルにも十支部の代表十名で構成されていたに違いない。

私が昭和三十年から今日に到るまでこのサークルの仕事に携って来たが、常に感じていたことは、毎年各支部から集って来られる支部代表(支部函工サークル委員長)の顔振れが変わってしまい、各支部で委員長に選出されなければどんなに望んでも地区サークル員にはなれないという矛盾をもって今なお続けられているという事である。だから折角地区サークルに入って張り切っている一年間、現場の諸問題など共通な悩みを話し合ったり、また自己研修のため参加しはじめても、本人の意志とは別に来年は他のサークルに行かねばならない破目にならざるを得ないのである。その事を私は毎年組合のそのすじに訴えて来たが仲々実現されない。今年もサークル加入を希望している方がその意志の続く限り手を携えて行けるような仕組みにしてほしいと、篤と文教部長に要望しておいた。こういう悩みの中で一方では別の動きが見えはじめた。それは当時北海道函工工作連盟(現在の造形連盟)の北空知地区サークルを結成することであった。そういう必要性を痛感していたの

裸踊りで偉大なところを鑑賞資料に敢えて提供された寺井さんの表装。時には全員を心配させて幻筆と行進し虎穴におちたという和田さんの大虎ぶり。  
こうした数々のエネルギーと大きな人の和によって連盟は強くたくましく成長し続けてきた。  
(札幌市北辰中学校)

## 私の十年 高橋 良 助

十年前、私に札幌に出ないかといってくれました。その先生とは昭和九年によばれて網走の教育研究会に行つたとき以来のつきあいです。今年また網走に行くことになろうとは。ある夏全日本函工大大会が問われ、中央創成校で、私は提案者の役を果しましたが、私にとってはこの学校の「このへん」の空間は思い出懐しいものがあるのです。「区役所」なんて呼ばれて、札幌が八万足らずだった頃のこと、この工業夜学校に通っていたからなのです。製図の作品を返して貰つたのに、いつも「九十五点」だったのですから、どうにかして一度でよいから百点貰いたいものと努力しましたが、とうとう卒業まで百点は貰えませんでした。私はフト 何時の日にか間違つても先生というものになることが出来たなら、「この先生の流儀で」と強く深く心に期したことでした。その作品九十五点とかかれたのは、今でも大切に持っています。札幌へ来て、まもなくの頃子供にリンク仕掛のおもちゃを

で、早速各支部の委員長を通じ連盟本部の規約などを参考に呼びかけたところ漸くにして二十名ばかりの会員が揃い、昭和三十三年十一月二十四日、形ばかりの連盟北空知サークルが結成され、氏名が連盟本部の機関紙に掲げられた。しかし少数のメンバーではあるが当時の会員が今なお堅く結ばれている事は矢張り本当の意味でのサークル員という事ができるのではなからうか。その後のサークルの会合には、支部代表のサークル員と連盟サークル員とが合流して集ることになった。だが組合のサークルと連盟のサークル員三十名が一体となって事を行ったとはいえず、問題はまだまだ重なっていた。当地区の地域が余りにも広くまた交通の便がよくないという事実である。最も便利なところで会合したにしても、遠いところの先生なぞ冬は一晩泊りで出てくるという有様で旅費などにしても大変である。だからそうひんばんに会を開く事はできない。年に二、三回が、限度ということになる。また経費にしても組合が負担してくれる分は一サークル三千円、講習会を一回行えばそれでチョン、また連盟の地区サークルには予算皆無といったところ、「今年はどこかの支部で行う函工講習会に地区サークルはおんぶしては？」と地区文教部長の話。こんなところにも大きなやみがある。

ただ連盟地区サークルには金はないが、連盟本部は私達のために無料で講師を派遣してくれた。今年の一月十六日深川で行われた会合には集った先生方は少なかったが、派遣してくれた新妻、伊東の両先生を中心に話し合い、今後の函工教育について大きな示唆を与えられ、そして大いに力づけられた。

幸い本年度は若い尾崎定吉副委員長を迎えた。燃えるような彼

作ってやりました。四下ではばれば、まっすぐ飛び出すものなの、伸ばしたとき、ゆるくカーブしたのです。これは面白いぞと、いろいろ苦心したあげく、折たたみ出来る小屋組にまで仕上げました。  
それを全日本教職員発明展に出しましたら入選して「鍵」のメダルを貰いました。  
生徒Hの作品も入賞し一緒に上京して毎日新聞社で、かかえるようにしてカットを貰いました。私はケースを運ぶ役です。先生の一着婚しなのは、生徒の賞められる時です。  
先日、Hの結婚式に招かれました。Hはそのあと日大建築科を出て、札幌に帰り就職して三年になったのです。  
そこで私は自作のバイオリンで余興の皮切りに少年の頃習った「美しき天然」を弾いたのです。私も老境に入りました。今はバイオリン作りにはげんでいます。よい作品を世に残したいと念願しています。北海道こそ名器を世に出すにふさわしいところと信じます。  
(札幌西高等学校)

の情熱はきつと当サークルの推進力となってくれることと期待している。

最後に当サークルが今日に到るまで数多くの先生方のお力ぞえのあつた事を深く感謝しつつ擲筆する。

(両竜郡沼田町共成小学校)

# 岩見沢地区サークルの記録

中 村 幸 元

## 一、発足

岩見沢地区サークル活動の源は、岩見沢美術協会にあったといつても過言でない。昭和十六年の頃、岩見沢市及び周辺在住の同好の士により生まれた。市内からは、渡辺愷、氏家利夫、渡辺直吉、蛭谷光、但野栄一、福井武、中村幸元。市外からは、伊東将夫、大和屋巖、竹内正、小荒井克己、斎藤七資等が主なメンバーであった。この教員を主体とした研修グループは、月一回の写生会を始め写生旅行、展覧会の開催等互に切磋し合つて実力向上に専念した。同時に地方美術文化の向上に果たした役割は大きかった。

それから二十星霜、活動の原動力となつたこれらの人々は年々転地され現在は数人を残すのみとなつたが当時後進の指導に当たつた成果が今猶残り、新進少壮の美術愛好者が、前にも増して画筆に親しんでいる事はまことに心強い。戦時中、美術報公隊として戦意の昂揚につくした事も今は遠い思い出となつた。

## 二、教育振興会の発足

昭和二十六年九月、岩見沢市には、小中高大を一貫した教育振興会が誕生した。

図工の研究サークルもこの組織の中に吸収され、横には小中高大別各研究部が、また縦には小中高大一本となつた研究のサークルが自ら生まれた。以来九ヶ年、図工科教育振興のために次のような行事が行われて来た。

- 児童生徒の野外写生会及び小展覧会
- 小中高児童生徒連合作品展
- 子ども道展
- 雪まつり展覧会
- どろんこ展(教員のみ作品展)
- 研究授業
- 各校カリキュラムの比較検討
- 教研参加のこと
- 実技練習会
- 美術講演会
- 実技講習会(木工、陶器試作)等で他は省略する。
- 三、図工科教育課程

従来各校は使用教科書にのつとつて、それぞれ自主的に編成された教育課程により教育効果をあげて来た。

併し、改訂指導要領の検討に基づき教育課程の作製は今後の仕事として本年度に残されている。幸い本年四月、二で述べた岩見沢市教育振興会の組織を基盤とする、岩見沢市教育課程研究会が生まれ、根本的な問題から再検討し、本年度中に現行カリキュラムの反省と新指導要領の検討の上に立つた教育課程原案を完成させるため一歩一歩研究を進めている。

これに力を与えるものは、先程連盟で検討された北海道図工科教育課程であつて、連盟の一員としてこの教育課程作製の主軸となつた皆さんに深く感謝している。

- 四、事務校……岩見沢市中央小学校
- 会員数……四十名

- 地区委員……小学校―中村幸元 中学校―但野栄一
- (岩見沢市中央小学校)

## つくり出す力

高 橋 栄 吉

北海道で全国大会をやることに決つたことを、野村委員長からいわれて半年間研究部員の表情は様々であった。全国の現場人が常に北海道の何かいいしれぬアコガレに似たものそれは開拓地の神秘性からくる大自然への魅力が大会開催地を希つていたと思われる。受入態勢がとどのうだろうか、それよりまして本道美術教育界の現状に対する連盟の、あまりにも広い地域性と、本州との文化交流の稀薄性からくるある種の多様性に対するものであつた。しかしながらポツポツと我々を勇気づけたものは本道図工人の人の和であつた。これは何にもまして大会を本場にのみあるものにの斗魂を燃えさせてくれたことをしみじみと味つた。たまたま指導要領改訂を三十二年に予測した、北海道版教科書の全面改訂を断行すべく、あかしや荘の三日間の、カンズメ研究は、北海道の美術教育に大きな柱を打ちたてるべく物凄くもまた熱の入つた、全道地域代表の真の叫びが糾合される時機とぶつかつた。開拓魂の発揮されるところのものは我が北海道を時代と共に文化と共に創り出してゆく具現の姿でなければならぬ。そして、凡ゆる人間生活の場が統合されて、活動する一人の若い次代の後継者たちの進取創造の根拠のエネルギーの育成でなければならぬ。それは造形教育の課せられた尊い使命だと断定した。創造主義、生活主義、構成主義と教育思潮は奔流の如くに渦をまき批判され、懷疑され混乱して十年間。静かに日本の美術教育界の現場と郷土北海道の現場を眺めたとき、枝葉末節に一喜一憂せず、たくましく、ズバリと

くり出す力を持つた人間教育の基盤を培うのが造形教育の真髓だと大膽に着々と構想を練つていった。道教委の上肥先生方と数回にわたつては議論したことは本心に懐しいし楽しかつた。教科性の確立を目ざして、認識、構造、領域、発達、指導法、環境の柱は、こどもたちの生活経験の論理性を一本中核にブチ抜いて、研究構想は着々と、全道全国のアンケートを肉付にして打樹てられていったのであつた。現場実践の生きた資料を第一義に討議の中心に打ち出し、今泉、勝見、井手三講師及全国の大権威が一堂に相会し、スポーツセンターを本会場に幌南小曙小中央小の四会場に二千有余人の全国美術教育者が三日間北海道の夏を彩つて盛会を極めたことは、我々研究部員の心から感激し深甚の敬意と謝意を禁じ得ないものがあつた。

この研究テーマが本道美術教育界に何等かの開拓と前進をもたらしたとすれば幸である。

大会研究部

(札幌市北九条小学校)

## ごく最近

橋 本 富

ごく最近、東京の会社の研究所にいる知人がたづねて来て一泊した。彼は小学校卒業と同時にパン工場に入った。この道でのベテランであるが、以前ミルクパンの製造を考案して会社に思いがけない利益をもたらした、また今度はコーヒータを完全に粉末にしてパンに混合することを考えた男で、たまたま話合ひの中で、

「私の研究所には毎年大学出の若い連中が入つて来るが、どうも有名校の卒業生は頭が悪くて役にたたない」という言



## 根室地区の雑記帳

川野上 彰

造形連盟が発足して十年、もうそんなになるのだろうかと過去をふりかえってみる。

根室地区は連盟加入が遅れてまだ新顔である。五・六年前すいぶん委員長や事務局長にはげまされたり叱られたりしてようやく誕生したわけだが、管内の造形教育については辺地にも連盟の活動の息ぶきが年を経る毎にゆきわたり成果をあげてきている。学大の戸坂先生や附属の伊藤恵先生、釧路の小山田先生などお訪ね下さって御指導いただいたたまものかも知れません。わたしも連盟に細やかに名前をつらねて十年間ははじめの一・二年は道内のそのミチの権威者らしき年輩の方々ばかりでお集りの中ではわたしが一番年下で会議の席上いつもフルエテいたように記憶しています。殊に商業美術の方に興味をもっていたわたしはなみいる絵かきのみなさん達に対してすいぶん肩身のせまい思いをしたものでした。しかしこの十年非力なわたしを励まして個人的にも大きな目をひらかせていただけたことに對してとても幸せに感じています。連盟自体も少一步と前進し辺地の父兄にまで造形教育の関心が高まってきたことは地道な活動が実を結びつつあるからでしょう。何とかという流行歌手ではありませんがあれから十年今では若い張り切った方々もふえて連盟は年を積み重ねる毎に若返っていく感じだのもしく思われます。

ウチの校長の家の玄関の壁に委員長描くところの白樺林の水彩画が掲げられております。校長のウチを訪れる度に委員長にニラマレているような感じでいつも頭を低くしてキンチョウして通り

## 釧路市のサークルを語る

植草 義 二

当地のサークルの発足を語るに当って忘れられないのは、私が昭和八年赴任の頃には青空画会、黒潮会、みず多会といった画会があり、どの会も教員が幹部会員として活潑にそれぞれ春秋の展覧会を競っていました。一方教育会の研究会もあって図工科は年々花々しい成果を示していた。その後第二次世界大戦に突入して国民学校図工科も戦力増強に一方的に統制され無味乾燥化を辿り続いて敗戦という最低生活の中でようやく与えられた自由のもとに人間としての喜びを培う造形表現が教育の中では勿論、社会一般に一抹の生氣を感じさせたものである。こういつた中で昭和二十二年度有名無実の教育会が解散され、自主的なしかも同志的な集団としてサークル結成が取り運ばれたのである。部長瀬川清校長部員三十数名で図工サークルが発足した。

当時個人研究が主で特記すべきものがなく名前だけのサークル活動であった所、たまたま埠頭会社の主催した学童を主体とした海洋展が焼残った商工会議所の階上で第一回を開催されたことがきっかけとなり二十四年より夏休み一週間のサマースクールが開催されるようになった。描画一辺倒ではあるがカリキュラムの編成指導法の研究、作品の見方あるいは審査ひいては評価一般といった研究がの中でデスカッションされた。続いて十二回目を迎えようとしています。参加人員小中十八校の中より四千五百人、会費百円、指導者百五十人、今や市教育界の年中行事となっている現状です。これと似た活動として写生会、展覧会、作品交換会

業に、おどろかされた。彼のいう「頭の悪さ」とは、独創的なアイデアがないことをさしていることがわかったが、生産工場において知識より豊かなアイデアが会社にプラスすることが多く、現代の知識偏重の学校教育においてこのことがそがれているとするならば、一体どうしたものであろうか。有名校入学のためにすでに小学校時代から、子供本来の姿をうしない、感性、創造性の豊かな時期に、子供の心が全く解放されていないためであるまいかと、今さらのように、正しい意味での図工教育のあり方について考えさせられたわけである。(札幌市琴似小学校)

ます。まあ身近に委員長の指のするものもそんなに悪い感じではありません。現在根室地区では年間定例の会合をもってその積みあげは教研大会にしほっています。辺地の造形教育根室地方の材料を生かした工作カリキュラムなど地味な研究が蓄積されています。校長会が音頭をとって管内図画作品巡回展や市サークルの工作作品展示会や写生会などかなり活潑な活動がなされています。

今問題となっている事は市支部と地区支部との連絡ですが別海や羅臼のような特殊な地帯もあってなかなか思うようにいきませんが一生懸命努力してみたいと思っています。現在事務担当校は根室市花咲小学校、支部会員二十四名で旧根室町旧舞田和田村の三グループにわかれて研究が重ねられています。委員長が茶飲み話に第十五回あたりの大会は根室市でどうだといわれた事があります。が、わたしもその間でもその事が貞剣に考えられています。是非全道の造形教育に造詣の深い諸先生を務のカーテンをあけて國境の町根室をこらんにいれたいと思っています。わたし達もその時になってナルホド根室もベカにならない来てみてよかったですという声が開けるように管内の造形教育を推進していくつもりです。(根室市花咲小学校)

病院や別務助等開闢展示会を行い児童生徒の図工教育の目的達成とサークル員の合同研究の場としてプログラムに入れた活動を行っています。

中央もそうであるように敗戦後第一に要求された図工教師の質と量の向上については絵具メーカーの後援のもとに種々の講習、実技指導が年々活潑に実施され他教科と同様よりうらやましがられる程急激な発展を遂げた。さらに道連盟が結成され札幌附属での第一回研究会が持たれ高橋正人先生の講演をバツクボーンとして連盟活動と共に教科性を追求していく本物の研究が繰り上げられることとなった。昭和二十八年釧路市教育課程の中に図工サークルの部員一同の苦心の結晶が組込まれて発刊される運びとなった。続いてカリキュラムによって現場に一段と現状に對する反省を生じ苦悩が増大して来た。この時三十年第五回の道大会が当地にもたれ全道のエキスパートを迎えたのである。(省略)次にこの前年より市の総合研が開催される運びとなりサークル研究の機会が一層軌道に乗るようになり、かつまた発表のチャンスも出来、研究所ともタイアップして予算面でも道が開け資料としてのスライドの作成等々。一昨年より移行措置を含め新教科書をも併せカリキュラムの改訂のための研究が続けられています。

一応昨年度末までのカリキュラム実験案を本年は素材として目下教育課程の自主編成に研究と活動を集注している現状となっています。

事務所 城山小学校

会員数 六十五名

地区委員 小山田 武

植草 義 二

(釧路市城山小学校)

## 十勝の図工サークル

富田 鉄雄

道の連盟も十周年を迎えるとの事。

私共十勝のサークルも考えてみますとそれを上回る才月を経たのに今さらながら驚いたり感心したりしている訳です。だがその間何をやって来たんだらうかとふりかえってみてもこれといったものが浮んで来ません。だが終戦当時のあの混乱の中から、打ちひしがれて呆然としていたその中から何んとかして子供達に自然の美しさを、人々の生活の中にある美しさと真実を感じるとる事の出来る子供を育てたいという願をこめてわずかの同志の人々と「図画工作の研究会」というものを作ったのが昭和二十二年頃だったと思います。

その後図工の研究会講習会も他の教科と同じ様に催される様になり、次第に同志もふえて来た訳ですが、さらに管内の研究態勢が飛躍的に組織化され、各教科サークルが新しく管内的な組織として認められるに及んで資金の面でもある程度の安定を得て、吾が図工サークルも乏しいながらも暗がましい空で動ける様になった訳です。当時の子供の絵は所謂写生万能時代といいますが、形式的に大人の絵をまね様とする式のものも多くそれがやがて思いつたが、さらに子供達自身の生活の中から美しい、楽しいものを

感じよりそれを子供なりに表現出来るものへと——そしてそれが

子供を解放する大事な要素であり、また方法的なものでもある、というところ迄歩きつづけて来た訳で、今後はさらに何が真実かを感じるとる事の出来る子供、真実は美しいとほんとうに感じそれを素直に表現出来る子供を育てるために働かなければならないと思つていきます。従つて子供のおかれていた環境を知り、その子供の絵を正しくみれるための研究、そしてその評価と指導はどうなればならないかが吾々の研究の主題になつていく訳です。

創始期から十有余年、会長あるいはサークル委員長として歩いて来た訳ですが力足りず充分な働きが出来なかつたが、現在会員百余名の大世帯に育ち新進の斗士が続々と頭角を現して来たと同時に管内の状況も漸次ほんとうのものになりつつある今日を思う時やはり楽しいものがある訳です。

加藤(下士幌中) 藤田(下音更中) 大島(吉野小)等の創草時代の人達から、安達(御影中) 富久尾(音更小) 加地(清水中) 武田(下音更中) 三上(陸別中) 藤山(幕別小)等の中堅に数多くの新進が頭を並べて進出して来ている現在、今後の活躍とそれによる管内の向上は期して待つべきものがあることはまことに心強いものと考えている次第です。

十勝のサークルも道連盟の一員として今後益々がんばつて参りたいと決意をかためている次第です。

ここに道連盟のかがやかしい十周年を心から祝い申し上げますと共に十勝サークルの概略を申し上げます。

(十勝音更小学校)

## 網走グループの歩み

中村 知久

絵の好きな連中が集まって討論したり、絵を画いたり、その批評をしたりしたいなあと考えていたが、そんな手よりも口の達者なが集まって研究のグループをつくつたのが、昭和二十八年、当時の西小学校校長小南氏を会長に平和小学校校長清水氏、この濃厚な二人を除いては佐藤秀雄、小室、近江、川村、上村などの口やかましいのが中心で、二十名程が講習会、研究会、年一回の会員展、部落の学校への移動討論会などを持って仕事を始めた。この年は特別な研究の主題などは持たなかつたが、その都度研究討論の題をきめて話し合いをしたものであった。

たまたま委員のほとんど大部分が教研の図工グループであったせいもあり、研究の主題は教研の主題とも関連をもつようになり次のようなテーマを設定して研究討議を行つてきた。

○網走市の学校の図工教育の実態はどうか。

○各学校の図工の施設はどうなっているか。

○デザイン教育を身につける為にはどうしたらよいか。

○創造の喜びを味わせるにはどうしたらよいか。  
などの調査と研究を進め、さらに昭和三十六年度より実施される改訂指導要領の編成や、その根本についての疑念から、人間教育の本質に立つて、私共は自主的な編成による地域社会に即したカリキュラムの編成はどうあるべきか。その基底に立つたカリキュラムはどう編成するか。という問題に立向つて現在に至つてい

(網走市西小学校)

はあるが、それと並行して自主編成のカリキュラムを作製している。本年三月末完成の予定は都合でずれてしまつたが、二学期からは恐らく使出来得る見込みである。

元来が一応絵筆などひねる人間はくせのある者が多く、話に入らねばわかる議論でも決して賛意を表さないとひねくれものの集り、それで人間は案外あっさりしている、ひよんな所であつて面白いくという強者の集団だから筆者なども苦労はあつたがまことに面白い日々であつた。

三十二年全国大会が札幌で終つた後、観光の人達が当地に寄り阿寒方面に向つた時、同好の上として接待したいと思ひ、会員が寄り寄りお手伝いしたが、それから全道的な組織に加盟して、地域的な研究や実態と共に全道的なつながりを持ちたいということから、全道造形教育連盟に加盟し、さらにこの地方の造形教育を全道の同好諸士の御協力によつて進展したいものと考えて、三十五年の全道大会を当地で開催するに至つた。

私共の会が正式に発足して七年、他地区とくらべればまことに短期間ではあるが、現在は会員五十名、事務所を第二中学校に置き、かつての道展の常連の須貝老、小南現教育長を顧問に、全道造形連盟副会長の清水氏、支部の事務局長兼地区委員佐藤秀、地区委員中村、委員川村、小室、近江、さらに今は若手で張切つて、芳賀、豊島、横田、理論肌の浅野、島山、実藤家の佐藤、近藤、堀北嬢など将来をたのしめる人々が多く、前後諸賢の御指導に期待するものが多いと考えている。

その意味でも今年の御協力を念つて止まない。

たしか昭和二十四年の秋だったと思うが同志によって上川地区に、芸術教育研究会が生れた。

このサークルは、図工、音楽、書道の三つが一緒になり芸術教育の振興のためそれぞれの部門で活潑な活動を通じ、実績を取っていたのであるが、その後上川管内教育研究会が創立されて、このサークルも発展的に解散し、上川管内教育研究会の図工部として組織され今日に至っている。

現在この図工部員も、二市(名寄市、士別市)を含めて二十七カ町村四〇〇名を越え、造形教育の進展に堅実な足跡をみせている。その間、北海道造形教育連盟に加入して三年目を迎えたのであるが、上川地区の広い地域性からして、連盟の活動に対して仲々一体化できず、一部の地区の会員に限ぎられて全道的な連携の役割を保っていたような実状であった。

しかし、山積する当面の諸問題を解決してゆくためには、どうしても、現場からの積極的な盛り上りによる組織をもち、広く全道的横のつながりに研究を推進したいという気運が具体化し、去る六月連盟の野村委員長など本部役員方の力添えを得て、上川管内市町村代表者の協議会をもち、上川地区(中部南部北部)の研究活動の機構を整備し共同態勢を確立、新しい力強いスタートをみたわけである。今後の造形教育前進と強化に大いに期待をもつことができるであろう。

上川地区の本年度研究方針もすでに決定し、その実践に向っている。教育課程の改変、そして自主編成の研究等幾多の直面した諸問題があるが、これからの研究の進め方を考えるとき、我々は今まで積み重ねてきた造形教育の実践を再び見なおし、教育の本質に向って自主性をもって教育計画に我々の体温を移して生命のあるものにするようみんな考えていこうと思つている。(上川郡美映中学校)

### よりの前進を

斎藤 一雄

十年ひと昔とかんたん言い切るが、その間には起ふく万丈でなみなみならぬ苦闘の連続であったと思う。とくに発足からの指導者には改めて敬意を表したい。

年々同志の数も増し、全道のすみずみまで連盟の色彩に色どられ、造形教育の名実共に母体としての進展ぶりに驚きさえ感じている。日々の教壇実践の足跡を持ち寄り、それを調理して新しい、路線を打ち立て、その路線をばくしん……。とくり返して積み上げる……。個々の力は微々ではあるが、蓄積の力は何物をも恐れない偉大さがある。

子供たちも「先生が図工のべんぎように網走に行くんだとよ。」と話し合っているうちにも図工に対する愛着と期待に胸ふくらませていることを思うと、連盟の大会をより一そう突のあるよう努めなければならぬ。(札幌市琴似小学校)

### 旭川地区サークル

金子 武志

この地区の誕生は連盟発足と同時に極めて積極的な参加をみた。発起人の一人である泉秀雄氏を全道の副委員長として戴き、金子氏、森田氏が補佐役となり、各学校のエキスパートを会員として出発したのは確か三十有余名と記憶している。その間、学大旭川分校教授の朝倉力男氏をはじめ地元教育家の並々ならぬ御指導御協力を得同時に、極めて熱心なサークル活動をつづけている。この間全道図工研究会の開催地として率先その重責を果すのは第三回大会旭川の美育ありの感を深からしめた。(詳細は泉秀雄氏が別記する筈) 毎回各地で開かれる造形教育研究会には小、中何れか必ずといってよい程、役員か司会者か、あるいは発表者か授業者か提案者かあるいは発問者として、縦横な奮闘振りを見せて来たことは全道各地の出席会員なら誰しもうなづけるところであろう。それが誰でも何時でも日頃の研究そのまま出し得るところに旭川会員の勉強振りがあつたのだと自負している。このサークルには小、中一本になつて旭川の地区を四地区にわけ各運営連絡委員がその企画、運営、連絡の位にあつてゐる。また年中行事として春、秋にわたる写生会開催、小・中合同の大展覧会。中学は全部額縁付、絵だけでなく、彫塑、壁画、木工、空間造形等々それぞれ学校にある独自性を持った研究の成果を発表し合つてゐる。これは大体十月の中下旬が多い。市の文化行事との歩調

を上手にとつて、会場費を浮かすのにうき身をやつすのも例年のこと。会員の研修としては毎年のように教科書の内容検討をはじめめ紙細工、粘土細工、新しい資材の研究、実践活動の発表と暇がない。この間の推進まとめ役は三年前まで部長をやられた泉氏その後を昨年まで受け継がれた高野氏今年度の金子氏、その女房役をつとめて来られた森田氏、工藤正氏併せて旭川市内各地区運営委員、さらに会員相互の友愛精神にはただただ頭の下るのみ。しかも今日会員数に百名に迫らんとする情況は頼もしいの一語につきるというも過言であるまい。なおここに、今年度の行事予定の大略を記して旭川サークルの拙ない報告とした。

一、彫塑長期講習会(主に粘土による)

【所】 市黨業指導所作業場

【時】 七月より九月まで旺日を定める

講師 黨業指導所長、中央講師等

二、デザイン講習

【時】 二学期中

【所】 市内、小・中学校

講師 中央より招く

三、旭川市図工科カリキュラムの自主的研究

四、研修旅行が出来ればやりたい

以上のような構想で現在進めている。七月初旬に最後の決定を見て実施したいと考へている。網走大会の盛會を祈るとともに、連盟十年の歩みがさらに一段と力強いあしなみであることを心から願つて拙ない責を果す。

(旭川市北都中学校)

# 全道造形教育 研究大会の記

毎年行われている全道大会は、できるだけ道内各地の造形教育を振興させたい意向から、地方市町村を巡回することになっているが、大会の主催は、本連盟と開催地の教育委員会並に地方教育局で大会運営の方法は連盟地区委員総会の決定を基本として、連盟と連繋をとりつつ開催地の自主的構想に委ね後援は開催地の教研協、組合支部、あるいは連合PTAが厚意を傾け、さらに、大会を円滑盛大に終始させるため、五大絵具会社が協賛団体としてその陰に在って支援して下さっている。

第1回 札幌市  
会場  
学大附属小学校  
昭和25年11月13.14.15日

### 一、研究主題

- 情操教育振興の一環として本道図工教育の進展を図るため
- 1、各地における図工教育の実態に立った具体的共通問題の究明
- 2、全道小中高等学校大教員の大同団結を図り組織結成

### 二、講演

#### 1、現代図画工作教育の理解とその方法

東京教育大学教授 高橋 正 人

#### 2、自信を新にしましょう。

図画工作研究所理事長 後藤 福次郎

### 四、研究発表

#### 1、全国図画工作教育大会の歩み

札幌豊水 中川大三

2、多面体 (工) 小四年 伊藤 恵  
3、面 (工) 中一年 附中 三谷 哲司

2、表現と知能 札幌大通 佐藤 熊 蔵

3、私の工作研究 帯広柏葉高 高橋 良 助

### 五、部会

小・中・高・学校別に三分科会を開催。

### 三、公開授業

1、静物写生 (描) 小三年 附小 石川 勇

第2回 札幌市  
会場  
札幌市曙小学校  
昭和27年8月9.10.11日

### 一、研究主題

図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について  
附記  
「ユネスコ国際美術教育セミナーの報告」 室 靖

### 二、講演

湯川 尚文

湯川 靖

湯川 講師

### 三、実演授業

お話を絵に描く

### 四、研究討議

- 1、グループ研究協議会
- 2、研究主題を次の六つの課題に分け討議

- 1、創造主義美術教育とは……
- 2、美術教育の位置
- 3、低学年、少年期の指導法と材料
- 4、子供の絵の見方と展覧会
- 5、子供の絵の発達段階
- 6、美術教育者の像

### 2、授業を中心とした座談会

## あれから 申川 大三

あれから十年。といっても、そのあれからが記憶力の薄れる年輩の仲間入りをした私にとって誠に頼りないものであるのだが……。たしかに連盟の飯を食って居た事実として、二つのことだけが頼りないながらも記憶を甦えらせてくれる。その一つは附属小学校で持たれた第一回の大会の際に、広島で行われた第三回全国図工教育研究大会の出席報告のようなものを黒い顔を赤くしながらさせられたこと。他の一つは、私の奉職校である曙小学校が鉄筋建築のモデルスクールとして、現在のようにきたないしみのつかない、いささかながら一種のスマートさを保持して居たかと思われる、そこを見込まれて第二回大会の会場として囑望され、電話の取次、草履の世話など、我ながら適役であるわいと満足感を抱きながら仕事をしたこと。

その大会の講師として当時創造美育の重鎮であった、室靖、湯川尚文の両氏が出席され、室氏はヨーロッパでのゼミナールについての講演を、また湯川氏は体育館で、本校の上学年の児童に浦島太郎のお話を絵にする指導をされ、私も本校児童と共に参加し、それ以来創美について関心を持つようになったというわけ……。その後釧路、小樽での大会に出席はしたものの、健康の勝れない私としては連盟には名のみのつながりであったが、この十年を機に再び若い気を取り直そうかと私に期す次第。  
(札幌市曙小学校)

第3回 旭川市  
旭川市旭川小学校  
会 場  
日 新 小 学 校  
昭和28年8月8.9.10日

一、研究主題

「美術教育における指導とは何か」  
右のテーマの設定について  
第二回の全道大会には造形教育  
の新思潮である「創造主義美術教  
育」というテーマの研究会であつ  
た。そこで私達教師はもう一度、  
児童の美術教育といふものを創造  
的に造形的につきつめて考えるべきことを討議しあつた。そ  
の後一カ年現場では何を考え何を指導してきたか、その理念  
と実践の研究成果について討議し、さらに一段と深めていく  
為にこの研究テーマを決定した。

二、講演

- 1、造形指導の理論と実践 千葉大学教授 森 桂一
- 2、近代美術の動向 国立近代美術館次長 今泉 篤男
- 3、生活と色彩 北海道学芸大学教授 朝倉 力男
- 4、造形教材における具象と抽象の概念 山形大学教授 手塚又四郎

三、公開授業

- 小学校の部
- 1、海の思い出 出 播 二年 附属 柳 原 寿 夫
  - 2、楽しい夏 播 四年 中央 矢 野 正 男
  - 3、花 台 工 六年 近 文 高 野 克 郎

・児童の製作態度には、個々の児童が抑圧されずに喜々として全  
員が参加している。これは創造的な美術教育として大切である。

2、中学年の部会

- ・鮮やかな色彩をもつ果物を題材として写生した授業を中心とし  
て討議をすすめた。
- ・全体としてそろってよくかけている。こうした写生に対しては  
相対に手馴れているような感じを受ける。
- ・しかし児童個々の特色がない。もっと強く一人一人の特色があ  
ってもよい。
- ・創造するという立場に立って見るともっと考慮する必要がある  
・そのためにはモデルのおき方、パツクの扱い方などにも配慮が  
いる。教師のものを押しつけて児童一人一人に考えさせる表現  
が大切だ。
- ・創造するということは勿論大切であるが、基礎的な技術方法を  
指導する場合には、一斉に指導されることも大切である。
- ・自由のびのびと個性豊かに描いていく指導方法が必要だ。

3、高学年の部会

- ・旭川は木材の豊富な町であり、木工品の盛んな街である。この  
木材を素材として研究を深めていくことは郷土の人々にとっては  
大切なことである。本日の授業は花台の木工作で、花瓶を置く台  
と脚をつくりそれを組立て美しい安定感のあるものにする内容  
であった。
- ・木工は素材として抵抗の大きいものであるが、その取扱いの  
指導をどのようにしたらよいか。
- ・木工の用具の取扱いは最低限度の基礎的なものは指導  
すべきである。
- ・素材ながらも創造的な仕事と技術的な仕事をどのように考え

中学校の部

- 1、額ぶち 工 一年 附属 松 本 謙 太郎
- 2、抽象図画 函 三年 聖 園 森 田 喜 昇

座 談 会

指 導 者	司 会 者
千 葉 大 学 森 桂 一	札 幌 北 光 小 和 田 芳 郎
北 海 道 学 芸 大 学 戸 坂 太 郎	
北 海 道 学 芸 大 学 朝 倉 力 男	亀 田 小 滝 村 虎 雄
北 海 道 学 芸 大 学 藤 川 基	江 別 第 一 諏 訪 田 勝 衛
北 海 道 学 芸 大 学 山 三 代 喜	
山 形 大 学 手 塚 又 四 郎	札 幌 向 陵 中 鈴 木 嘉 吉
北 海 道 学 芸 大 学 藤 野 高 常	
北 海 道 学 芸 大 学 砂 田 友 治	函 館 大 森 加 藤 彬

四、分科会

1、低学年の部会

公開授業を中心として討議がすすめられた、海の思い出を題材  
にして、黒板一ぱいに大きな台紙がはられ、完成一歩前で、港、  
海辺、町と大別された情景の中に、海水浴にいつて遊び戯れる人  
々を切りぬいて貼りつける単純な作業である。  
・共同の作業の目的について、教師の指導は学年によって考慮さ  
れるべきであり、描画製作において児童の共同意識を昂め育て  
るのに効果がある。

4、中学校一年部会（工作）

- ・たらいよいか。
- 一、授業について
- ・ベニヤ板を利用した額縁の製作であったが、ベニヤ等技術的  
抵抗の少ない材料を用いて創造的な表現をさせることは大事な  
着眼点である。
- ・接着剤に用いたカゼインのほか、各種の接着剤についての理解  
を、体験を通して与えることは大切である。
- ・設計図に基づいて正確に製作する技能を与えることは工作教育  
においては大切なことである。
- 二、工作教育全般について。
- ・工作教育不振をいかに打開するか、
- ・工作教育によって養われるものは創造的能力か技術か、
- ・工作教室の設備と、工作用具の設備についてはまだ十分ではな  
いが、基礎的なものをつくる必要がある。
- ・工作材料をいかに入手するか。
- 5、中学校三年部会（図画）
- 一、花びんを使って構成図案をさせるよりも、自然物から構  
成させてはどうだろうか。花びんは既に構成されたものである、  
野菜や自然の石等から自由に構成させるべきである。
- 二、生徒に今少し自由にやらすべきである。生徒の持ちよっ  
た物から好きな方法で表現させるべきで、また鉛筆、絵具は勿論  
色紙包装紙や布片をつかって構成させると面白い発見がある。
- 三、新しい方法ですると確に生徒の表現方法は拡張され、創  
造的に自由になった感じがした。

五、研究発表

- 1、私の学級の児童はどんな色を好むか

室蘭市知利別小 大 類 敏 感  
札幌市北光小 和 田 芳 郎  
札幌市附小 伊 藤 恵  
空知町神威中 森 谷 英 夫  
留萌市留萌中 橋 場 昌 三

2、美術教育における当面の諸問題

3、半立体について

4、指導上の一考案

5、七項目の指導内容に対する生徒の関心

六、運営の反省と苦心

第一回第二回の札幌市における全道大会は、この連盟の土台づくりであり、第三回の旭川市における大会によってその土台の上に立体的な柱が初めてうちたてられたもので、地方開催のトップをきって全道の研究大会らしいスタイルを形造ったものとして記録されるであろう。

この年の春、五月二十二日札幌で全道の地区委員会が開催されたその席上、今夏の全道大会は旭川市を推薦するとの要望が出された。諾否を保留のまま、婦旭草々部会を開いて協議の末、満場一致、万難を排して、今夏、旭川市にて第三回全道大会をひき受けることに決定した。六月に入り、お祭だ、運動会だ、連の行事が終るや、連日連夜の会合をもって、開催校、期日、大会の華ともいう、公開授業、研究発表、分科会等について協議した。入選については有力候補が沢山いるので、それほど困難は感ない。研究の盛り上げる熱意は大会の運営役員もスムーズに決定し、一カ月半後にせまった大会に万全の準備を整えた。人の和の大切

なことが痛切に身にしみて嬉しかった。

しかし一番頭を痛めたのは大会運営の軍資金のことである。市教委としては年度中途の交渉では予算のとりようがないと言つて断られた。精神的には旭川市の教育界としても初の全道大会であるために積極的な気持をもって教育長が大会長を引受けてくださった。そんなこんなで切角遠い所から来旭された講師先生、助言者の先生方に十分の接待も出来ず、殊に層雲峡という天下の仙峽への案内も出来ないままお帰り願つた次第で力のないことを切なく思った。

今一つ惜しいと思つたのは、学大と道教委に交渉して何とか実現出来そうであった単位取得のことである。当時は現職教員の再教育の盛んな時期で、単位については目の色をかえてその獲得に運動していたものだけに、駄目になったときいてがっかりした。今、当時の大会の案内状を出してみると色あせた印刷の中に、その項目の処だけに黒々と線が消してあるのが目につく。

また、夏休み中のため、公開授業の児童、生徒の足どめには特段の配慮をしたり、四人の講師先生をどのように活用するか、また会員の意見交換、親睦の会合、観光コースへの案内、宿泊へのサービス、その他メーカーさん達の協力態勢等、教えてくれるとよくも研究部の皆さんが苦情一つ言わずに活躍してくれたものと今更ながら同志の顔を思い浮かべて胸が、はい、はい、なる。

熱意で通じた旭川大会は、トロンを响前に渡して嬉しいで終つた。

(旭川市東五条小学校 泉 秀雄)

第4回 函館市 会 場 大森小学校 昭和29年7月8.9.10日

一、研究主題 分科会テーマ設定上特に考慮した点。  
前三回までは大体原理的なもの、思潮研究といった立場がとられたが北海道の現場の実態を考慮しもっと日常的な現場実践と密着した実際的事業上の諸問題を取りあげようとした。

二、講演と講師

「美術教育の経験を語る」

北川 民次氏

「図画工作教育における諸問題について」

渡辺 鶴松氏

渡辺講師はコース・オブ・スタディーの編集責任者であられ、その内容についての広汎な資料や、豊富な御経験を懇切にお話し下さり会員の研究に貴重な講演であった。

北川講師は、かつてメキシコにおける美術教育と児童美術教育の豊富な御経験を、見事な話術でお話しされ、完全に会員全員を感動させた講演で、すこぶる好評であった。

三、大会の概要

公開学習

学年	題	種別	学校	指導者
小一	元気なおともたち	共同製作	柏野小	鈴木 利彦
小二	港まつり	共同製作	高盛小	越田 一喜

小五	好きな魚	写生	新川小	漆崎 繁雄
小五	給食調理室	構描	青柳小	石塚 健一
中一	立体のおもしろさを学ぼう(動物)	彫	聖谷地頭中	古谷 格
中三	人物	鑑賞	新川中	平賀 德行
高	自由制作	活動	西高	伊達幸太郎

研究討議助言者

講 師	北川 民次氏
学大(札幌)	渡辺 鶴松氏
学大(旭川)	戸 坂 太 郎 氏
学大(札幌)	朝 倉 力 男 氏
学大(札幌)	寺 井 信 一 氏
学大(札幌)	藤 野 高 常 氏
学大(函館)	函館商高
学大(函館)	秋 山 任 氏
学大(函館)	工 藤 惣 之 助 氏
学大(函館)	花 岡 一 氏
学大(函館)	淵 上 満 男 氏
学大(函館)	宮 林 繁 雄 氏

授業座談会司会者

学年	学校	司会者
小一	札幌市豊水小	砂金
小二	室蘭市朝陽小	小池田 竹松
小五	登別温泉小	谷内 寅次郎
小五	札幌市幌西小	新妻 清
中一	札幌市幌東中	土門 孝
中一	函館市附属中	乙部 幸吉
中三	函館市附属中	伊藤 正
高札	札幌市東高	

分科会司会者

分科会	学校	司会者
一	札幌市二条小	赤石 武士
二	釧路市東中	小山田 武
三	亀田小	滝村 虎雄
四	遠軽中	木村 晴一
五	札幌附属小	伊藤 忠
六	江別小	諏訪田 勝衛
七	札幌中央創成小	和田 芳郎

この大会の研究主題は「図画工作教育実践上の諸問題について」

### 神技でも不可能

朝倉力男

社会情勢の進展と共に美術教育のありかたも種々の観点によって研究され、指導の内容についても相当な変化をきたしてきている。文部省は小中学校の教育課程の改訂をはかり、新指導要領なるものを作成し、その実施をしいている。特に中学校においては図画工作科は美術科となり、その授業時間は現在より半減している。この短時間において文部省が示している広範な指導内容の目的を達成することは神技でも不可能な事であろう。

大衆の世論ともいべきものを聞かないのが現代の政府のやりかたであるなら、その犠牲となるものは、教師でもなく、父兄でもなく、児童生徒をのもので、この一大危機に遭遇している美術担当者は真剣に考え、研究し、実践に移るべきで誰のための自分であるかの認識を深め、少しでも多く児童が幸福への道に進んでいく基礎となるべきであると考える。ここに北海道造形教育連盟の正しい歩みと発展に大いに期待を持つことが出来る。

顧問 (北海道学芸大学教授)

といわれても、前記の如くいまままでの大会の積み上げの上に立ってさらにこれを具体化、実践化しようとの心づくみであった。当初この主題を取り上げた趣意はそのような意識であったが、勿論これによって最終的な結論を得ようとしたものでもなく、また結論が明確に樹立されうる性質のものではないことを考慮に入れたテーマであった。しかし、第二回札幌大会以来、北海道に急速に紹介された創美の思潮に、いささかの波乱をよんだ道の美術界に批判的検討と、この教科の教科性の確立という立場から、この主題をとり上げた函館地区の意識は高く評価された。

研究主題はさらに当面現場において問題点として考えられる次の七分科会において研究討議がなされ助言者、司会者共、道の一流スタッフの御協力によって、活潑な意見交換と精神的な討議がくりかえされた。

- 1、図工科の教科性の確立と望ましい教科課程の構成
- 2、高学年における想画指導と抽象的なもの指導
- 3、概念模倣からの解放と創造性の伸長について
- 4、色彩、形体の指導とデザイン学習について
- 5、工作的指導と題材資材施設上の問題
- 6、鑑賞指導
- 7、評価

分科会の持ち方については、主顧の性質上問題が広汎にわたるのはやむを得なかったが、それでも準備委員会の研究部門が相当な回教合を重ねて、問題を整理し、協約したものであった。

このため大会要項には、分科会を進めるための各自の協力態度を懇切に要請し、さらに各分科会別に、その討議問題を取り上げ

た観点を項目毎にのべ、現場の具体的な問題点に即して、話し合いが常にテーマの焦点に直結するように配慮したこと。討議が抽象的理論にのみ流れることがなく、お互の実験経験を率直に話し合うための考慮を十分に用意した点などである。

分科会の討議の報告は直ちに印刷され、参加会員に配布されたが、各分科会の主要な話し合いは次の通りである。

#### 1、第一分科会

この分科会では、カリキュラムの構成について話し合ったのであるが、生活美育、創美、造形美育等の諸思潮の批判と検討を通し、教科性の確立のためには、いわゆるミニマムエッセンシャルを最少限度におさえ、かつ各地域性や児童生徒の実態に即して、カリキュラムを構成すべきではないかとの意見があった。

#### 2、第二分科会

想画指導と抽象的な指導の二つの問題をもった分科会であるが、高学年における想画については、どんな意図のもとに指導されるべきであるか、またどんな抵抗があるかについて話し合いがなされた。また抽象的なものの指導については、指導する場合の取扱ひ方、発達段階に即した指導の方法や発展について、具体的な事例があげられ有効な話し合いがなされた。

#### 3、第三分科会

この分科会では、描画について概念、模倣からの解放と、創造性の豊かな絵とはどんな絵かということから、実際作品など持寄つての熱心な話し合いがなされ、いわゆるパターンやマンネリズムを打ち破るための方法などについても愉快な実践体験までとび出すような状況であった。

4、第四分科会

色彩とデザインの部会である。色彩・形態の指導が理解面のみかたより、感覚面の指導や、他の題材との関連の上での扱が必要なのではないか。そのためには、題材や材料などの検討が重要な問題となる。話が話し合われ、また、デザインの指導については、新しい分野の問題として、考え方や貴重な体験が発表されたりして、有意義であった。

5、第五分科会

工作的指導がとり上げられた。実態として工作教育の不振を認め、題材・資材・施設等について、工作的指導がどのようにして高めらるべきかについて話し合われた。

6、第六分科会

鑑賞の問題であるが、学年に応じた指導の内容について主として話し合いがなされ、これに伴う鑑賞の評価という研究の未分野に踏み込み得たのは収穫であったと思う。

7、第七分科会

評価の問題をとりあげた分科会である。特にこの分科会は重要な問題をふくむため、いろいろな意見が対立して面白かったようである。評価の立場とか、見方、あるいは指導内容による各会員の主張はすこぶる傾注に価するものであった。この分科会は、今後の問題を残しながら、図工科の教科性をつく新鮮な討議がなされたことを想起している。

四、運営の反省

北海道の最南端、函館までよく多数の先生方がおいでになって当時は非常に感激したものである。函館大会に決定以来、函館美

術教育研究会の同志は一体となって、いろいろと準備に奔走したことを、今想起するとただ感慨無量といったところである。当時運営の中核をなした連中は若手であり、教頭クラスもないといった状態であった。

会場校の決定、授業者の選定、講師の選定交渉、助言者、司会者の依頼、市費獲得のための交渉、研究部門の活動等、相当な苦心をしたものと今さらながらおどろく位である。

この大会は、前三回の大会と相当形式にも内容にも変わった趣があったのではないかと思う。お祭りさわぎ的なふん開気をなるべく抑え、研究的な態度で会が行なわれるよう、分科会の討議時間を相当広くとったこと。研究授業者は低・中・高と高校を含んだことも一つの成功であったと思う。

しかし、分科会の参加人員がかたよったこと、研究主題が広汎にわたり、掘り下げが十分なされなかったこと等、当時の反省の中に記録されているところである。紙数がつきたので、最後に参加協力をいただいた諸先生に厚く御礼を申上げる次第である。

(函館市立湯川小学校 加藤 彬)

創造というもの

「人生の最大の喜びは、古きものを打ちたおし、新しい何かの建設に情熱をそそぐことであらねばならぬ。こうして、より大きなスケールの性格を樹立する努力は、華やかでなくとも、しがいのあるものかも知れない。

創造的な精神は、創造的な行動の中に具体化されるものである。絵を描かない教師が、創造的でないとい概に決めつけることは出来ないけれども、いつかは行詰る。 —久保貞郎氏より—

第5回 釧路市 会 場 釧路市旭小学校

一、研究主題

「図画工作教育における学習指導上の問題点の解決」

● 研究主題は第四回函館大会に引き続き問題としてとりあげた。

● 分科会のテーマはこの研究主題に基づき具体的問題を市内の現場からアンケートしてまとめた

二、講演会

- 1、講師 東京都学芸大学教授 倉田三郎先生 京都市教育委員会美術指導員 岡田 清先生

2、講演の概要

● 倉田三郎先生 昭和二十九年九月から三十年一月末までユーゴスラビヤ、西独、イタリヤ、フランス等多数の西欧諸国を巡遊視察された後の各国の美術教育の状況、風土等を講演された。

● 岡田三郎先生

子どもの絵と工作をどう考え、どう伸ばすかを演題として、美術教育における子どもの創造性、芸術性を培う問題にふれ、写生画、模写、思想画、実用画の問題を歴史的に分析的に話し、さらに絵と工作の問題にはいり、材料の問題、また技術指導ということをどのように受けとめて指導することが望ましいか、また美術教育において工作を大事にし出した経緯などについて講演された。

三、大会の概要

1、公開学習

Table with 6 columns: 学年, 題 材, 種 別, 学 校, 指 導 者. Rows include 小一, 小二, 小三, 小四, 小六, 中一.

授業研究司会者

Table with 2 columns: 学 年, 学 校, 司 会 者. Rows include 小一, 札幌市豊水小, 砂 金 隆.



小二	苦小牧市若草小	清水石 政雄
小三	釧路市島取中	高島 繁次
小四	札幌市中央創成小	和田 芳郎
小六	帯広市帯広小	平塚 義雄
小六	遠軽市遠軽中	木村 晴一
中一	函館市的場中	加藤 彬
中一	三笠市指導主事	寺館 国治

●公開学習は研究主題、分科会テーマに結びつくよう計画した  
2、分科会の概要

第一分科会

司会者 滝村 虎雄（函館亀田小）

助言者 戸坂 大郎（札幌学大） 望月 正男（釧路学大）

研究テーマと研究の柱

- (一)、描画指導上問題となる点を如何に解決するか。
- 1、児童生徒はどのような点で描画活動に困難を感じるか。
- 2、表現力の乏しい児童生徒はどのように指導したらよいか
- 3、描画学習の導入はどのように工夫したらよいか。

- 4、描画表現の技法はどのように考えたらよいか。
- 5、個別指導はどのようにするのが望ましいか。
- 6、共同制作はどのようにとり入れたらよいか。

- 創造的ということ、創造的表現の考え方等につき論議された。
- 概念的表現の問題につき創造的ということと子供の概念形成、概念くだきの問題につき活潑な論議が交された。
- 技術指導の問題につき、いろいろな角度から論議された。子どもの創造性をのばす、また人間形成として受けとめる技術指導はどう考えたらよいか具体的問題が残された。

第二分科会

司会者 大類 敏憲（室蘭知利別小）

助言者 畠山三代喜（札幌学大） 佐口 七郎（釧路学大）

研究テーマと研究の柱

- (二)、色彩、図案指導上問題となる点を如何に解決するか。
- 1、色彩に対する関心を高め、興味を増すにはどうしたらよいか。
- 2、色彩の表現の喜びを味わうようにするにはどのような指導が必要か。
- 3、配色指導の方法に如何なるものがあるか。
- 4、初期の図案指導はどうすればよいか。
- 5、児童生徒の創造力を図案学習で発揮するにはどうしたらよいか。
- 6、自然物の装飾化と抽象模様とはどのように扱うか。

●子どもの絵の暗さの問題、北海道の子どもの絵はよく暗いといわれるが、一体どうなのか、講師は西欧を視察して見てど

しめて十六号

伊 藤 恵

度々遅れる機関紙は、十年間で十六号ですから、平均すると一・五号というなさけなさです。

道内の委員の方の集まりに「近ごろは名ばかりで困る」としかられて、ぐっと来たり「年千円」の会費のことを「年壹千万円」と誤植して、笑われたりわずかばかりの機関誌編集もなかなか容易ではありません。

なかなか書いてもらえない原稿は、速達がよく効くことや、期限の前にもさいそくする方法などの他に、校正は、りこうぶって一人でするものではないことなど、編集部員であるぼくは大いにべんきようさせられました。

年四回の約束で発行していれば、もう四〇号だった筈ですから、せめて今後何とかして、5+4×年数=号数、を確保したいものと望んでいます。

初期のころからの編集部砂金さん、太田さん、藤野さんもそれから新参のぼくも、会員のみなさんが、いつときだけ

う感ずるか等応答された。講師からは北海道の子どもの絵は本州や外国の子どもとくらべて特別に暗いとは思わないとの話があった。●色彩指導は理論より子ども感覚を通して理解させることが重要であると力説された。●色彩感覚を高めるためには、具体的にどのような指導が大事なのか論議された。

(札幌附属小学校)

司会者 伊藤 恵（札幌附属小）  
助言者 寺井 信一（札幌学大） 勝又 欽一（釧路学大）  
研究テーマと研究の柱

- (三)、工作指導上問題となる点を如何に解決するか。
- 1、不十分な現施設において、効果的な工作学習をするにはどのような題材及資材を選ぶことが望ましいか。
- 2、表現力の乏しい児童はどのように指導したらよいか。
- 3、工夫する力を養うにはどうしたらよいか。

●工授業について、工作の施設について、技術の抵抗と男女差、評価の問題、工作の振興策、工作作品の展示の方法など

につき意見が交わされた。  
四、運営の反省苦心

(一)、全道研究会が当市として外に放  
送教育もあったので、予算面で苦  
労したが、一年前から本大会のP  
Rをしたので、大会運営面に全市的  
協力が得られた。  
(二)、阿寒観光は好天に恵まれ、摩周  
の神秘的な水の色、原始林の拡大  
な美しさに全員が、バスの停車毎に  
スケッチブックを開き、造形教育  
大会にふさわしい写生旅行になっ  
た。

(釧路市教育委員会指導主事

小山田 武)

### ふしめ

種市 誠次郎

連盟が出来てから十年という月日が過ぎ  
て、竹であれば一つの節目となるので、こ  
こに記念誌を出す事になったことは、当然  
のことかも知れないがほんとうに意義深い  
ことだ。

ふりかえって考えて見ると、今から十年  
前に札幌の北光小学校の二階のかどの教室  
で図画や工作を指導していた先生が集まっ  
て話し合いがもたれ、連盟という名のもと  
に発足し、全道的に一つのつながりを持つ  
組織として発展し幾つかの大きな仕事をな  
して来た。中でも本道のカリキュラムと指  
導用教科書の作成、毎年一回各地で催され  
た大会における研究は特筆すべきものだ。

時代の流れとともに、図工連盟も造形連  
盟と名前を変えて新しい発足をする事にな  
ったが、何か落着かない世の中で図工教育

も、今日として考えなければならぬ問題  
も多いようであるが、造形教育を通しての  
人間形成のためにも、より連盟が強化され  
ることを望んで止まないし、連盟本来の仕  
事が期待される時期であると思う。

今年には特に十回を記念する行事が、たく  
さんもられているが、特に網走の地で研究  
大会が持たれ、年々本道の図工教育という  
同じ道のために歩んで来た同志が集まり親  
しく語りあえることがたのしみである。

それにしても、この会の何時も陣頭指揮  
と人の和につとめて来た、野村委員長には  
その人格とあいまってこの会のまとめ役と  
なり、図工における実際の指導面から始ま  
って、夜の独演に至るまでその実力と精力  
には恐れ入った次第だ。

何はともあれこの足跡を、この小冊子に  
とどめ、明日へのより大きい発展に資する  
ことは愉快であり、皆さんと共に手を取り  
合って進みたい気持ちで一ぱいである。

(札幌市大通小学校)

## 第6回札幌市



### 第九回全国大会

昭和三十一年八月七、八、九日

大会本会場 北海道立札幌市中島スポーツセンター(中島公園内)  
分科会場 A テーマ会場—中島スポーツセンター

B テーマ会場—幌南小学校  
C テーマ会場—曙小学校  
D テーマ会場—中央創成小学校

講師

国立近代美術館副館長  
美術評論家  
美術評論家

今泉篤男氏  
勝見勝氏  
井手則雄氏

中心題目

「造形教育においてつくり出す力を

北海道学芸大学教授 河野広道氏

記念講演

「アイヌの造形文化について」

分科会研究討議

根本理念 (中島スポーツセンター) A		種別 中道 マ記号 及記号 校及び 校番号 小テ マ	討議 題	提案者	司会者	指導講師	討議方法
2	1	◎造形教育においてつくり出す力をどう理解し たらよいか		北海道 学大附属小 伊藤 惠 札幌市苗穂小 堂野重治	京都市豊園小 北村又治 北海道亀田小 滝村虎雄 札幌市西創成小 新妻清 札幌市二条小 赤石武七	大阪府指主 富田民治 千葉大学 森 桂一 東京都淡路小 志田達三 京都市嵯峨小 福井 勇 北海道学芸大	このテーマ は小テーマ に分れずに 中テーマ一 本で午前午 後通して、 1,2,3の 順に討議し
・私達の考えている人間像について話し合 いましょう							
・私達は造形能力をどう考えたらよいでし ょう							

指導方法		指導内容				
(曙小学校) C		(幌南小学校) B				
2	1	4	3	2	1	4
い で し よ う	ま し よ う	し 合 い ま し よ う	し 合 い ま し よ う	い て 話 し 合 い ま し よ う	ら よ い で し よ う	・造形領域について話し合います
札 幌 市 桑 園 小 井 内 利 道	札 幌 市 曙 小 長 谷 川 伝	札 幌 市 幌 南 小 井 内 利 道	札 幌 市 啓 明 中 齋 木 果 一	北 海 道 学 大 附 属 中 三 谷 哲 司	北 海 道 学 大 附 属 中 三 谷 哲 司	
大 阪 府 枚 方 第 一 中 伊 藤 隆 儀	東 京 都 原 小 東 三 郎	東 京 都 築 地 小 遠 藤 徳 一	函 館 市 的 場 中 加 藤 彬	京 都 市 富 有 小 若 井 英 夫	東 京 都 葛 飾 小 大 和 屋 敏 隆	
京 都 市 富 有 小 西 田 秀 雄	大 阪 市 指 主 曾 根 靖 雄	東 京 都 大 和 田 小 増 田 喜 忠 蔵	北 海 道 学 芸 大 花 岡 一 一	大 阪 市 住 吉 第 一 中 荒 木 賢 治	東 京 都 成 南 中 桃 井 耕 一	戸 坂 太 郎
		右 B と 同 様		提 案 者 説 明 の 後、四 つ の テ ー マ に 分 れ て 午 後 各 テ ー マ 別 の 報 告 を い と ぐ ち と し て 更 に 全 体 討 議 を 致 し ま し よ う		合 い ま し よ う

環境・条件・関連						
(中央創成小学校) D						
6	5	4	3	2	1	4
・造形活動を生活にどのように生かしていますか	・他教科との関連について話し合います	・展覧会・写生会・画塾・絵本等にどんなことをのそみますか	・家庭・学校・地域・社会から、つくり出す力はどのような影響を受けていますか、話し合います	・高校美術工芸の教育課程ならびに改訂指導要領その他について話し合います	・あなたは改訂指導要領にどんなことを望みますか	・題材と学習形態はどのように関係させたらよいでしょう
高 橋 良 助	5 札 幌 市 八 条 中 佐 藤 哲 夫	4 札 幌 西 高 宮 前 三 春	3 札 幌 市 八 条 中 佐 藤 哲 夫	2 札 幌 西 高 宮 前 三 春	1 札 幌 市 八 条 中 佐 藤 哲 夫 札 幌 市 北 九 条 小 高 橋 栄 吉	・指導技術について材料別に話し合います
	4 札 幌 市 東 高 伊 藤 正	3 札 幌 市 光 星 高 江 口 美 春	2 大 阪 府 高 津 高 佐 々 木 高 雄	1 小 樽 市 種 穂 小 樋 口 忠 次 郎 札 幌 中 央 創 成 小 和 田 芳 郎	京 都 市 教 委 那 須 田 茂	
		東 京 都 本 所 高 岡 田 清 一	東 京 都 成 蹊 高 藤 浦 敏 雄	東 京 都 成 蹊 高 藤 浦 敏 雄	東 京 都 本 所 高 岡 田 清 一	
			北 海 道 学 芸 大 藤 野 高 常	北 海 道 学 芸 大 藤 野 高 常	東 京 都 本 所 高 岡 田 清 一	午前中1、2、の二つの小分科会により検討午後は全体で3、4、5、6の順に討議します

## 第九回全国図画工作教育大会を省みて

大会事務局長 野村英夫

## ・印象的な札幌大会開幕

数年前からの要望にこたえて、第九回全国図工大会は去る昭和三十一年八月七、八、九日の三日間、札幌の中島スポーツセンターを中心会場に、幌南、曙、中央創成の各小学校を分科会場として開催された。

沖繩、九州、四国、本州と遠路はるばるつめかけた人々約一千三百名、さしにも広いスポーツセンター前の広場も満員の盛況振りである。「ヤーしばらく」と互に握手する姿もアチコチに見られる。

大会要録や資料等も全部「第九回全国大会」と書かれた袋の中に入れられ手さばきも頗る好調。各メーカーのおみやげ袋も次々とわたされ、たちまちにして抱えきれぬ程の荷物ができた。みんな全国大会の美しいバッジを胸につけ、紅潮の色を顔にたたえて吸われるように場内に入って行く、定刻を遅れること約三十分、いよいよ第九回大会の幕が切つて落された。図画工作教育の将来を双肩になつて出席された各面々には緊張感が溢れていている。舞台上の紫の幕に白地に横書きの大会看板も印象的である。ステージには中央に文部省、道、市の教育委員会等の来賓、左には本大会の主要役員がずらりと並んで、高潮気味、水をうったような会場に只ひとり佐藤委員長が一きわ高い口調で「：職務の余暇を惜しみ涙ぐましい努力と苦闘を重ねつついに今日を迎えるに至った。」誠に力強くもまた感激の挨拶があり、続いて、野村事

務局長の大会経過の大意が話され、引続いて文部大臣代理（渡辺鶴松氏）その他の祝辞、祝電があった。

ステージ壁面横には本大会中心議題である「造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか」。が白地に墨くろぐろと掲げられている。満堂の美術教育家の両眼はこの一点に集中され論戦前の静けさである。一とたび口を開けば百獸はゆるの意気込みが会場内にみなぎり早くも札幌大会にふさわしい雰囲気がかもしだされている。それだけにこの大会に対する期待も大きいものと思われた。

## ・特色ある講師、指導者、司会者陣

今泉篤男、勝見 勝、井手則雄、この三人を一同に揃え、各々の立場から現代の美育思潮を論じ合い全体討論会を開いた札幌大会は確かに収穫の多いものだった。仲々この三人の顔合せは大東京ですら不可能なものを可能ならしめたこの大会の特色ともいえよう。また助言指導、司会陣も全国の一流メンバーを約五十人の大量を揃えた大会は従来になかったので参会者も頗る満足の様子だった。

研究討議の詳しい状況は他頁にゆずるが、参加者の中には相当実践にも理論にかけても講師以上の実力を持つ人もいて研究討議も仲々盛況。講師、指導者等のお互いのかみ合い、提案者、参加者等の論戦もあつて、第一日目の全体討論会を筆頭に二日目の各分科会場、三日目の報告会等今までにない調期的なものであつた。只だまつて聞き入る人々にも益するところが大きかったと思う。

従来大会の反省の上で立つて、成るべく研究に要する時間を多くかけお互いが一つのものをジツクリと話し合ったことは先づ

成功といわなければならぬ。それから会議のもち方として全体討議から小分科会、中分科会等々と討議の形にも造形的な工夫が加えられ変化のある運営がなされ従つて貴重な時間を空費したり、言いたいことも言えぬことのないような雰囲気を作り上げたと言ふことも成功の一因ともなつた。

## ・アイヌ文化記念講演と実演について

河野広道氏の記念講演やアイヌの実演は遠く海を渡つて参加された先生方には一番印象的だめづらしかつたのではないかと思う。アイヌの実演の時などは、みんな写真機を片手に、パチリパチリ。これ一つ覗ただけでも北海道に来たかいがあつたとは一會員のいつわりない話であつた。

## ・恵まれた観光

大会三日間の晴天は勿論、特に三日間の観光二百五十名の内地の先生方はいづれも大満悦であつた。北海道の大自然、雄大な景観は本州に見れない独特のものがある。雄大無比な美幌峠の景観、摩周の神秘的な幽げんに心うたれ、しばし声もなく観入っている姿、バス内のソーラン節にも全国大会の成果の一端が伺われ嬉しい極みであつた。

## ・大会参加の人々の声

北海道で全国大会を開いてもらえる日を皆が待っていた。その念願がかなえられ大変うれしい。「つくり出す力」という平仮名書きの大テーマで、従来とはちがつた角度からの教科の精髄を一から皆で考えてみる企画はよかつたと思う。清新な緑の大自然の札幌でお互いが謙虚な心で、しかも積極的な深まりへの努力を続けることは美しい。こうして各自の胸中に咲いた花は、必ずそ



【上】 参 会 風 景  
【下】 主 会 場 全 景

れぞれの学校で子供達の体の中に結実する。この収穫は大きいと思う。なおこの後北海道という大自然の造形に親しむことが出来ることはうれし。

・雄大で牧歌的な風景

大会は初めてですが非常に期待していたので長い開会式には閉口しました。内容を充実させるためにもっと運営を工夫する必要がありますように思います。しかし北海道は素晴らしいですね。道民はとても親切で少し雄大で牧歌的な自然の風物は実に美しくロマンチズムを十分満足させてくれます。「栃木県の一女教員」

・強い研究組織に感銘

私は長い間、北海道にいたものだから札幌におりた時、これは本当の北海道でなく、東京の造形文化の直移入である街のようなものを感じたのです。北海道というものから根の生えた造形文化、このようなものが、これでよいかというのが第一印象です。もしこれが造形教育とながるとすれば教育というのは大変なものだと思ひ、この度全国大会がここであったことがとてもよかったですと思ひました。とても強い研究組織が出来、本当の北海道を見なおしているようです。個々の研究から集団の研究へと進んでいます。来会者の学ぶところでありました。北海道の皆様これをエポックにすばらしい北海道文化を作ってください。

「東京葛飾小学校 大石屋 巖」

・大会準備の苦心

大会三日間を無事果し得て委員一同ホット一息安緒の思い、会場を出た頃は夜の空には星がキラキラと輝き、北海道の美術教育の前途を祝福するように思えた。それは過去数年にわたる重苦しい責任から解放された喜びと、あらゆる苦難と闘いつつ今日大

任を果たした安緒感からくるものであった。思えば第五回金沢大会以来しきりに次期大会は北海道という呼び声が強くなり、そのたび毎にやせる思いで回辞し続けてきたのであるが、第六、七回大会の情勢から、どうしても回避出来ない運命に立ち至ったのである。然しながらこの大会を誰れの責任において誰れが引受けて実行するものか、いよいよ北海道の状態において、やはり、私たち連盟が自主的に背負わなければならない運命だ。私は当時教頭という立場で、ぶだんの職務でさえ多忙なからただであったのでこの大仕事を完遂することの困苦は火を見るより

にあきらかであった。私はこのため数日苦悩したが、千葉校長の深い理解と校内の先生たちの激励もあって、私自身としては一生一代の仕事として生命をとうしてやりぬこうと悲壮な決意を固めたのである。そこで連盟を背負う常任委員の人々にも計りいよいよ準備工作に乗り出したのである。

昭和三十年十月三日、幼、小、中、高、大指導主事を含む世話人会を組織して数次にわたる会合の結果、十一月に行われた第八回東京大会には樋口校長を団長とする八名の調査団を作り東京大会に出かけたのである。はたして東京大会では満場一致、北海道が選ばれ、樋口校長が本道を代表して全国三千名の壇上に立ち、次期大会を引受ける旨を宣し感激の裡に後贈したことを記憶している。

その後十二月二十一日に産業会館において東京大会の報告会と大会準備に対する機構審議会が開かれた。翌三十一年二月四日中

(あ) (の) (こ) (ろ) 砂 金 隆

思い出すのは、やっぱり全国大会の観光、宿舎の係であったこと。

〆日本のホープ・北海道〆 〆観光北海道の百万弗コース

しかし六月末の締切りには僅か二百。再三の呼びかけて七月末やっと六百二十六の申込みがまとまった。これを早速府県別、宿泊日別、観光コース別に分類して整理、名簿を作製。これには八条中の新宮先生に随分と骨折って頂いた。しかし、この名簿も当日には、取消し、変更、追加と見るも無惨に朱線に彩られた。その上〆お国気質〆というのか決断のゆるい人も多く、Aコースにすれば八千二百円、Bコースは五千八百円。阿寒廻りにしようか、登別洞爺だけにしようか、といったところ。それに無やみと計算の細まかな府県や所謂チャツカリ、ガツツリ型を見せつけられ、鷹揚な北海道人は肝を冷したものだ。

阿寒から登別へのコース二百四十八名、洞爺登別コース四十七名と決定したのは列車の中でのこと、結局この係は最初から最後まで人数の把握で苦勞したことになる。係になった女の先生方は大会もそっちのけで観光受付に三日間奉仕されたことになる。誠に申し訳けなかつたと思つて、今でも思っている。それにこの観光の引率責任者として出掛けてくれた土門先

生・藤野先生―その項をごらん下さい―よくまあ腹を立てないで、ついて行って下さったものと感謝するばかり。

「大会の様子は」と聞かれると、その時の事務部長さんの赤石先生とただ顔と見合わせるばかり……。

大会の終って、二期期の始まったころ、青根県の一先生から〆お世話になった。皆様よろしく。〆と一葉の礼状を頂き、シーンと眼頭に來たのも、その時の思い出。

―大会事業部―(札幌市山鼻小学校)

て準備委員会結成大会を開催、ここに初めて準備会が生れ、大会準備会設置基準案が出来上り、準備委員長が決定され当時陸雲中学校長の佐藤麟太郎氏が就任することになった。この時強く要望されたことは、大会準備にあたっては札幌市を中核として全道が一丸となつて一致協力、人の和を以て準備にあたること、大会はお祭りさわぎにならぬよう国工教育振興のため意義ある研究を進めることなどが審議され、早くも大会準備の基礎が固められた。二月二十四日には引継ぎ会が催され、雪の北海道にはるばる前大会小林委員長外、志田事務局長、増田総務局長が来道、二日間わたる懇切なる引継ぎが行われ、その時大会準備遂行にあたっては血のにじむような努力と、困難、忍従が必要であることを痛感させられた。その後、大会準備機構がととのえられ、委員長

その後十二月二十一日に産業会館において東京大会の報告会と大会準備に対する機構審議会が開かれた。翌三十一年二月四日中





するようにしたい。

三、大会の概要（研究内容）

実演授業

学年	題 材	種別	学 校	授業者
小一	僕らの汽車	工作	常盤小	石丸 雅晟
小三	造形あそび	図案	朝陽小	石塚 潔
小五	明るい学校	図案	天沢小	中野 桂子
中三	抽象的な立体	工作	蘭東中	高城 敬二
聾	へやをかざろう	工作	室蘭聾	高野 欣郎
分科会	助言者	司 会 者	テーマ説明	
一	札学大 島山三代喜	札幌北九条小	常盤小	石丸 雅晟
二	札学大 戸坂 太郎	旭川日新	朝陽小	石塚 潔
三	札学大 藤川 基	帯広小	蘭東中	高城 敬二
四	宮林 繁雄	滝村 虎雄	中野 桂子	
五	札学大 寺井 信一	釧路市教委	武揚小	
六	岩見沢学大 藤野 高常	室蘭 三浦慶次郎	鶴ヶ崎中 諏訪 英雄	
七	函館学大 花岡 一	札幌中央創成小	鶴ヶ崎中 安田 辰夫	

造形連盟高校部のこと

伊 藤 正

高校の芸術科美術工芸教師の集りといったものは年一度の研究集会以外は殆どなかった。少くとも札幌の場合はなかったといっている位であった。このことはひとり高校相互の絶縁だけでなく、中学とのつながりもぶつ切り絶たれた感じであった。それが昭和三十一年の図工の全国大会が札幌で開かれることになったり、また全国美術工芸教育研究協議会がこの少し前に結成されて、どうしても高校美術工芸教育研究の組織が必要になった。図工連盟発足当初から一応名目だけはあった高校部が、この頃から大分はつきりした存在を示すようになり、また全国美術工芸教育研究協議会の北海道研究会も即図工連盟高校部という形にしてもらった。その後の教育課程改訂に対処する運動、中央との連絡等々重要な仕事がある。昨年の第九回全道大会にも高校部会を加えてもらい、全道から集った先生方についても極めて少人数であったが、当面する教育課程の問題について真剣に討議し、その結論を決議事項として大会の名においてそれぞれの方面に要請した。また引き続き八月下旬に東京で開かれた第二回全国高等学校美術工芸教育研究協議会にも出席して、現在北海道が当面している高校美術工芸教育の問題点について議題を提出した。この様な

1、造形素材について

（常盤小一年授業）石丸氏のボール箱などを使った工作「僕らの汽車の話合いから討議に入り、各地からの素材活用についての体験が発表された。大きな材料で中庭を使って遊びの中に学習を進めた石丸氏の授業は好評で、豊富な材料から子供のイメージが豊かに展開されるような学習を進めるようにしたいという方向に話が進んだ。

2、非具象的表現について。

活潑な論議が展開されたが、勿論結論は出ていない。抽象表現と子供の興味や能力との関連が話合われた。授業は（朝陽小三年）石塚氏の「造形あそび」の平面構成だ、自由な構成の中から美を発見させていきたいというねらいであった。「線あそび」「ふしぎな形」「おもしろい形」といったあそびの学習そのものに意義を見出すべきであろう。

3、生き生きとした立体表現について。

「ちり取り」「本立て」のよりな与えられたデザインによる工作ではなしに、生き生きとしたものでありたいという願いから話合われた。それには自由なテーマと子供ながらに必然性の理解できるデザインをさせるという二つの方向がある。関連授業は（蘭東中三年）高城氏でセメントの直かけ工法がとられ、多くの観客を集めた。ここで技術の点に論議が集められ、発見的に解決させていくという方向が支持された。

4、デザインについて。

高校部に関する報告は造形連盟の機関紙を通じて一応お知らせして来たが、高校美術工芸教師があまり独善的にならないで造形教育の大きな流れの中に自分を置いて物事を考えてほしいものと思う。今年第十回の全道大会に高校部会も予定されているので、名目だけでなく実質の伴う部会をもちたく高校関係者の多くの出席を期待したい。また今年から造形連盟の後援を得て「第一回北海道高校美術展」開催の運びになったので、この展覧会を北海道の高校美術教育に基盤を置いた健全な形で発展させて行きたいものである。

（札幌市東高等学校）

講師の助言も多くとり入れられデザイン学習の現代的な意義や重要性が話合われた。子供の学習の中でも重要な領域を示すものであることが理解された。

関連授業は（天沢小五年）中野氏で「ポスター」がとりあげられ、学校生活との結びつきの上から「用」についての話合いが進められた。

5、共同制作について。

テーマのきめ方、グループの構成、年令に応じた共同制作の進め方等話題が豊富に出されたが、結論として論議するよりも実際指導してみてはじめて、その効果の高いことを認識するであろうということであった。敵に注意したいことは、能力に応ずるといっているので、水を汲んだり、絵の具を溶いたりばかりする役目を決めるというようなことは誤りであることが



指摘された。  
6、特殊教育について。

(室蘭聾学校小六年) 高野氏の「へやをかざろう」工作の実演授業は多大の感銘を与えたようだ。常識的にも工作教育が特殊教育において果す役割の大きいことはよく知られているが、狭い技術教育に終ることが多く真に造形教育として創造的な表現をさせることのむずかしさが述べられた。

「特殊学級の造形教育について」紙上発表した(市内鶴ヶ崎中)の諏訪氏の意見にもある通り、作品は貧弱でも人間性の育成につながるものとして本質的な歩みを力強く進めるようにすべきであろう。

7、評価について。

指導者の主観が大きく左右するものであるだけに、独善におちいることのないよう、できるだけ多くの子供の作品に接しし展覧会や画集にも親しみ評価の眼識を養うことの重要性が確認された。

四、運営について

運営の主体が二十才台から三十才台までであった故か、未熟ではあったが、常に精力的な討議の上に立って大会が運営されよく協力できた。全道のベテランの先生方の比判や意見をお聞きし、実に得る処が大きく、本当に大会を開催してよかったという満足感にひたることのできた。

(室蘭市教育委員会・石崎 義政)

そして十年

三 谷 哲 司

本連盟の第一回目の研究大会に小学校の伊藤、石川両先生と研究授業をさせていただいたものです。授業の内容は、粘土を型にして紙のお面を作ることです。生徒と一緒に無我夢中で一時間を過ぎたものです。

それからもう十年間の月日は過ぎてしまったわけです。生徒はどんどん大きくなり、社会状態も大きく変わってきていますが、私の頭の方はさっぱり進まず困っている状態です。頭をかいたり、汗をかいたり、恥をかいたりして、生徒に絵をかかせたり、かく意欲を作ったり、物を作らせる場を作ったりしています。でもいつも感ずることは、うまくいったということが十年間一度もないままに過ぎてしまっていて困っている状態ですが、なにかよい考えをきかせて下さい。これから毎年毎年の研究大会が各地を回っているわけですが、大会の事務局をはじめ、関係される先生方御苦勞様ですという語でむすびいたします。

(附属札幌中学校)

市 樽 小 第8回  
校 場 富岡小学校  
昭和年337月29.30日

一、研究主題  
「図画工作学習によって、児童生徒の人間性がどのように培われるか」  
——現場における——  
——具体的実践を通して——  
●分科会テーマ  
① 児童の発達段階に即した造形活動は如何にあるべきか。

- (第一分科会) 「幼児における自己表現遊びとしての造形活動」
- (第二分科会) 「低学年における生活経験を豊かにする造形活動」
- (第三分科会) 「中学年における表現材料を活用する造形活動」
- (第四分科会) 「高学年における構成能力を高める造形活動」
- (第五分科会) 「中学校における創造的表現を高める造形活動」
- ② 現在直面する図工教育の危機を打破するための方策は如何にあるべきか。

●設定理由 これはこの年度の道の研究主題である「児童生徒の人間性を培う図画工作」にはつきりした骨格を与える問題であると考えて設定した。

二、講演会  
千葉大学教授 森 桂一先生

助言者・司会者

分科会	助言者	司会者
第一分科会	道 重野 亨 孝三 戸坂 太郎	小樽北山中学校 若松 六弥
第二分科会	学大札幌分校 藤野 高常	渡島亀田小学校 滝村 虎雄 小樽天神小学校 中山 啓
第三分科会	学大札幌分校 藤川 基	室蘭常盤小学校 石崎 義政 小樽手宮小学校 黒川 与市
第四分科会	東 大和屋 蔵 学大札幌分校 高田 三代喜	札幌西小学校 伊東 将夫 小樽朝里小学校 富田 弘
第五分科会	学大札幌分校 寺井 信一	札幌向陵中学校 鈴木 嘉吉 小樽末広中学校 山本 泰夫
第六分科会	学大函館分校 宮林 繁雄	札幌曙東中学校 土門 孝 札幌曙明中学校 齊木 果一

国際的にみた日本の美術教育

東京都蓮町小学校教諭 公榮 源一郎先生

々工作教育のねらいは何処にあるか

三、大会の概要〔各分科会の結論〕

(第一分科会)

幼児の生活経験を豊かにしてやるためには、幼児には幼児らしいの観察力「見方」があるのであるから「つくるう」とする意欲を高めるよう指導すべきで、教師の命令によって行われるべきではない。また「つくる」仕事についての技術「テクニク」についてはこれは発見されるものであって教えこまれてはならない。

(第二分科会)

(1) 抵抗を排除するためには父兄の指導をする必要がある。また用紙の大きさ形、質等をかえて表現させると共に、材料を豊富に与えて造形あそびをさせる。

(2) 助言指導を適切にするには、子どもの身近かに経験したもや感動したままを表現させることと、表現中は技術的なことについてはやかましく言わない方が望ましい。また、指導者が決定的な言葉を与え行動を要求してはならない。

(3) 共同製作に当っては一人一人の製作意欲を満足させることが大切であり、そのためにはポス的な子どもの指導に心し、グループの人数は題材と子どもの実態から適宜工夫したい。

(4) 作品の展示に当っては、出来る丈全員の作品をはるようにつとめ、子どもと共に話し合うことにより、他人の模倣をしないように配慮しながら、表現意欲を高め、創造活動を助長すると共に概念くたきの参考としたい。

公開授業・テーマ説明者

分科会	(児童・生徒)	(授業者)	(説明者)
第一分科会	みよし幼稚園児	麻生 喜久子	阿部 頼俊 サイレス・ ヴィツテル
第二分科会	小樽富岡小学校 一年	高橋 好子	村 三郎
第三分科会	小樽若竹小学校 四年	相沢 一夫	庄司 忠直
第四分科会	小樽界小学校 五年	富沢 謙	樋口 忠次郎
第五分科会	小樽長橋中学校 一年	氏家 和夫	新覚 吉郎

(5) 評価と作品の処理に当っては教師の主観が入らぬようにつとめ、発達段階に即した評価をする。また、子どもに劣等感をもたせないよう配慮する共に、横にみるばかりでなく縦(一人)にみる観方も大切である。

(第三分科会)

(1) 造形素材(工作材料)は教師の側から与えるものか、子供の側から発見させるものかについては結局造形活動のねらいによつてきめられるべきであり、教師自身の研究や努力の裏付けが必要である。材料の入手方法については地域性を生かすと共に、安易な既製材料に頼ることはいさむべきである。

(2) 表現活動についてはその普遍的な表現のしかたを感えてきて技術指導を行うことは誤りである。また、造形の要素をせんじつめ系統的に指導することが大事で、片々たる感覚訓練のくりかえしはいましめられなければならない。

(第四分科会)

(1) 五、六年の時期における造形上の障碍は、構成的指導のもつ知的、意志的なものによって克服することが出来る。

(2) 構成指導による造形感覚や技能は児童の調和的人間性の重要な要因であり、さらに造形のもつ統一感覚の陶冶により円満な人間関係をもたらす。

(3) 構成指導の方法として、あくまでも子供の実態に即し、地域の特長性の中より適切な教材を選び、子供の意欲やその過程を重視して行きたい。

(第五分科会)

(1) 中学校における想画は、現実生活に即したテーマを基にして想画させることが望ましい。

(2) 評価については、教師の嗜好に依つてのみ優劣をつけることは反省しなければならぬ。また、作品の結果のみを評価するのではなく、その作業過程も尊重されねばならない。

(3) ベーパーテストについては入試問題ともからんで可否が出たが、必ずしも全面的に否定されるべきものではなく、要は出題方法が適切であるか否かにあると思われる。

(4) 各教科を通じての人員配置に適切を欠き、図工科教員の不十分から一週二時間の図工が半分は縮小せざるを得ないという一部の学校の現況については、学校自体の問題として活潑に論議する

ばかりでなく、教委へ積極的に働きかけて現状の打破に力を尽すべきである。

(第六分科会)

基本的な態度として、図画工作科は情勢分析の結果、現段階では図工、離論と一本論の立場に拘泥せず技術科を美術科と切りはなせないものとして、技術科を抱え込む立場で方策の論求をすることにした。方策としては時間増加があげられ、その理由として札幌地区の研究資料を基とするような立場で時間増加を叫ぶこととし、中学校各学年二時間が必要であるとの見解に立った。さらに本大会に提案を行い関係方面に働きかけることにし、全国大会にこの意志を反映させることにした。

四、運営の反省と苦心

各大会共そうであったことと思いますが、第七回室蘭大会で次期大会地として小樽が指定された時以来一年間は本大会に一時として心の休まる日はありませんでした。色々な大会に出席した第三者的経験はあつても己が大会の企画側に立たされてみると、全く濃漠としてどこから手をつけていけばよいのかも分らず、焦燥と不安に駆られたものでした。ともかく市の図工科研究部の主だった者達五、六人が頭を集めて相談することから始めました。すべてが新しい経験でした。それでも企画は次々と樹てられ、事務局の机の上にはプリントの山が築かれ、壁には組絵図が貼り出され運営推進目録の一覧表に真赤になる程未が加えられていきました。各種の会合も精力的に開催され推進されていきました。その結果、大会が近づくに従って焦燥と不安は次第に薄れていき、百名に及ぶ全市図工部員の固い結束は明らかな希望と自信に満ちていきました。

市教育委員会の指導助言は極めて力強く、適切であったし、会場校の全職員並びにPTAの方々の献身的な応援を得ることが出来、連盟本部からの指導連絡は明快でした。お蔭で内容においても参加者数においても、連盟に一大エポックを画する大会となったという参加者からの賛辞を得た。その欲びは長い教師生活の中でも、そう度々味わえるものではないことでしょう。今にして想

第9回 帯広市  
会場校  
帯広小学校  
昭和34年8月2、3日

一、研究主題  
「新段階における造形教育のあり方」  
教育課程改訂をめぐる全道の総力を結集し十分に検討をなし、地域性の問題特に僻地教育を取り上げた。要は父母の図工科に対する関心、理解を深めるために如何なる方策があるか。

二、講演会……松原郁二先生

講師……公榮源一郎先生

講師……坪内千秋先生

造形教育における芸術性と技術性について松原講師から、造形の本質、形態造形、表現と生産、デザインの成立と新指導要領の教材分野と指導上の重点について講演あり。

三、大会の概要

造形教育は本来の使命である創造力、芸術性の伸展を中心に人間形成という重要な役割をもつものである。現下の文教政策の一

つても、唯々全道各地の連盟委員の方々に衷心より感謝したい気持ちで一杯です。己が苦しかった丈に次期大会地の方々の御苦労を推察し、細微に互る一年間の記録を残し帯広へ引き継ぐことにしました。聞くところによるとさらに網走へ引き継がれたそうですが、今後共助け合い力を結集して北海道の造形教育を振興させてまいりたいと存じます。(小樽市富岡小学校 中島 雲玄)

環として教育課程改訂が行われ新指導要領は造形教育の将来を規制するという新段階に立ち至った。この時に当り、我々は厳正なる批判検討を(全道の総力を挙げて)加えなければならぬ。勿論現下の状態では幾多の問題もあり、地域によって解決を見なければならぬ問題も残されている。

新段階における地域の問題として、父母の図工科に対する関心理解を深めることが先決問題であって、この問題が少しでも効果を示した時に造形教育の将来への光明は自ら見出されるのである。

父母の協力こそ偉大な力であって、我々だけが巨万言をついやしても貧者の一燈にも値しないのである。

この点において、分科会場における、父母の活潑なる発言と内容はPTAの将来の在り方を如実に物語ってくれたものと思う。

ある母の子供の絵の見方について、教師、講師と三つ巴の論戦は永久に忘れられない一コマであると思う。父母会員として三百名、未だかつて見ない。父母の参加は全国でも例を見ないケースである。

尚僻地における図画工作学習にどんな問題点があるかに関して

助言者・司会者

分科会	助言者	司会者
第一分科会	学大札幌分校 戸坂 太郎 渡島亀田小学校 流村 虎雄	十勝音更小学校 富田 鉄雄 札幌北九条小学校 高橋 栄吉
第二分科会	学大札幌分校 藤野 哲夫 札幌八条中学校 高野 哲夫	網走清川中学校 加納 利雄 帯広西小学校 中村 知久
第三分科会	道庁私学係 重山 孝三 釧路指導主事 小野 武	札幌中央創成小学校 和田 芳郎 札幌北山中学校 若松 六弥
第四分科会	学大札幌分校 寺井 信一 学大札幌附属小学校 伊藤 忠	学大札幌附属中学校 三谷 哲司 室蘭市常盤小学校 石崎 義政
第五分科会	学大札幌分校 島山 三代喜 札幌東中学校 上門 孝	小樽長橋小学校 樋口忠次郎 札幌曙小学校 長谷川 伝
第六分科会	学大札幌分校 望月 正雄 札幌西小学校 伊東 将夫	空知教育研究所 本田 哲也 札幌啓明中学校 斎木 泉一
第七分科会	講師 松原 郁二	札幌 東 高 伊藤 正

公開授業・テーマ説明者

(分科会)

(児童・生徒)

(授業者)

(テーマ説明者)

第一分科会	帯広西小学校二年 大賀 正雄	帯広光南小学校 村田順之助
第二分科会	々上清川小学校二・三・六年 岡田 宏平	帯広大正小学校 観野 繁雄
第三分科会	々双葉幼稚園 児井上 節子	帯広幼稚園 英 三四子
第四分科会	々明星小学校六年 河野 路明	帯広第一中学校 石川 邦夫
第五分科会	々帯広小学校三年 頼田 晃	帯広小学校 熊代 弘法
第六分科会	十勝下音更中学校一年 武田 伸一	十勝御影中学校 安達 大元
第七分科会		札幌西高校 高橋 良助

も、今までの都会中心主義の研究の殻を破って、真実に悩める北海道の特殊性を研究することに力をそそいで貰ったのである。

これらの大きな魅力が山間海辺の僻地の参加者を多数集めたものであって、僻地における図工科の位置とそれに対処する教師自身の問題と地域社会の問題並にマスコミの影響等について活潑な意見が交換されたのである。

あまりにもめぐまれない豊漁村の奥地の子供は、現実には生活して行く事だけで精一杯の世界をあまりにも見せつけられているので教育は二の次になるのであって、功利主義に走りざるを得ない現状にある。

より良き、楽な生活をするためには、よりよい職業につくことを父兄はねらっているのであって、夢のない。豊かな感情もなく無味乾燥な大人の世界に生きたくしかばねとなっているのである。

せめて子供の世界だけでも、大きな抱、力と限らないの造形と想像に生かしてやりたいものである。

小さい学校の図工教育という二学級の複式カリキュラムの編成に当って立派に仕上げた実践している学校の発表等も他の手本として充分なものであったと思う。

各地区研究発表

分科会	地区	研究題目	発表者
第1分科会	渡川島 旭市知 空	父母の図工科に対する関心、理解を深めるにはどんな働きかけをしたらよいか。	砂原村掛瀬小学校 小林 弘治 旭川市北鎮小学校 入井 映生 上砂川町東小学校 側瀬 宇太郎
第2分科会	釧路支庁	新段階における地域の問題点について	
第3分科会	空知 釧路市	幼児期における造形的表現活動をこう導いた 幼児の造形的表現指導の実際	三笠市奔別小学校 寺 富 国治 釧路市かすみ幼稚園 横田 ふみ
第4分科会	室蘭市 石狩支庁	工作的内容の学習と郷土で得られる素材をどのように利用しているか。 工作的学習の移行期におけるカリキュラム案について	室蘭市室東小学校 高城 敬二 江別市江別小学校 佐賀井 勇
第5分科会	空知 空知	デザインの指導をどのようにするか。 デザイン教育、熟成への5カ年計画	月形村月形中学校 山下 泰宏 美瑛市東明小学校 浅野 日出男
第6分科会	札幌市	中学校における美術的学習の指導内容について	札幌市北辰中学校 太田 達雄

何れにしても、造形教育を進展させるためには、子供の幸福を考えて、如何にして父母と結びつくか、働きかけるか。  
教師は父母を啓蒙するのではなく共に悩みを持ち共に解決して行く事が大切である。

親達を知りたがっている事については、しっかりと考えをもっていることで、ウヤマヤであってはそれこそ大変である。常に父母の信頼をうけて曲りなりでも確固たる自信と判断力を持っていることである。

どんな小さな発言でも取り上げて、適切な解決を与えてやること。常に数多く発言する者はいくらでも発言の場があるが、めったに発言する事のない親達の発言こそ、それがどんな小さな発言や愚問であっても、真実味のあるものであるから、大きく取り上げてやらなければならないと思う。そしてその効果を急がぬことが大切である。

親達への働きかけとして只単に図工科のみを対称せず、あらゆる教科を通してその中に上手に造形教育の含まれている事をさとらせなくてはならないものであって、決して図工科一点張りではいけないのである。われわれの日常生活には造形なしでは暮せないものであって、そこに造形教育の重大さを見出せる事が緊要である。

四、運営に当って

大会運営に当って、新興都市とはいいながら人口十萬、財政面もなかなかで市からの補助金も意のままではなく、資金面に大きな壁が出来たが、まあサークル員と運営委員の熱次第で何とかその難関を突破しようと相談一決し運営に拍車をかけた。

創立十年の時

斎 木 泉

最近の美術教育誌をひろげると、どれもが改訂指導要領の解説とか批判的記事が見られる。全国的にもりあがった現場教師の反対の声も散発的に終り、その間にあって改訂、移行とすすめられてゆき、移行の問題と取組みつつ、また一方で、改訂に反対し、時間削減、基準性に含まれる改悪をあらためるための運動をもちあげてゆかねばならない。

この運動を推進してゆくために、中学校の図工科教師が丸となって対処してゆくためには、本連盟の一部会として、中学校部会が設けられたことは、諸先輩の深い理解があったからこそであり、誠に嬉ぶべきことであります。

とに角図工科、造形教育を中学校で二・一・一の時間数にしてはならない、どうしても二・二・二を確保しなければならぬのです。連盟創立一〇年、「一〇年」と書けば三字で誠に短い「十年」を一期とすれば、基礎時代を終えて第二期に入ったとするならば、今後はさらに広がり深まりの段階に入ったと言えるのではないだろうか。

北海道の子供に香高い造形教育を味わわせるためにも本連盟の発展に努力しようではありませんか。  
(札幌市啓明中学校)

外交其他により予算をどうやら獲得したが次に来るものとして、研究態勢であって、帯広独自のテーマを立てようと色々連盟本部相談したが、特に目新しいものもなく帰するところは、新段階における造形教育のあり方になってしまった。  
そこで分科会において小テーマの中に特性を生かすことになり僻地教育と、幼児教育を強くとりあげ、如何にして父母と連携をとるか?その方法に就いての研究に主力を注ぐことになった。

そのためには幸にして帯校に父母学級があるので話を打ちかけたところが大賛成でまた二三百名の参加希望者のある事が分った。ここにおいて勇氣百倍、全道的に幼稚園並に父母参加を呼びかけたのである。

僻地からの参加者がぞくぞくとして申込み受付係もてんてん舞をするほどであった。  
電報電話で申込み者も相当数あつてうれしい悲鳴をあげたがその反面、ある地方では全々申込みがないのでよく調査してみると、何たる事か案内状並に申込用紙が委員会、教育局、其他でストツプさせられて学校の方に届いてないというナンセンスもあった。宿泊の点は悩みの種で、平均したサービスが出来兼ねた事は残念であった。

尚大会場の食堂経営については父母学級が引受けてくれたので実に盛大に皆さんのお腹を充ててくれた事と思います。

五、観光について

A コースとして然別湖

B コースとして糠平人造湖

C コースとして阿寒三湖めぐり

D コースとして広尾黄金道路を経て襟裳岬へ何れをとつても天候に恵まれ予期以上の成果を挙げ得た事を心から喜んだ次第です。  
(帯広市帯広小学校 平塚 義雄)



児童生徒	授業者	児童生徒	授業者
網走網走幼稚園	松野敏子	網走網走小学校六年	武田俊夫
網走中央小学校一年	三浦 巖	網走第一中学校一年	堀北淑子
網走西小学校四年	須貝喜久晴	網走平和小学校一・二年	谷口寿美子

造形ソーラン

胸に造形の火を燃やしつつも

語る友のない頃

ヤーレンソーラン ソーラン ソーラ

ン ソーラン ソーラン ハイハイ

○右に歛もち左にバレット

今日も暮れるか 山の月 チョイ

エーエンヤーンサン どっこいしょ

あゝ どっこいしょ どっこいしょ

○沖は時化<sup>しげ</sup>だよ スプリは吹雪

暗い灯かげで のみを研ぐ

前に立ちほだかる壁に ともしれば

中央文化に心は傾く

○スプリおろしに 頭髮さか立てて

東京夢みた こともある

しかし、やはり同志は在った

誘れば楽しい夢が湧く

○ひとりいるより 三人 五人

サークルふとるぞ 山越えて

新しい造形活動の火はひろがった。

○この子かわいや 大きく育て

デカルコマニーであいましょう

○みんな来い来い 車座になれよ

色と形のデスカッション

人間喪失の危機を救うもの

北海道よいとこ アイヌも熊も

造形連盟で 日が昇る

きびしい和やかさ

樋口賢治

北海道造形教育連盟が創立十年を記念する仕事の一つとして、十年史を刊行されるという。心の底からおよろこびを申し上げたいと思います。平凡な言葉ながら、随分早いものだと思つていました。東京書籍の一員として先生方とお親しくさせて頂いたのは、連盟が編集されることになった北海道版教科書「新しい小学図画工作」の企画がまとまりかけた昭和二十八年の夏からであったと思います。札幌で幾度か持たれた編集委員会、東京での合宿討議、実に慌しく、実にテキパキと仕事が選ばれたあの当時のことも、今は懐かしい思い出になりました。門外漢のわたしには先生方が非常に熱心に、精力的に仕事をお進めになりながら何時も楽しい和やかな雰囲気の中にむすびついて居られるのに感動させられたのでした。

それにしても当時からもう八年の歳月がたつてしまいました。例年開かれる全道大会などわたくしにとつても楽しみの一つになつていますが、函館、釧路、室蘭、小樽、帯広の中、釧路だけは出かけられなかったことを今でも残念に思っています。昭和三十一年の札幌での全道大会なども大きいお仕事であったと思いません。

また八年の歳月の間には大会ばかりでなく研究会や講習会を通

じて全道各地の先生方とも随分親しくさせて頂いたとき、あたたかい御支援をも受けて来ております。どの地方に行くときでも、先の連盟の先生のお顔を思い浮べると、お眼にかかる楽しさでこころが開いて来る親近感を持つようになって来ました。わたくし自身も造形連盟という集団の中の一人であるとてもいえるような気持ちになっております。実にうれい限りであります。

絵もかけない。土もこねれないというわたくしが、そんな気持ちになるというのは一体何故だろうか。仕事という以外に、先生方が持つておられる人間性にある共通のものが、わたくしにそんな感じを持たせているのではあるまいか。仕事の面では勿論わたくしは八年の間にいろいろと温かい御指導を受けて来ております。それは常々から感謝しているのですが、今ふり返って見ると、連盟のどの先生にもわたくしに仕事ということ以外で親しさを感じさせるあるものが、確かにあるということがあります。それが今あらためて私のこころを打ちます。

造形教育連盟の先生方は、教育集団として大きな目的をもって活動しておられるわけですから、研究会などで激しく討論される場のあることは当然ですが、それでいて不思議なくらい、会議の底にあたたかいものが流れていることに、たまたま居合わせたわたくしが驚いた記憶があります。文学でも美術でも、それが創作される場合には、みなそれぞれ作者の考えなり、好みに従うこととは当然であります。それはその人の信念として発展すべきものでもあると思います。造形教育連盟の先生方は教育者という大きな立場を持たれるとともに、個人として多くの場合に絵や彫塑の作品をみづから苦しみ、削り出される苦業をも併せて持つておら

れる方々であります。従つてそのお立場からの信念や主張は人一倍つよく持つて居られるわけですし、その方向も決して一樣ではない筈であります。

はげしいやりとりが行われるのは当然な筈であります。それでいてきびしい中に溝えられている和やかさ、あたたかさ。これはやはり先生方が持つていられる作家としての人間性がこのような場を持たせているのではありますまいか。

随分はげしいやりとりが行われているようでも、その底に

## 造形教育十年を省り見て

鈴 木 嘉 吉

昭和二十年九月をきして、日本の歴史は一変した。図画工作教育もまた、戦前の様式をすてて、ここに国際的な真の図工教育を樹立すべく、同志二十数人相呼応して、北海道図画教育連盟を結成してから、早や十年記念大会を迎えるに当り、誠に感無量であります。

省り見れば、北海道の図画工作教育は三十数年前より、我々の先輩であり、恩師である所の、吉田五左衛門、藤野高常、繁野三郎、桜井忠、等の先人の並々ならぬ苦闘によつていばらの道は開かれて来ました事は私から申上げるまでもない事でありませぬ。

戦後民主教育の実施と共に、これら大先輩の後を承けて、同

お互にゆるし合っている同志的な理解がなければ、あのあたたかい雰囲気は出て来ないと思います。芸術上、教育上のお立場だけでも主張し合う限界を心得ておられての理解がなければ、到底こんなごやかさは出て来るものではあるまいと思ひます。集団としてそれは容易ならぬことであるにちがひ。そのことを改めて感じ、また教えられたわけであります。

(東京書籍北海道出張所長)

志相集り、本道における本教育の中核体として「今後の図工教育は如何にあるべきか」芸術教育を通しての人間形成はどのように推進すべきか」等々の大目標の下に共に談じ共に論じて時には夜を徹しての研究も、一度ならず行われた事もあった。

こうして並々ならぬ努力をつづけて、その間時代と共に進み名称も「造形教育連盟」と変り、今日ここに目出たく、十年記念大会を迎えました事は、皆さんと共に深くおよろこび申上げると共に、諸先輩の方々に厚く御礼申上げる次第であります。

しかしながら、ようやく方向を見定め軌道に乗つてまいりました、図工教育は、今日再び教科課程の大改変により再び、大なる危機に直面いたしております。願わくはこの十周年記念大会を機に、当局の猛省をうながし、真実の正しい図画工作教育を打ちたて、次代を担う児童、生徒の幸福のために、我々は、さらに、相携へ相結束して、この道に努力しようではありませんか。

— 前副委員長 —

(札幌向陵中学校)

## 忘れられない

和 田 芳 郎

男は割に過去を忘れ勝、女は割にこれと反対な立場が多いように思う。恋愛、結婚、出産、こんなことを友人に話をしたら「当り前だ」と一笑になされたことがあったが……。

私が初めて全国大会に参加したのは附属の伊藤忠君と京都大会に参加したことである。

伊藤君の参加のいきさつは不明だが、僕のは今でも苦笑する終戦後、前の学校「当市の北光小」で全道大会を開いて職員全員の公開授業等を強行して大いに気えんを上げた直後、第二回全国大会(京都市)開催の案内状が二、三枚来た。今から十三年前、うぬぼれ高い私は、北海道代表に推薦されたと早呑込みをしたのである。早速道教委に単独参上したら、この係が土肥次男指導主事さんで「道代表のつもりは案内ではない」といい、私は「代表だ」と頑張つて到々旅費が出してただけるように、お骨折をいただいた。京都の宿で伊藤さんは同室であったのに、夜、山形寛氏等と祇園にお出かけ(伊藤氏は清レン潔白の士)残った私の部屋をさかかんにして東京都の美校出身者と文検出身者と高師出とが部屋別に固まって、どんちゃん騒ぎ、あげ句の果て私の部屋にのりこんで来て「俺の著書を読め」といいながらボンと投げ出された紙三枚の印刷物：畜生残念：帰途、新婚なお香り高い伊藤さん奥さんの土産が、京染の帯と下駄のようだった。初霜の北海道では美術教育会とかが初の声をあげ、本道造形教育の黎明期持廻り式

の開催方法が、地域の発展方法として絶対であることの必要性を野村、新妻、砂金、赤石氏等の先輩に強く強く要望した。

組織とは名称だけ。当時、数えざるかりの同じ人間が何度も何度も寄り集まって明治維新の志士もかくやあらんかと想像する当時である。紅顔の同志も白髪をいただき、ともかく今日の全道造形教育に半生の寿命を捧げたであろうことを、過去として忘れられない。男の記憶二つ。

(札幌市中央創成小学校)

## 連盟酒豪小伝

佐 藤 哲 夫

昭和三年某夜、札幌の常任委員数名が酒場で顔を合せた。新参の私は造形酔迷論を拝聴、やがてY先輩をお送りすることになった。

不馴れの私は懸命に車をさがしてはみたものの、右から乗られたとたんに左から出てしまわれる。私は日頃温厚篤学なY先生の意外な腕力にあきれて、全く主導権を失ってしまった。さらにどろいたのは、足がすすきのに入った頃から、街の天女・パーテン・流し音楽家・花売り・どすのきいた兄さんに至るまで、どの顔もどの顔も「Yさんお今晩わ……」とくる。

私は奇妙な錯覚の中をおよいでいた。気がついた時は午前三時自宅まで送られていたのである。

私は謝意を表すべく目下修業中であるが、午前三時はY先輩の連盟公認時刻であったのである。

(札幌市八条中学校)

# 北海道造形教育連盟規約

## 一、名称と目的

本連盟は北海道造形教育連盟といひ、北海道画工作教育の振興をはかるを以て目的とする。

## 二、事業

本連盟は目的を達成するためつぎの事業を行なう。

- 研究会・講演会・展覧会の開催及び後援
- 造形教育に関する教科書、教材、教具等の研究
- 機関誌「北海道造形教育」の刊行
- 他の造形教育団体との連絡・提携
- その他造形教育振興上必要な事項

## 三、組織

一 会 員……正会員、本道幼・小・中・高・其の他これに準ずる学校の教職員、賛助会員、本連盟の目的に賛同するもの。

2 サークル……本道各地にサークルを置き、正会員は原則として、これに所属する。

3 本部……本連盟は本部を札幌におく。

## 四、役員及顧問

### 1 構成及び任務

- 委員長 一名(本連盟を代表する)
- 副委員長 若干名(委員長の補佐及び代理)
- 会計監査 二名(会計の監査)
- 地区委員 地区二名(地区サークルを代表する)
- 常任委員 若干名(本連盟の運営)
- 顧問をおくことができる。

## 六、経費

本連盟の経費は、会費・専業収入及び寄附金による。

- 会費 個人加入の正会員は年額老百円の会費を本部に納入するものとする
- サークルは年額一千元を本部に納入するものとする。

## 七、事務局

1 本部事務局は事務局長在勤の学校におく。

2 事務局に左の四部をおく。

- (イ)庶務 (ロ)会計 (ハ)研究 (ニ)編集

3 事務局長は、常任委員中より委員長これを依嘱する。

## 八、規約改廃

委員総会の議決による。

## 九、年度

本連盟の事業並びに会計年度は四月に始まり、翌年三月に終る。

(昭和三十五年三月改正)

# 役員・地区委員

委員長 野村 英夫 (札幌東小長) 昭26

副委員長 清水 仁郎 (網走平和小長) 昭35

〃 漆崎 繁雄 (函館新川小) 昭34

〃 泉 秀雄 (旭川東五条小) 昭30

〃 齋藤 富男 (赤平茂尻中) 昭34

〃 井田 俊末 (小樽市) 昭26

〃 鈴木 嘉吉 (札幌向陵中) 昭26

〃 加藤 彬 (函館湯の川小) 昭28

〃 平塚 義雄 (帯広小) 昭30

顧問 吉田五左衛門氏 戸坂 太郎氏

〃 繁野 三郎氏 花岡 一氏

〃 藤野 高常氏 朝倉 力男氏

〃 井田 俊末氏

〃 新妻 清 高橋 栄吉

〃 赤石 武士 荒木 アイ

〃 長井 孝二 長谷川 伝

〃 中川 大三 橋本 富

〃 種市誠次郎 斎藤 一雄

〃 和田 芳郎 砂金 隆

〃 伊東 将夫 伊藤 恵

## 地区委員

土門 孝 伊藤 正

大田 達雄 高橋 良助

藤野 隆 鈴木 嘉吉

渡島 滝村 虎雄

〃 天野 富蔵

〃 函館 越田 一喜

〃 古谷 格

〃 後志 高野 年男

〃 佐藤 一郎

〃 室蘭 諏訪 英雄

〃 石丸 雅晨

〃 苫小牧 遠藤 未満

〃 鹿毛 正三

〃 小樽 樋口忠次郎

〃 新覚 吉郎

〃 札幌 和田 芳郎

〃 土門 孝

〃 伊藤 正

〃 江別 諏訪田勝衛

〃 佐賀井 勇

〃 三笠 寺館 国治

〃 山本 正夫

南空知 森 松治

〃 真田 七郎

〃 本田 哲也

〃 側瀬 太郎

〃 北空知 山本 栄蔵

〃 尾崎 定吉

〃 岩見沢 中村 幸元

〃 但野 栄一

〃 夕張 高橋 彦七

〃 黒滝 好信

〃 美唄 常盤 茂

〃 山田 美則

〃 十勝 富田 鉄雄

〃 安達 大元

〃 帯広 平塚 義雄

〃 釧路 中谷 靖

〃 植草 義二

〃 小畑 武

〃 根室 川野上 彰

〃 岡田 義己

網走 木村 晴一

〃 井上 祐光

〃 吉田 義晴

〃 網走市 中村 知久

〃 佐藤 秀雄

〃 上川 三上 亨

〃 对馬 繁雄

〃 安達 兼雄

〃 旭川 高野 克朗

〃 金子 武志

〃 名寄 伊賀 明

〃 鈴木 一徳

〃 宗谷 菅原 順悦

〃 佐藤 光吉

〃 留萌 加藤 正

〃 小野寺 信夫

〃 岩谷 正雄

〃 稚内 佐藤 隆男

〃 今野 隆二

〃 留萌市 志村 猛

〃 中野 照雄

〃 士別 柳本 哲夫

〃 玉置 英二郎

(昭和35年現在)



ようやく登った峠。そこに立った時。誰でも今のぼつてきた山道のけわしさなどを振りかえって、感慨ひとしおのものがあるであらう。

しかし、その反省から、ふと我にかえって前を望めば、光る雲を背にした青い山肌はいよいよの深い深さをもって人の心をそそる。しかも、その山の彼方にはもっと大きな未知の世界が秘められているにちがいないと思うと、また歩き出さずにはいられない。

わたし達の連盟は今、こんな峠に立っているのだから。麓から歩きはじめて十年、ようやくここまで来たが、山の彼方の空遠く、幸すむ……というそのくにへ続く道の上に、わたし達は今、立っている。足の裏、いづばいのこの土の感触。

そこで、友よ。また歩こうではないか、というわけである。

お忙しい中を貴重な玉稿をお寄せ下さった名士の方に、地区委員の皆さまに満腔の感謝を申し上げますと共に、今後一層の御指導をお願いいたします。

この原稿締切り後に、士別市が正式に連盟に加入したという通知をうけて士別市の同志の烈々たる熱意に対し敬意を表すると共に、全道の鞆帯が一段と強固になったことを喜ぶたい。

四月、山鼻小学校へ転任した。新しい路を十五分歩いて通よう

(新妻 清)

## 十周年を迎えて

長 井 孝 二

互に認め合い助け合いながら図工教育実践の道を進もうと、全道の同志が札幌衛生会館に結集して連盟の旗を挙げてから十年がめぐってきた。その間、南の函館、北の旭川、東の釧路帯広、港町室蘭小樽等々全道各地で大会の回を重ねるたびに集る同志の顔がふえ時には全国から集った人達と日本全土に流れる美術教育思潮について論じ、または現場の悩み苦しみ、喜びなどを語り明日への図工教育に希望と期待を抱きつつ別れ、会い、別れて今日に至った。ここまで積み上げてきた研究は学問的にも強力なものだったと言えないことはない。しかし学問的にも強力なものに向上してきたことを成果と考えることがふさわしいのではないだろうか。ここに第十四の記念大会を迎えるに当たって十年を省み、こころを架橋として今後の研究の進め方についても熟考すべき段階ではないだろうか。例えば一枚の児童画の評価についても、どんな研究でも話題にされながら未だ結論づけられないままに過ぎた十年間を思うとき、今後の研究は評価というひとつの問題でもよいからみんな深く究め、あらゆる角度から研究の手がかりを掴み掘りさげるなど、図工教育でももうすこし学問的な研究を正しく強力におし進めたいものである。これは私なりのひとりよがりの反省であるかもしれないが……。

(札幌市緑丘小学校)

ことにした。何日か目に小学生の頃の見覚えのある松の木を見た。

四十年前のことになる。長兄の家があった東屯田の十八条あたりである。その頃のこの辺は札幌の南端で、小さなサイロの立つた農家があり、その細道のそばを通過して、豊平川へ魚釣りに行くのに、背の高い根曲り竹の林をくぐって行ったものである。

年に一度、夏休みの一日、訪れる兄の家への曲り角の目じるしであった。大きな松の木が二三本、杉の木が二三本、その頃でも高々としていたようだった。

この木立を見て、そんなことを思い出した。四十年前の一、二度の見かけたかすかな印象である。

この頃の暑い日には、この木立の側はまたとない涼の場所である。松の葉の香りをかき、ひんやりと快よい日陰に入り、黒と緑と、すぎ間もる日さしを眺めて、ゆったりとおちついた気分を与えてくれる。

周囲は勿論すっかり変っている。白いしよしゃな高層のアパートも見え、街路も整えられて南へもっとも伸びつづいてい。あの頃でも亭々としていたから恐らく開拓早々の植樹である。今は直径は五十センチを超えている。がっちり根をおろし、枝を張る老松が、白壁にかけをうつして新鮮である。

この緑濃い老松に、抱ようして呉れて、育てて呉れて、力づけて呉れた連盟の姿を思う。

皆でつくり上げたこの記念誌が遠い思い出の糧となることを信じて。

(砂 金)

(隆)

三十度を越える印刷所の二階で悪戦苦闘の幾日ぞ、今さいこの校正終ってほっと一息というところ。

(藤 野)

(隆)

今年の二月二十一日、怪火のため勤務校(札幌市立北辰中学校)

が一部焼失。三年のきかん坊も一ぱいもってましたので文字通り多忙な三学期を終りました。

更にこの六月中旬、山本校長が世界教育者会議に出席のため、アムステルダムに向け出発。おまけに同じ頃、荒井山スキー場横に家を一軒たてていたので、その金策やら取組の研究や、業者さんとの交渉などで全く一時に疲れを感じるようになりました。引越したあとも色々な職人さんが出はいたりするおちつかない日の連続。おまけに先年わすらった腎臓がまたまた活動をはじめお医者さん通いといった状態で、この所生きているのがやっとという具合で、連盟の仕事もさっぱりできず申訳なく存じています。学期末の忙しい暑い日、連日肌に汗をにじませながら熱心に校正に赤べんを走らせている新妻さん、砂金さん、伊藤さんなどにすまないすまないと思いつつながら、ほんのちよっぴりよりお手伝いできず恐縮しています。この夏休には何とか元気をとりもどしてがんばって行こうと考えています。

終りに心から皆様の御多幸と御発展を祈ってべんをおきます。

(太 田 達 雄)

会員の一人の歩みが止ったような時も、他の多くの会員によって連盟の活動は続けられた。連盟がある危機に立ったときも、何人かの会員によって切りぬけて今日に至った。

苦難に充ちた十年の一切について、一人一人の会員の動きがどうだったのかを、えぐり出すような仕方を書くべきだと思ったりしたが、百頁という限られた中では、とても出来ることではなかった。けれども、今後何年かにわたって、前の十年を振り返りかえる必要があつて、開いたとき、そこに最少限度の必要な記録のついでなければならぬ。

百頁はそのためについでやされた。

(伊 藤 恵)

昭和35年7月30日

造形教育の十年

北海道造形教育連盟編集

代表 野村英夫

事務局 札幌市美香保小学校

基水堂 金井印刷株式会社印刷

札幌市南2条西5丁目